植附遺跡第5次発掘調査報告書

1999

財団法人　東大阪市文化財協会

序

東大阪市は、古代より栄えた河内の一画を占めています。市内には、旧石器時代から中世にいたる各時代の遺跡が現在約130箇所が確認されています。なかでも、市域の生駒山の山麓には、今回報告します植附遺跡をはじめ鬼虎川遺跡・鬼塚遺跡・西ノ辻遺跡など全国的にも著名な弥生時代の大集落が存在し、原始時代の繁栄の様子を今に示しています。

また弥生時代だけではなく、近畿地方では数少ない縄文時代早期の遺物が多量に出土した神並遺跡をはじめ縄文時代の遺跡も数多く知られています。もとより古墳時代や後の歴史時代の遺跡も数多く存在しています。本市が、埋蔵文化財の宝庫と言われる所以です。

かつて本市は、商都大阪の近郊農村地帯でありましたが、現在は市域の大半が住宅・工場などに変わり水田地帯はわずかになり、市街化が進んでおります。特に、近鉄東大阪線開通後は、比較的市街化の進捗が遅れていた北部地域においても開発が活発になってきております。

今回報告する植附遺跡第５次調査は、共同住宅建設工事により、遺跡が破壊されるのに伴い実施したものです。

植附遺跡は、西ノ辻遺跡の北に隣接した遺跡ですが、あまり調査が進んでおらずその実態は、まだ不明な点が少なくありません。

この度の調査では、弥生時代および古墳時代に関する新たな発見が多くありました。

本書が、原始・古代の社会を解明するうえでお役に立てれば幸いであります。また地域の文化財の学習資料となりますことを願っております。

最後になりましたが、調査および整理を実施するうえに、多大なご協力をいただきました山村安治郎氏および成和建設株式会社の方々に心より謝意を表します。

財団法人　東大阪市文化財協会
理事長　　日吉　亘

例　言

1．本書は東大阪市中石切町３丁目2653－1において計画された共同住宅建設に伴う植附遺跡第５次調査の発掘調査報告書である。
2．本調査は財団法人東大阪市文化財協会が東大阪市教育委員会の指導の下に、山村安治郎氏の委託を受けて実施した
3．主要な現地調査は、平成４年８月５日から平成４年11月16日まで実施した。調査面積は約571㎡である。
4．発掘調査は福永信雄を担当調査員として実施した。
5．本書の執筆と編集は福永が行なった。
6．遺構写真は福永が撮影し、遺物写真撮影はＧ・Ｆプロに委託した。また、国家座標に基づく基準杭の設置は、内外エンジニアリング株式会社に委託した。
7．現地調査実施にあたっては、山村安治郎氏・成和建設株式会社をはじめとする多くのの方々から多大なご協力をいただいた。記して謝意を表する。
8．遺構実測図は調査に参加した全員で作成し、整図は百合藤厚子・津田美智子が担当した。遺物実測図及び整図は津田・石劉珠貴を中心に行なった。なお、石器の観察にあたっては栗田薫氏の協力を得た。本書掲載の遺物の挿図番号は、図版番号と一致させている。
9．遺構実測図の水準高はＴ.Ｐ値を用いた。
10．調査および本書作成にあたって、下記の方々から多くの教示を得た。心より謝意を表する。
（敬称省略・順不同）
西谷真治・金関恕・深澤芳樹・中村友博・泉拓良・家根祥多・秋山浩三・濱田延充・三好孝一・桑原久男
11．現地調査および整理作業には、下記の方々の参加を得た。
浅井総一郎・兼子隆史・川田学・山田浩成・熊取谷貴司・櫻井真弓

本 文 目 次

I 調査概要 …… 1
1.調査に至る経過 …… 1
2.従前の調査 …… 1
3.調査日誌 …… 2
II 地理的歴史的環境 …… 5
1.地理的環境 …… 5
2.歴史的環境 …… 5
III 層 序 …… 10
IV 遺 構 …… 13
1.弥生時代前期の遺構 …… 13
2.弥生時代中期の遺構 …… 16
3.古墳時代中期末から後期の遺構 …… 18
4.古墳時代後期末から飛鳥時代の遺構 …… 22
5.鎌倉時代後期の遺構 …… 23
6.中世末から近代の遺構 …… 23
7.縄文時代の海食崖 …… 23
V 出土遺物 …… 25
1.弥生時代の遺物 …… 25
1）弥生時代前期遺構出土の土器 …… 25
2）包含層出土の弥生時代前期土器・土製品 …… 34
3）弥生時代中期の土器 …… 34
4）弥生時代の石器 …… 35
2.古墳時代の遺物 …… 41
1）小型低方墳出土遺物 …… 41
1号墳出土遺物 …… 41
2号墳出土遺物 …… 41
4号墳出土遺物 …… 41
5号墳出土遺物 …… 44
6号墳出土遺物 …… 45
2）傾斜地出土遺物 …… 46
3）その他遺構出土遺物 …… 46
4）包含層出土遺物 …… 46
3.奈良時代以降の遺物 …… 46
VI ま と め …… 87

挿図目次

第1図　調査地位置図 …… 1
第2図　調査地区割図 …… 4
第3図　周辺遺跡分布図 …… 6
第4・5図　調査地南壁土層断面実測図 ……11～12
第6図　弥生時代前期遺構平面実測図 ……14
第7図　弥生時代前・中期遺構堆積土実測図 ……16
第8図　弥生時代中期遺構平面実測図 ……17
第9図　古墳時代中から後期遺構（小型低方墳周溝）平面実測図 ……19
第10図　古墳時代中から後期遺構（小型低方墳周溝堆積土）土層断面実測図 ……20
第11図　古墳時代後期末から飛鳥時代遺構（小石室）実測図 ……22
第12図　鎌倉時代後期遺構（溝334）平面実測図 ……24
第13図　弥生時代前期遺構（土壙1・503）出土弥生土器実測図 ……26
第14図　弥生時代前期遺構（土壙234・410・517、溝508）出土弥生土器実測図 ……27
第15図　弥生時代前期遺構（土壙2・3・503・504・ピット218）出土弥生土器実測図 ……28
第16図　弥生時代前期遺構（土壙1・2・503・504・507）出土縄文・弥生土器拓影 ……29
第17図　弥生時代前期遺構（土壙234・368・410・517）出土縄文・弥生土器拓影 ……30
第18図　弥生時代中期遺構（土壙518、溝505・812）出土縄文・弥生土器実測図 ……31
第19図　弥生時代中期遺構（土壙518、溝505・812）出土縄文・弥生土器拓影 ……32
第20図　包含層（小型低方墳周溝）出土弥生土器・土製品実測図 ……33
第21図　包含層（小型低方墳周溝他）出土縄文・弥生時代前期土器拓影 ……34
第22図　弥生時代石器（石鏃・石錐・石匙）実測図 ……36
第23図　弥生時代石器（石斧・砥石）実測図 ……37
第24図　古墳時代遺構（1号墳周溝）出土土師器・韓式土器・製塩土器実測図 ……42
第25図　古墳時代遺構（1号墳周溝）出土土師器・韓式土器・須恵器・鉄製品実測図 ……43
第26図　古墳時代遺構（1号墳周溝）出土土師器・須恵器実測図 ……44
第27図　古墳時代遺構（5号墳周溝）出土土師器・須恵器実測図 ……45
第28図　古墳時代遺構（4・6号墳周溝）出土土師器・須恵器実測図 ……46
第29図　古墳から江戸時代時代遺構・包含層出土土師器・須恵器・国産陶器・石製品・古銭他実測図 ……47

写真目次

写真1　小型低方墳調査風景 ……23

表 目 次

表1　石鏃・石錐形態分類表 ……35
表2　弥生時代石器一覧 ……38
表3　出土遺物観察表 ……50

図 版 目 次

図版1　調査地　上.塚山古墳を望む（北より）下.東地区調査開始風景（東より）
図版2　土層断面　上.東地区南壁断面（北より）下.東地区南壁断面（北より）
図版3　土層断面　上.東地区北壁断面（南より）下.上.東地区北壁断面（南より）
図版4　土層断面　上.東地区北壁断面（南より）下.東地区東壁断面（西より）
図版5　土層断面　上.中地区西壁断面（東より）下.西地区西壁断面（東より）
図版6　土層断面　上.西地区南壁断面（北より）下.西地区南壁断面（北より）
図版7　遺構　上.東地区弥生・古墳時代検出遺構全景（西より）下.東地区弥生時代遺構検出状況（西より）
図版8　遺構　上.東地区弥生時代遺構検出状況（西より）下.東地区弥生時代遺構検出状況（西より）
図版9　遺構　上.東地区弥生時代遺構検出状況（西より）下.中地区弥生時代遺構（竪穴住居1）検出状況（北より）
図版10　遺構　(弥生時代前期)　上.中地区土壙410検出状況（南より）下.中地区土壙410堆積土検出状況（西より）
図版11　遺構　(弥生時代前期)　上.東地区土壙1遺物出土状況（北より）下.東地区土壙503遺物出土状況（南より）
図版12　遺構　(弥生時代前期)　上.東地区弥生時代検出遺構（土壙3）遺物出土状況（南より）下.東地区弥生時代検出遺構（土壙2）遺物出土状況（西より）
図版13　遺構　(弥生時代前期)　上.東地区弥生時代検出遺構（土壙234）遺物出土状況（東より）下.中地区弥生時代検出遺構（ピット440）根石検出状況（南より）
図版14　遺構　(古墳時代)　上.東地区1号墳周溝他検出状況（西より）下.東地区溝1号墳周溝他検出状況（北西より）
図版15　遺構　(弥生時代前期・古墳時代)　上.東地区竪穴住居2・1号墳周溝他検出状況（北東より）下.東地区1号墳周溝北東隅韓式土器出土状況（北西より）
図版16　遺構　(古墳時代)　上.東地区1号墳周溝北西隅韓式土器出土状況（北より）下.東地区1号墳周溝南東隅ウマ上顎骨・須恵器他出土状況（西より）
図版17　遺構　(古墳時代)　上.東地区1号墳周溝南東隅須恵器・土師器出土状況（東より）下.東地区1号墳周溝北東隅韓式土器甕出土状況（南より）
図版18　遺構　(古墳時代)　上.東地区1号墳周溝北西隅韓式土器甕出土状況（西より）下.東地区1号墳周溝弥生時代前期土器出土状況（東より）
図版19　遺構　(古墳時代)　上.東地区南壁1号墳東側周溝堆積土検出状況（北より）下.東地区1号墳東側周溝堆積土検出状況（南より）
図版20　遺構　(古墳時代)　上.中・西地区3・5・6号墳周溝検出状況（東より）下.中・西地区

5・6号墳周溝内供献土器出土状況（南東より）
図版21　遺構　(古墳時代)　上.西地区5号墳周溝内供献土器出土状況（西より）下.西地区5号墳周溝内ウマの歯出土状況（南より）
図版22　遺構　(古墳時代)　上.東地区西壁3・4号墳周溝堆積土検出状況（東より）下.東地区4号墳北側周溝堆積土検出状況（西より）
図版23　遺構　(古墳時代)　上.西地区落ち込み内供献須恵器壷出土状況（南より）下.西地区落ち込み内供献須恵器甕出土状況（西より）
図版24　遺構　(飛鳥時代)　上.西地区小石室天井石落下状況（東より）中.西地区小石室検出状況（西より）　下.西地区小石室検出状況（北より）
図版25　遺構　(中世)　上.東地区耕作用遺構検出状況（西より）下.東地区溝459検出状況（北より）
図版26　遺構　(中世)　上.東地区溝334検出状況（西より）下.東地区第4層上面遺構検出状況（北より）
図版27　遺構　(近世～近代)　上.東地区第3層上面鋤溝・溝検出状況（北より）下.東地区水路2検出状況（北より）
図版28　遺物　(弥生時代前期)　土壙1出土土器　壷・鉢
図版29　遺物　(弥生時代前期)　土壙1・504、ピット218・溝812、包含層出土土器　壷・甕・鉢・縄文土器深鉢
図版30　遺物　(弥生時代前期)　土壙1出土土器　上.壷・甕・鉢　下.壷・甕・鉢・甕蓋、縄文土器深鉢
図版31　遺物　(弥生時代前期)　土壙1・234・包含層出土土器　上.壷・底部、縄文土器深鉢　下.小型壷・壷、筵描き沈線
図版32　遺物　(弥生時代前期)　土壙234出土土器　上.壷・甕・底部　下.甕
図版33　遺物　(弥生時代前期)　土壙234出土土器　上.壷　下.鉢
図版34　遺物　(弥生時代前期)　土壙410・517出土土器　上.甕　下.壷・甕・鉢・底部
図版35　遺物　(弥生時代前期)　土壙410・517出土土器　上.壷　下.壷・甕
図版36　遺物　(弥生時代前期)　土壙2・3出土土器　上.壷・甕・　下.壷・甕・底部
図版37　遺物　(弥生時代前期)　土壙503・504出土土器　上.甕　下.甕・壷・縄文土器
図版38　遺物　(弥生時代前期)　土壙503・504出土土器　上.壷・甕蓋・底部　下.甕・壷
図版39　遺物　(弥生時代前期)　土壙504・507他、包含層出土土器　上.壷・鉢・甕蓋・底部　下.縄文土器深鉢
図版40　遺物　(弥生時代前期)　包含層出土土器　上.壷・甕・鉢・底部　下.甕・鉢、縄文土器深鉢
図版41　遺物　(弥生時代前期)　包含層出土土器　上.壷・甕・壷蓋・甕蓋・モミ痕跡が残る底部　下.土錘・土製円板・底部・粘土板状土製品
図版42　遺物　(弥生時代前期)　包含層出土土器　上.壷体部文様　下.壷体部文様
図版43　遺物　(弥生時代前・中期)　土壙518出土土器　上.壷・甕・高杯・底部　下.混入弥生時代前期土器
図版44　遺物　(弥生時代前・中期)　土壙518、溝505他出土土器　上.壷・甕・底部　下.混入弥生時代前期土器
図版45　遺物　(弥生時代前・中期)　溝812・包含層出土土器　上.壷・甕　下.包含層出土弥生土器
図版46　遺物　(弥生時代前・中期)　遺構・包含層出土石器　上.石鏃・石錐・石匙（A面）　下.石

鏃・石錐・石匙(B面)
図版47　遺物　(弥生時代前期)　遺構・包含層出土石器　上.石鏃（A面）　下.石鏃（B面）
図版48　遺物　(弥生時代前・中期)　遺構・包含層出土石器　上.石鏃・削器（A面）　下.石鏃・削器（B面）
図版49　遺物　(弥生時代前・中期)　遺構・包含層出土石器　上.石錐（A面）　下.石錐（B面）
図版50　遺物　(弥生時代前・中期)　遺構・包含層出土石器　上.ピエス・エスキエ（A面）　下.ピエス・エスキエ（B面）
図版51　遺物　(弥生時代前・中期)　遺構・包含層出土石器　上.太型蛤刃石斧・削器・石匙・石核(A面)　下.太型蛤刃石斧・削器・石匙・石核（B面）
図版52　遺物　(弥生時代前・中期)　遺構・包含層出土石器　上.太型蛤刃石斧・砥石（A面）　下.太型蛤刃石斧・砥石（B面）
図版53　遺物　(古墳時代中期)　1号墳出土土器　土師器甕、須恵器杯蓋、韓式土器甕
図版54　遺物　(古墳時代中期)　1号墳出土土器　土師器高杯・甕
図版55　遺物　(古墳時代中期)　1号墳出土土器　韓式土器甕・甑・鍋
図版56　遺物　(古墳時代中期)　1号墳出土土器　土師器甕、韓式土器長胴甕、須恵器杯蓋・杯身・高杯蓋・高杯
図版57　遺物　(古墳時代中期)　1号墳出土土器　上.土師器甕・高杯、製塩土器　下.土師器甕・壷
図版58　遺物　(古墳時代中期)　1号墳出土土器　上.土師器甕・甑　下.須恵器壷・甕・杯身・高杯・蓋
図版59　遺物　(古墳時代中・後期)　上.1号墳出土遺物　鉄製品・鉄鏃　下.5号墳出土遺物　須恵器甕・高杯・杯身・杯蓋・蓋
図版60　遺物　(古墳時代後期)　5号墳出土土器　須恵器・杯身・杯蓋
図版61　遺物　(古墳時代後期)　5号墳出土土器　須恵器・杯身・杯蓋
図版62　遺物　(古墳時代後期)　5号墳出土土器　土師器甕・羽釜・甑、須恵器壷・高杯
図版63　遺物　(古墳時代後期)　上.4・5・6号墳出土土器　土師器甕・羽釜・杯・円筒埴輪　下.4・6号墳出土土器　須恵器脚付壷・甕・高杯・杯蓋
図版64　遺物　(古墳時代中・後期)　6号墳・傾斜地・溝512出土土器　須恵器壷・長頸壷・甕・蓋
図版65　遺物　(古墳時代後期～江戸時代)　上.6号墳・傾斜地・包含層など出土土器　須恵器杯身・高杯・平瓶・蓋　下.包含層など出土土器　縄文土器・土師器・須恵器・瓦器・国産陶器・中国製磁器・古銭・滑石製双孔円板・砥石・土錘・ミニチュア甕・韓式土器
図版66　遺物　(弥生時代～古墳時代)　上.4号墳周溝・包含層出土遺物　砥石・加工痕のある石材　下.4号墳出土遺物　国産陶器（緑釉・備前）中国製磁器（青磁）ウマの歯

Ⅰ 調 査 概 要

1. 調査に至る経過

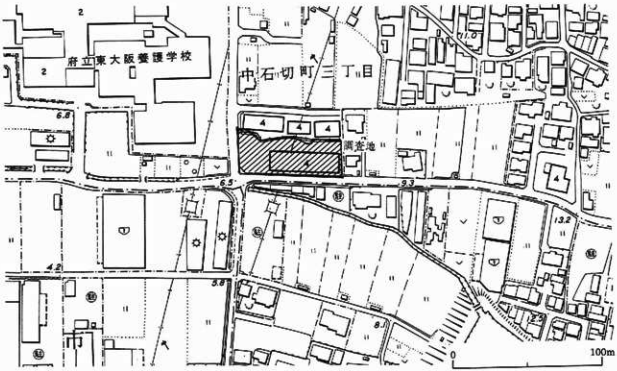
植附遺跡は生駒山の西麓、現在の東大阪市西石切町から中石切町付近に広がる遺跡である。昭和37年5月に弥生土器が採集されたことから遺跡の存在が知られた。昭和37年12月に小規模な調査が実施され、以降今回までに4回の調査が実施されている。

今回の調査地は、調査前は東から西に下がる3段の棚田に造られた水田であった。従前は、周知の遺跡範囲の隣接地であった。東大阪市教育委員会が、共同住宅建設に先だって実施した試掘調査によって遺跡の存在が確認された。この結果を受けて、共同住宅建設に伴う事前調査を実施したものである。調査は、東大阪市教育委員会の指導を受け、本協会が実施した。

2. 従前の調査

本遺跡において最初の調査が実施された地点は、今回の調査地の南約400mの地点である。今回の調査地点の南に隣接して現在水路となっている小河川が存在する。この川は石切新池（河川をせき止めて溜池を造成）に名残を留めているが、地形図などから本来は、東から西に向かって流れる幅の広い河川であったと考えられる。従前から周知されていた植附遺跡とはこの河川を境界として集落の異なる可能性が高く、今回の調査地を含む川の北側については将来、別の遺跡となる可能性が高い。なお従前の調査地点は、最初の調査から3回と5回目が河川の南側、4回目の調査が今回と同じく河川の北側である。調査次数と数字がずれるのは5回目が西ノ辻遺跡第28次調査として行われているためである。

従前の調査では、河川の南側で弥生時代中期（畿内第Ⅲ～Ⅳ様式）の方形周溝墓・壷棺、古墳時代中期末から後期初頭の土壙・溝、奈良時代後期から平安時代前期の溝、鎌倉時代の木棺墓・井戸・土壙などと、土器を主体にそれぞれの時代の遺物が出土している。北側では、古墳時代中期後半の竪穴住居・土壙・溝、平安時代の柱穴などと、各時代の遺物が検出されている。



第1図　調査地位置図

3．調査日誌

8月5日

第1期調査分（東地区と仮称）の機械掘削開始。約2/3終了、明日で終了予定。

当初、調査地を今回を含めて3分割して調査する予定であったが協議の結果、2分割に変更となる。耕土内の出土遺物は古墳時代後期の須恵器・奈良時代の須恵器、室町時代後半の瓦器擂鉢など。

8月6日

東地区東端で弥生前期と思われる土壙1基（土壙2）検出。かなり、上部の削平激しい。

8月12日　晴れ

東地区中・西（東地区を3分割し東・中・西と仮称）を鋤跡掘り下げ終了。東地区東の床土撤去開始。床土から、18世紀代の国産磁器、伊万里焼染付一点出土。他に奈良時代須恵器・瓦器椀などの細片出土。

9月2日

東地区中・西第4層上面遺構掘り下げ途中。溝は、長さ20m以上の大規模なものと判明。

9月5日

弥生時代包含層、古墳時代包含層の範囲ほぼ確認。中・西地区耕作用溝内出土遺物取り上げ。

9月7日

同一面上で、弥生・古墳・中世の3時期の遺構検出。明日、時期ごとに石灰色分けの予定。

古墳包含層上面の遺構は14世紀代の耕作用溝有り。島畑状に作るが棚田に伴う段造成は行っていない。段造成を行ったのは、16世紀後半以降と考えられる。鎌倉時代の耕作以降、少なくとも3面の耕作面が認められる。

調査地のT.Pは7m前後。上部が削平されているとはいえ、古墳時代以降の堆積は少ない。

9月11日

東地区中・西の4A層（古墳時代包含層と想定）掘り下げ、2/3終了。

溝450よりウマの歯及び鉄鏃一点出土。須恵器からみてTK208併行と考えられる。出土状況は、中央の上部、厚さ10cmほどに多量の土器とともに一括して棄てられた状態で出土。

9月14日

東地区西の4A層掘り下げほぼ終了。溝450掘り下げ。韓式土器甕や弥生時代前期に属す小壺がほぼ完形で出土。

9月16日

東地区西4A層掘り下げ終了。耕作用溝検出。Eラインより南の4B層掘り下げ。水路1南側下層の弥生土器は、土壙（土壙1）となり、長原式の縄文土器が伴うこと判明。

9月18日

東地区中・西古墳時代耕作用溝掘り下げ終了後、全景写真撮影。東地区東4B層掘り下げ開始。溝450ほぼ完掘。溝450の下層は、古墳時代の遺物が少なく弥生土器の包含が目立つ。包含層を削平して造成した盛土が流れ込んだためか。中層は、土器少ない。

9月21日

東地区中・西4B層掘り下げ一部を除きほぼ終了。溝451の北端は調査区外に延びる。太型蛤刃石斧1点、石鏃3点4B層より出土。明日、弥生（一部古墳混じる）第5層上面遺構掘り下げ開始。溝450南北断面写真撮影。

9月24日

東地区西・中の遺構掘り下げ。10E付近は、４Ｂ層存在せず。すぐ溝になる。溝500は深さ約1.2ｍ幅約３ｍで、溝450と同一とすれば方形の周溝となる。方墳の性格が考えられる。その場合、埴輪を持たない古墳である。古墳に属す溝でも、含まれる遺物は弥生土器が圧倒的に多い。

10月７日

北・東壁断面実測終了。深掘りを南壁断面沿いに行う。約半分終了。

10月12日

断面実測終了。埋め戻し開始。第1期調査終了。溝450の遺物は、道路下まで延びていること判明。祭祀用に用いられたものが、一括投棄されたと考えられる。

包含層は、部分的に弥生時代と古墳時代の分離できない。間層をはさまない古墳時代の段階で弥生時代の包含層を削平したものと思われる。

古墳２基（方墳）は１辺10ｍ前後のもので周溝の切り合いからみて、東側のものが古く西は新しい。古墳の主体部は、弥生時代の遺構と地山の存在および上部を覆う古墳時代の包含層の存在から今回の調査地では完全に削平されたと考えられる。

北壁断面の１個所で見られた石は、平坦な面を上にしており根石の可能性も考えられるが掘り方不明で断定できない。

10月16日

第２期調査分の機械掘削終了。協議の結果、１期分では基礎が及ばない部分を中ノ島状に未調査区を残して実施したが、かえって調査に時間がかかるため第２期は建築予定部分を全面調査することになる。

10月28日

中地区４Ｂ層掘り下げ。西地区落ち込み(III章以下では傾斜地と仮称）では掘り下げ。落ち込み内は、遺物少量含むのみ。肩口下部砂礫層上面で完形（供献土器）の須恵器壷１点出土。

10月29日

４Ｂ層掘り下げ終了。遺構検出。昨日、落ち込みで検出した須恵器の北に隣接してほぼ完形の壷・高杯各１点出土。また、同一層の粘土層内よりウマと思われる獣骨少量出土。落ち込みは、位置から見て縄文海進に伴う海食崖の傾斜と考えられる。

11月６日

ピット324完掘。溝800掘り下げほぼ終了。ピット324は小石室と判明し、底から、溝800の肩口が認められた。溝800は方墳で１辺約15ｍの周溝と判明。埴輪を全く伴わず、周溝内の上部から中部にかけてウマの歯と土器が散漫に含まれる。

小石室の年代は、溝800よりは新しく(完全に埋没した段階で造られる）９世紀代よりは古い（上部を覆う包含層は緑釉含む）。７～８世紀代の所産か。

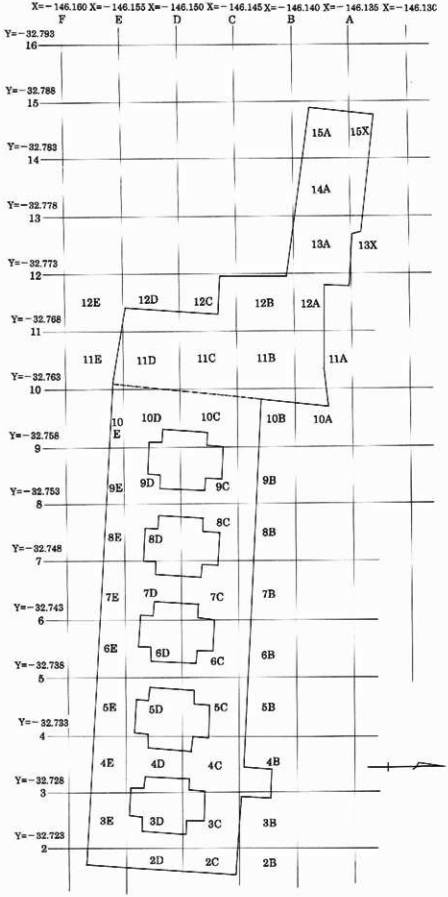
11月12日

全景写真用清掃後、写真撮影。断面実測。

断面精査の結果、西地区南側にもう1基の古墳が存在し計５基の古墳の周溝を確認したことになる。

11月16日

西地区北壁断面実測終了。落ち込み底の深掘り約１.５ｍほど掘り下げ。完全に地山であること確認。深掘りの結果、地山を構成する暗緑灰色砂礫は、南東より北西に向かい流れ河川の堆積物と考えられる。本日をもって現場調査終了。後徳道作業場に一部遺物等を搬出。


X=−146.160 X=−146.155 X=−146.150 X=−146.145 X=−146.140 X=−146.135 X=−146.130
F
E
D
C
B
A
Y=−32.793
16
Y=−32.788
15
Y=−32.783
14
Y=−32.778
13
Y=−32.773
12
Y=−32.768
11
Y=−32.763
10
Y=−32.758
9
Y=−32.753
8
Y=−32.748
7
Y=−32.743
6
Y=−32.738
5
Y=−32.733
4
Y=−32.728
3
Y=−32.723
2
15A
15X
14A
13A
13X
12E
12D
12C
12B
12A
11E
11D
11C
11B
11A
10
E
10D
10C
10B
10A
9E
9D
9C
9B
8E
8D
8C
8B
7E
7D
7C
7B
6E
6D
6C
6B
5E
5D
5C
5B
4E
4D
4C
4B
3E
3D
3C
3B
2D
2C
2B

第２図　調査地区割図

Ⅱ　地理的歴史的環境

1.　地理的環境

遺跡の位置する扇状地は、背後の生駒山から西下する音川によって形成されたものである。音川のような生駒山地より流れ出した小河川が造った扇状地は、東大阪市北部から八尾市南部にかけての山麓に発達し、0.7～1km（ほぼ、0.9km）の間をおいて流れている。これら中小の河川は山麓部や平野部では、時代によって徐々に流れが異なることが今回の調査も含め最近の調査で明らかになりつつある。このような扇状地は、約5～15万年前に形成されたと考えられる低位段丘で、標高10～100m付近まで広がる。

標高20m前後の山麓を、南北に旧東高野街道が通る。この道がいつから存在したか明らかでないが、沿道に縄文時代以降、各時代の遺跡が点在し早くから利用されたことは間違いない。

背後の生駒山地は、新第3紀鮮新世（約1000万年前）から第4紀最新世中頃（約50万年前）までの基盤褶曲によって形成されたものである。主峰の生駒山の標高は642.3mである。生駒山地は、大阪府と奈良県の境に位置する。山地を等高線100m以上の範囲とすると、北の端は交野市私市、南の端は大和川で、南北距離は約27km、東西の幅約11kmのひろがりをもつ。主峰の生駒山を頂点とし、北では標高320m南では標高430mの等高性を保って南北に長く連なる。西の大阪側斜面は、東の奈良盆地側の斜面に比べて急である。

生駒山地を形成する基盤岩類は、黒雲母花崗岩、角閃石―黒雲母花崗閃緑岩、黒雲母石英閃緑岩、閃緑岩質斑れい岩などである。このうち東大阪市上石切町から横小路町のかけて分布する角閃石―黒雲母花崗閃緑岩などが風化した粘土でつくられた土器は、胎土中に有色鉱物の角閃石、黒雲母を多量に含み、「生駒山西麓産の土器」として知られている。この土器は縄文時代以降、平安時代まで製作され時代により地域や量に異なりはあるものの、周辺地域にもたらされている。特徴的な胎土と茶褐色を呈する色調から各地の在地の土器と容易に識別できるため、各時代の土器の流通や社会を考えるうえで重要な指標の一つとされている。

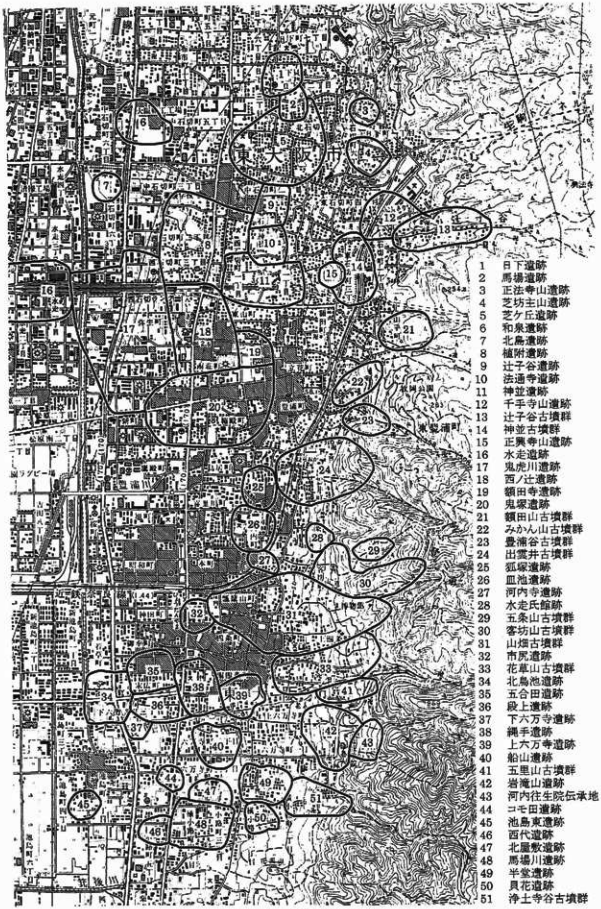
調査地付近の地形は標高7m前後の東から西に向かう傾斜地で、調査地の現地表面での東端と西端の距離65m、比高差は1.4mである。西に隣接する南北の道路を隔ててさらに角度を急にして傾斜し、現在の国道170号線（外環状線）付近で平坦（平野部）となる。南はほぼ隣接して現在水路となっている小河川が、北に約200m離れて東から西に流れる河川が存在する。したがって、調査地点は西は緩斜面、北と南を小河川で区切られた低位段丘上に位置することになる。弥生時代においては、河内潟のほぼ東南隅で東高野街道から少し西に入る平野部に隣接した段丘先端部にあたる。

2.　歴史的環境

調査地点周辺は、旧石器時代から中世にいたるまで多くの遺跡が存在する。生駒山西麓でも主要な遺跡が、集中する地域にあたる。以下、旧石器時代より順に中世までの周辺遺跡の移り変わりを概観する。

旧石器時代

鬼虎川遺跡（南約0.5km離れて所在、以下、離れて所在を略す）の縄文海進に伴う海岸跡や神並遺跡（南東約0.7km）から後期に属す石器が出土しており、人々が居住していたことが明らかである。従前は、洪積層が露出する標高100m～150m付近の草香山遺跡等（北東約1km）から採取されたものが知られていたが、近年、鬼虎川遺跡の地下約5～8m付近で約25000年前に降下したAT火山灰が検出されており、平野部ではこの層を含む上下の層が旧石器時代の地表面と考えられる。


1 日下遺跡
2 馬場遺跡
3 正法寺山遺跡
4 芝坊主山遺跡
5 芝ケ丘遺跡
6 和泉遺跡
7 北島遺跡
8 植附遺跡
9 辻子谷遺跡
10 法通寺遺跡
11 神並遺跡
12 千手寺山遺跡
13 辻子谷古墳群
14 神並古墳群
15 正興寺山遺跡
16 水走遺跡
17 鬼虎川遺跡
18 西ノ辻遺跡
19 額田寺遺跡
20 鬼塚遺跡
21 額田山古墳群
22 みかん山古墳群
23 豊浦谷古墳群
24 出雲井古墳群
25 狐塚遺跡
26 皿池遺跡
27 河内寺遺跡
28 水走氏館跡
29 五条山古墳群
30 客坊山古墳群
31 山畑古墳群
32 市尻遺跡
33 花草山古墳群
34 北島池遺跡
35 五合田遺跡
36 殿上遺跡
37 下六万寺遺跡
38 鍋手遺跡
39 上六万寺遺跡
40 船山遺跡
41 五里山古墳群
42 岩滝山遺跡
43 河内往生院伝承地
44 コモ田遺跡
45 池島東遺跡
46 西代遺跡
47 北屋敷遺跡
48 馬場川遺跡
49 半坊遺跡
50 貝花遺跡
51 浄土寺谷古墳群

第３図　周辺遺跡分布図

縄文時代

早期は、神並遺跡から、多量の土器や石器をはじめ石組み炉等が検出されている。この時期の土器は、山畑（南東約２km）・鬼塚遺跡（南1.6km）などでも少量出土し、おそらく神並遺跡は生駒山地を移動しながら生活していた当時の人々の拠点的な居住地と考えられる。

縄文時代前期～中期前半は、縄文海進が起こり平野部が河内湾となった時代である。縄文時代中期後半～晩期後半も、平野部に河内湾から河内潟に変化する水域が広がっていたため遺跡は山麓部に存在する。中期前半の遺物は鬼虎川遺跡からしか出土していないが、中期後半以降、生駒山地から西下する小河川により南と北を画された段丘上（標高15～25ｍ）にほぼ１ケ所ずつ集落が存在する。北から南に善根寺（中期末・北東２km）日下（後期末～晩期・北東1.5km）芝ケ丘（後期末～晩期・東0.7km）鬼塚（中期末～晩期）縄手（中期末～晩期・南東３km）馬場川（中期後半～晩期・南東４km）遺跡である。出土土器から見ると同時に存在した集落は中期後半～後期が１～２遺跡、晩期が２～３遺跡程度と考えられる。遺跡の分布状況から見て、現在の市域の北半と南半で２ないし３集団が、同時に居住しており一定の地域の中で時期により居住域を替えたものと考えられる。

弥生時代

縄文時代晩期頃から、河内潟は旧大和川が運ぶ土砂などにより河内湖に変化する。河内湖の縁辺に広がる低湿地は、稲作に適した地に変化していた。

縄文時代晩期末から弥生時代前期は、南約0.7kmに長原式段階と畿内第Ⅰ様式新段階（以下、煩雑になるため畿内を略す）の土器と土偶が出土した西ノ辻遺跡、長原式段階と第Ⅰ様式新段階の土器が出土した鬼虎川遺跡、船橋式・長原式段階と第Ⅰ様式古・中段階および新段階の土器が出土した鬼塚遺跡、船橋ないしは長原式段階と第Ⅰ様式古・中段階および新段階の土器が出土した縄手遺跡、長原式段階の土器が出土した馬場川遺跡、南西約0.6kmに貝塚から長原式段階と第Ⅰ様式古・中段階および新段階の土器が出土した水走遺跡、長原式段階の土器が出土した芝ケ丘遺跡、船橋・長原式段階の土器が出土した日下遺跡がある。水走遺跡は低湿地上に営まれているが他はいずれも山麓部の遺跡である。瀬戸内海から海伝いに東上してきた弥生文化がたどり着く地点がこの地に当たるため、畿内においても縄文時代晩期末から弥生時代前期の遺跡が、集中する地域にあたる。

弥生時代中期には、本遺跡のほか鬼塚・西ノ辻・縄手、山麓に近い平野部には鬼虎川・水走遺跡が存在する。鬼塚・鬼虎川・西ノ辻の３遺跡は、それぞれ河川・海食崖などの自然地形で画されているが隣接して存在する。出土遺物から見て、遅くとも第Ⅱ様式の終り頃から第Ⅳ様式まで本遺跡を含む４遺跡が同時に存在していたことは確実である。それぞれの集落は、独自の墓域をもつことから、一定の独自性を保ちながら密接なつながりを保持していたと考えられる。この集落群を一つの集落と見れば東西約１km、南北約１kmの大集落が想定される。河内湖東辺でも最大の規模をもつ大集落群が想定される。河内湖南辺に位置する瓜生堂・山賀遺跡なども遺跡群としてみれば同様の規模をもつ。

これらの大集落を支えた背景は、後の時代に上述の遺跡がほとんど全て縮小し、以降に発展が見られないことから、河内湖縁辺の耕作地と背後の生駒山地の自然の恵みの存在だけでは考えられない。おそらく、水運など他の富を得る手段が存在したものと考える。鬼虎川遺跡で出土した銅鐸をはじめとする鋳型や金属製品の存在も、原材料の入手も含めてこの背景を踏まえて理解できると考える。

弥生時代中期末の短期間に日常生活を送るのには不便な、標高約100ｍ前後の山腹に山畑遺跡が出現する。いわゆる高地性集落である。遺跡の出現は、「倭国大乱」のような戦争状態を含む当時の社会の緊張関係を反映しており、中期の主要な遺跡が後期に廃絶することと関連すると考えられる。

弥生時代後期は鬼塚遺跡と西ノ辻遺跡を残し、鬼虎川遺跡と植附遺跡が廃絶する。この時期は、山

麓に近い平野部では本遺跡の南2.5kmに北鳥池遺跡が存在するが、むしろ、居住地は馬場川・上六万寺遺跡（南東３km）など山側に移動している。いずれも小規模な集落と考えられる。

山畑遺跡が廃絶したのと入れ替わるように、後期前半に高地性集落の岩滝山遺跡（南東４km）が出現する。現在までに、竪穴式住居が12棟確認されている。この遺跡も後期末で消滅するが、前代から引き続く緊張関係が遺跡を場所を変えて出現させたのであろう。

古墳時代

前期（４世紀）および中期（５世紀）の古墳は、南東約３kmに前期末のえの木塚古墳（円墳・径約30m・鰭付き円筒埴輪）南東２kmに中期初頭の客坊山３号墳（前方後円墳？鰭付き円筒埴輪）南約0.2kmに、中期前半の塚山古墳（径約20m・高さ約７m・円墳・楯形埴輪、円筒埴輪）南約４kmに墳丘が削平され墳形・規模は不明であるが２基の周溝内より多数の形象・円筒埴輪が出土した中期後半の大賀世古墳群（３基）が知られる。

前・中期の前方後円墳は、東大阪市内の山麓では現在認められず、南に隣接（調査地点からは約５km離れる）する八尾市楽音寺古墳群（前期末の西ノ山古墳から始まり後期の郡川東塚・西塚まで継続的に７基の前方後円墳他で構成）が知られている。

最近の調査で、段上遺跡（南約３km）において中期後半の上部が削平された小規模な方墳が２基検出されている。１号墳からは、円筒埴輪・朝顔型埴輪・須恵器・韓式土器・馬の歯などが出土している。この種の古墳は近年、今まで古墳の存在が予想されていなかった平野部あるいは丘陵低位部などから発見が相次いでいる。過去に墳丘を削平された墳丘規模径・辺10m前後の小規模な古墳で単独で存在する場合もあるが、多くは群集する形態をとる。築造時期は古墳時代の全期間に及んでいるが、なかでも古墳時代中期から後期前半（５世紀後半から６世紀初頭）にかけてのものが大半である。墳形は大和・河内など畿内中心部は極く一部（円形）を除きすべて方形である。弥生時代以来の方形周溝墓の系譜を引くとしてつけられた名称である方形区画墓ともよばれる。

今回の調査で、同様の古墳を検出した。畿内中心部にあたる河内においては、方形周溝墓の伝統だけでは説明しにくい点があるので、和田晴吾氏の用語をもちいて小型低方墳と呼ぶことにしたい。

後期（６世紀）の古墳は、群集墳と単独墳が存在し内部主体の確認されているのは全て横穴式石室である。群集墳は市域南半の山麓、標高30～150m付近の谷筋沿いに分布する。後述する山畑古墳群を除き、10基前後である。調査地点に近い群集墳は、南東約1.5kmに神並古墳群（双円墳１基と円墳17基・６世紀後半に築造開始）とこの古墳群のすぐ北東に隣接する墓尾古墳群（５基うち１基は方墳・７世紀初頭に築造開始）がある。山畑古墳群は、南東約2.8kmに位置し、南に隣接する五里山・花草山古墳群とあわせ約100基の円墳を中心（方墳１基・上円下方墳１基・双円墳２基含む）とする古墳群である。この古墳群は、６世紀前半に築造を開始し、後半に爆発的に築造数が増える典型的な中規模群集墳である。馬具を副葬する古墳が調査された古墳の約５割と他の群集墳に比して多い。被葬者は大和政権に馬に関する職掌で仕えた氏族の墓域と考えられる。

終末期の群集墳は、７世紀前半に築造された墓尾古墳群（北東1.5km）がある。

単独墳は、群集墳の認められない北半にも点在し北東約２kmに坊主山古墳（円墳・円筒埴輪・６世紀前半）などこの時期前半の古墳が知られる。また、南半にも南東約２kmに五条古墳（方墳・一辺約30m・６世紀後半）などが存在する。市域で造営された最後の古墳として標高約360mの山岳部に営まれた切り石造の石室をもつイノラムキ古墳（方墳・一辺15m・７世紀初頭）が存在する。

調査地に近い単独墳は、南東約1.4kmの標高80mの丘陵上に位置した市域唯一の前方後円墳、芝山古墳（全長約30m・６世紀前半）である。

周辺で検出されている集落は、継続期間から見て、二つのタイプが存在する。一つは、古墳時代全期間にわたって営まれる集落である。鬼塚遺跡（掘立柱建物・竪穴住居・溝・土壙）、縄手遺跡（南約3km、溝・土壙）がある。他の一つは中期中頃に出現し、後期初頭遅くとも前半までの短期間に集落が営まれるものである。鬼虎川遺跡（掘立柱建物・柵列・溝・土壙）、芝ケ丘遺跡（掘立柱建物・溝・土壙）日下遺跡（土壙・溝・竪穴住居・馬埋葬土壙）神並・西ノ辻遺跡（掘立柱建物・石組貯水施設・土壙）などがある。本遺跡の集落は後者の例である。

弥生時代後期から古墳時代にかけての集落規模が縮小しかつ減少する原因の一つに、自然環境の変化と共に旧大和川の運ぶ土砂により河内湖の水運が衰退したことが考えられる。

中期後半から後期にかけていずれの集落からも、韓式土器・製塩土器が出土している。また、馬の骨やフイゴの羽口の出土する例も多い。おそらく周辺の各集落ではこの時期、馬を飼い小鍛冶が行なわれていたと考えられる。中期中頃に出現する集落の中には、大和政権により配置された渡来人を中心とする集落の存在が想定される。

飛鳥から奈良時代

市域の山麓部は、大化の改新により施行された国郡制によれば河内国河内郡にあたる。「和名類聚抄」によれば、河内郡には、英多・新居・櫻井・大宅・豊浦・額田・大戸の7郷があり、今回の調査地は大戸郷と推定される地の一画にあたる。

飛鳥時代から奈良時代にかけて石凝寺（大戸郷・北東1.5km）・法通寺（大戸郷・東0.7km）・河内寺（大宅郷・南東2km）が造営される。石凝寺は奈良時代の高僧、行基が建立した寺である。残る2寺は、飛鳥時代後半に在地豪族の氏寺として創建された。河内寺は郡名を冠することや所在地から郡衙に付属した郡寺の性格もあわせもつ。寺院を建立した氏族が関係すると思われる火葬墓や土器棺墓が、山麓部上位付近で検出されている。ほとんど単独出土であるが、群集するものに墓尾古墳群隣接地での検出例がある。

奈良時代の集落は、神並遺跡(大戸郷）と鬼塚遺跡(豊浦郷）や船山遺跡（櫻井郷）で最近、検出されている。鬼塚遺跡は標高28－32m付近で、奈良時代前期から平安時代初頭までの下級貴族の屋敷跡が明らかにされている。水走遺跡からは、奈良時代、河内湖の縁辺で行なわれた祭祀に用いられたミニチュアの竈や甕など多数が出土し、西ノ辻遺跡でも川跡から同種の遺物や国産の小型海獣葡萄鏡が発見されている。これらの遺物は、律令国家が行った祭祀をこの地の居住した人々が忠実に実行したことを示している。

平安時代中期の集落は西ノ辻遺跡で断片的に知られている以外、明確でないが平安時代後期以降、室町時代の集落は本遺跡や神並・西ノ辻・水走・上六万寺遺跡（南2.7km）などで検出されている。

以上のように本遺跡の位置する河内国河内郡の山麓部は、原始・古代より絶えることなく人々が居住した地ということができる。

参考文献

藤井直正・都出比呂志他　1966年『枚岡市史』第3巻資料編　枚岡市史編纂委員会
藤井直正・都出比呂志他　1967年『枚岡市史』第1巻本編　枚岡市史編纂委員会
東大阪市文化財協会　1984年『甦る河内の歴史』
和田晴吾　1992年『群集墳と終末期古墳』『新版古代の日本』第5巻近畿Ⅰ　角川書店
各遺跡発掘調査報告書抄録

Ⅲ 層　　序

調査地本来の地形は、前述のように東から西に向かう傾斜地であるが16世紀後半と考えられる棚田造成のため部分的な削平を受けている。削平を受けた東端では耕土・床土以下すぐに地山が存在し同一面上で弥生・古墳時代の遺構や近世や近代の耕作用の溝などが存在する。しかし、免れた７Ｃ～13A地区付近などでは部分的ではあるが平安・古墳・弥生時代、４・５E地区には弥生時代の包含層が存在した。

棚田による削平を免れ比較的旧状を残す調査地中央部について説明する。詳細は、第４図調査地土層断面図を参照されたい。また、西端付近は縄文海進に起因する海食崖が存在し様相が異なるため遺構の溝で説明する。

第１層　耕土　層厚約20cm。瓦器・土師器・須恵器・弥生土器・国産陶磁器などの細片が出土。

第２層　床土　層厚約25cm。３層に分層できるため、わけて説明する。

床土A（黄褐色砂混じりシルト質土、鉄分沈着が多い）層厚約５cm。上面で耕作用の鋤溝など検出。瓦器・土師器・須恵器・弥生土器などの細片が出土。

床土Ｂ（緑褐色砂混じりシルト質土、鉄分沈着が多い）層約10cm。上面で耕作用の鋤溝など検出。瓦器・土師器・須恵器・弥生土器・国産陶磁器などの細片が出土。

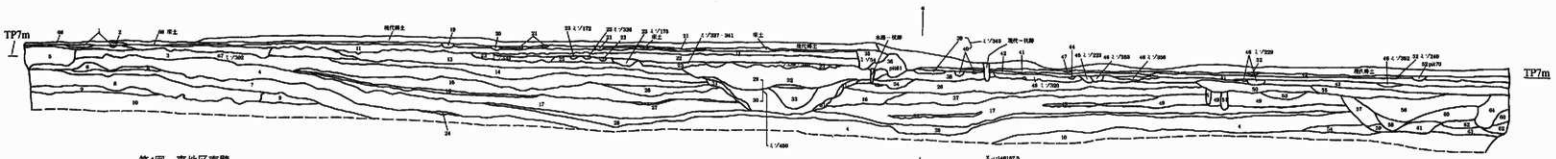
床土Ｃ（暗緑褐色砂混じりシルト質土、鉄分沈着が多い）層厚約10cm。上面で耕作用の鋤溝など検出。瓦器・土師器・須恵器・弥生土器・国産陶磁器などの細片が出土。

第３層　灰褐色砂混じりシルト質土　層厚約20cm。12A地区より以西に存在する。上面で耕作用の鋤溝など検出。土師器・須恵器・弥生土器の他に緑釉陶器などの細片が含まれることから平安時代前期の包含層である。

第４層　茶褐色砂混じりシルト質土層厚約10～30cm。６～９ライン付近に部分的に存在する上面で耕作用の鋤溝や後述する堀上げ田の溝などが存在する。また、明確な遺構は検出していないが北壁断面で柱穴ないし小規模な溝と考えられるものがあり第３層の存在を考えると、今回の調査地の北側に平安時代の集落が存在する可能性がある。土師器・須恵器・弥生土器などの細片が出土。古墳時代後期の包含層である。

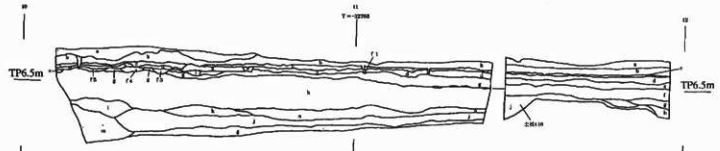
第５層　黒褐色シルト質土　層厚約10～20cm。上面で耕作用の鋤溝や小型低方墳の周溝が検出された。また、第４層で可能性を考えた平安時代の集落に関係するかと思われる根石とも考えられる上面が平坦な40cm前後の石が北壁断面で検出された。弥生上器・石器が出土した。土器の大半は前期にであるが少量の中期に属すものがあり畿内第Ⅱ～Ⅲ様式の段階で形成されたものと思われる。

第６層　暗茶褐色細礫混じりシルト質土　層厚約20cm。地山である。上面で耕作用の鋤溝や小型低方墳の周溝と弥生時代の溝や柱穴・土壙・竪穴住居などが検出された。西に向かい傾斜する。以下、地山層が続く。２－11ライン間の南壁に沿い深堀を行った結果、連続して認められた暗黄褐色シルト混じり土（東端のＴＰ７ｍ）は西に一旦傾斜した後、６ライン付近（ＴＰ5.8ｍ）で再度、角度を変えて上昇する。起伏に富む地形であったことが判明した。また、間層でシルトと粘土の互層が認められたことから、ある時期河川が存在したことも明らかになった。



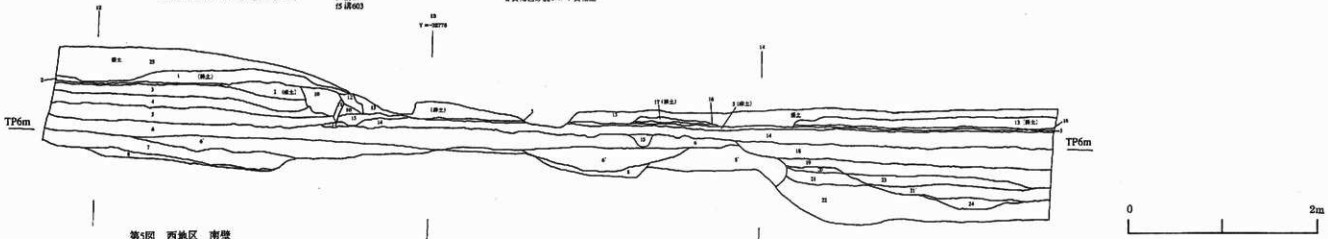
第4図　東地区南壁

1 緑灰色砂質シルト質土
2 暗茶褐色シルト質砂混土
3 暗赤褐色細礫混シルト質土(炭含む)
4 暗灰褐色細礫混土(縄機多)
5 黒灰色細礫混シルト質土
6 暗茶褐色シルト質粘土
7 黄褐色シルト質粘土
8 暗赤褐色シルト質粘土
9 暗黄褐色細礫混シルト
10 黄灰色粘土と暗黄灰色シルトの互層
11 明灰黄色砂質シルト質土
12 緑灰色シルト質土(請303)
13 黒灰色砂質シルト質土(弥生包含層)
14 暗茶褐色砂質シルト質土
15 黒灰色砂質シルト質土
16 黒褐色シルト質土
17 黒灰色砂質シルト質土
18 緑灰色シルト質土(鉄分沈着多)
19 緑灰色シルト質土(鉄分沈着多)
20 緑灰色シルト質土(鉄分沈着多)
21 緑灰色シルト質土
22 暗緑灰色砂質シルト質土
23 暗緑灰色砂質シルト質土
24 暗緑灰色砂質シルト質土
25 黒灰色シルト質土(古墳時代包含層)
26 暗灰灰色シルト質粘土
27 暗灰灰色シルト質土
28 灰灰色シルトと粘土の互層(南壁断面のみ存在)
29 黒褐色シルト質粘土
30 黒褐色シルト質粘土(土器や須恵器・土師器・馬の骨等)
31 暗灰灰色シルト質粘土
32 黒色粘土(灰灰色粘土の縞模をブロック多数含む)
33 黒色粘土(10cm前後の微少量含む)
34 暗黄褐色砂質シルト質粘土(炭含む)(土器1)
35 灰褐色粘土と暗茶褐色粘土のブロック混合土
36 緑灰色砂質シルト質土
37 暗黄灰色砂質シルト質土
38 黒褐色砂質シルト質土(土器1)
39 緑灰色砂質シルト質土(砂分多量)
40 緑灰色砂質シルト質土
41 緑灰色砂質シルト質土
42 床土
43 黒灰色砂質シルト質土
44 緑灰色シルト質土
45 緑灰色シルト質土(黒褐色粘土ブロック混じり)
46 緑灰色シルト質土(黒褐色粘土ブロック混じり)
47 暗灰色シルト質土
48 緑灰色砂質シルト質土に黒褐色粘土のブロック混じり
49 暗茶褐色砂質シルト質粘土
50 黒褐色砂質シルト質土
51 黒褐色砂質土
52 暗灰色砂質シルト質土
53 茶褐色砂混粘土
54 暗灰褐色細礫混土
55 茶褐色砂混土
56 黒褐色砂混粘土
57 茶褐色砂混土
58 暗褐色砂混土
59 黒褐色細礫混シルト質土
60 暗茶褐色砂混粘土
61 暗黄褐色細礫混土
62 暗茶褐色砂混粘土
63 黄褐色細礫混土
64 暗黄褐色砂礫(礫は2cm以下)



中地区　南壁

a 盛土
b 耕土
c 床土& 緑灰色シルト質粘土,ブロック混土
d 床土B 茶褐色砂質シルト質土
e 暗緑灰色砂質シルト質土(鉄分沈着少)
f 茶褐色砂質シルト質土(鉄分沈着中)
f1 請609
f2 請606
f3 平面図には検出できず
f4 請604
f5 請603
g 茶褐色砂質シルト質土(鉄分沈着多)
h 茶褐色砂質シルト質土(混積)(埋土)
i 暗茶褐色砂混粘土(砂多)
j 暗黄褐色シルト質粘土(混積)(埋土)
k 黄褐色砂質シルト質粘土
l 黄灰色シルト(地山)
m 暗黄褐色(砂礫)
n 茶褐色砂質シルト質粘土



第5図　西地区　南壁

1 耕土
2 床土
3 鉄茶褐色砂質シルト質土(鉄分沈着多)
4 緑灰色砂質シルト質土(鉄分沈着中)
5 灰緑色砂質シルト質土(鉄分沈着中)
6 茶褐色砂混粘土(埋土酸化土)
7 暗茶褐色砂混粘土(床下部 埋土)
8 黄褐色砂混粘土(地山)
9 灰緑色砂質シルト質土
10 緑灰色砂質シルト質土
11 暗緑灰色砂質シルト質土
12 緑灰色砂質シルト質土(砂分少)
13 耕土
14 緑灰色砂混粘土(鉄分沈着中)
15 灰緑色砂質シルト質土(請639)
16 緑灰色砂質シルト質土(鉄分沈着中)
17 耕土
18 黄灰色砂質シルト質土(鉄分沈着中)
19 暗茶褐色砂混粘土
20 暗赤褐色砂混粘土(地山)
21 黄褐色砂質シルト質粘土(地山)
22 暗緑灰色シルト
23 茶褐色砂質シルト質粘土
24 暗緑灰色シルト質粘土
25 盛土
27 暗緑灰色砂質シルト質粘土
6 茶褐色砂混粘土(砂分少)
5' 黄褐色砂礫
27 暗緑灰色砂質シルト質粘土

第4・5図　調査地南壁土層断面実測図

IV 遺　　構

今回の調査では、弥生時代前期から近代にいたる各時期の遺構を検出した。以下、古い時期から順に主要な遺構について記す。

1. 弥生時代前期の遺構（第6図）

調査地全域で認められた。竪穴住居2棟・土壙（貯蔵穴の可能性のあるもの1基含む）・溝・ピットなどを検出した。主要な遺構について説明する。

竪穴住居

竪穴住居と考える柱穴群を調査地中央で1棟、西よりで1棟の計2棟を東西に約15mの間を置いて検出した。東側を竪穴住居1、西側を竪穴住居2と仮称する。

竪穴住居1

7C・D地区で確認した。掘込み面は小型低方墳築造以降に削平されているが柱穴と考えられる径約20cmのピット201・204・206などと径10cm前後のピット226・227・229などが間隔をあけて径約6mで半円形に巡る。各ピットの深さは10cm前後でかなり上部を削平されている。円形住居とすれば東半分のピットは、未調査地に入る。南側の柱列は土壙503に切られる。竪穴住居2とほぼ同一の形態をもつことから住居と判断した。炉跡は検出していない。

竪穴住居2

11・12B、11Cで確認した。掘込み面は古墳築造以降に削平されているが径約10～20cm、深さ10cm前後のピットが間隔をあけて径約7mで円形に巡る。ピットの一部は、周溝や、弥生時代中期の溝812により切られる。ピットで囲まれた中央よりやや西の位置に炭の入った土壙428を検出した。壁面は焼けた痕跡は認められなかったが炉跡の可能性が考えられる。炉跡とすれば、すぐ東にピット427西にピット429が存在する。ピット群の形態などから上部を削平された住居と判断した。竪穴住居と考えたピット以外にも同様のピットが周辺に見られることから建替えられた可能性も考えられる。

土壙

調査地の西端の傾斜地部分を除きほぼ全体に散漫に分布する。遺物が出土したものとしていないものがある。主要なものについて説明する。

土壙1

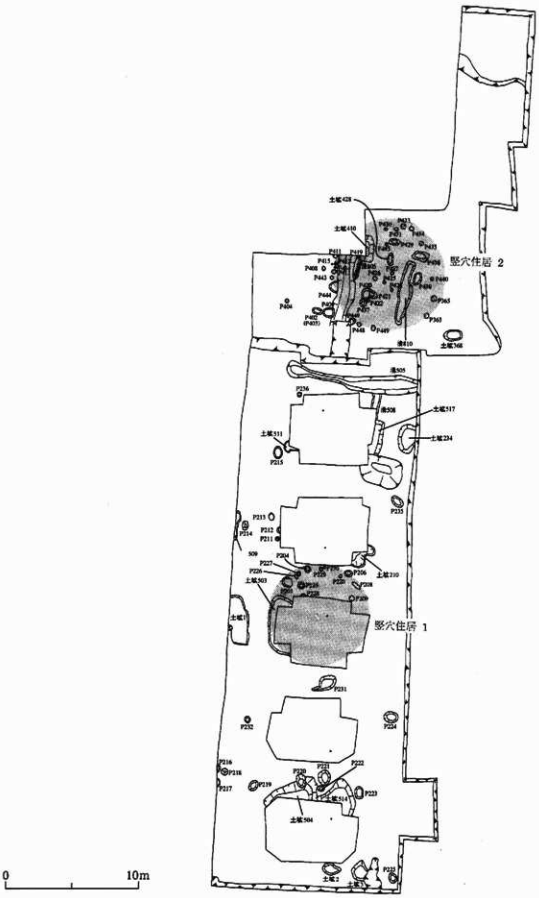
6・7E地区で検出した。東西3.6m以上南北1.6m以上深さ0.2m以上の隅丸長方形を呈するとみられるもので、南辺は調査区外に延び東辺は小型低方墳の周溝によって切られる。上部は中世末（16世紀後半）と考えられる棚田造成により削平される。多量の土器以外に少量のサヌカイトフレイクが出土した。接合の結果、ほぼ完形に復元できた壺（図19）は土壙の平面および上下に間隔をあけて破片が散布しており、他に接合できた土器にも同様のものがある。縄文土器も体部片が出土している。堆積土は黒褐色砂混じりシルト質土の単一層である。この出土状況から、何らかの理由で不用になった土器を一括投棄したと考える。

土壙2

2C地区で検出した。平面形が楕円形を呈し、長軸160cm、短軸80cm、深さ24cmである。遺構内堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。土壙内より弥生土器が出土した。土壙の上部は、直上に床上が存在し後世に削平されている。

土壙3

2C地区で土壙2の北0.8m離れて検出した。平面形が楕円形を呈し、長軸160cm、短軸120cm以上、



第6図　弥生時代前期遺構平面実測図

深さ16cmである。遺構内堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。土壙内より弥生土器が出土した。北肩は古墳時代に属す溝515に切られる。土壙の上部は削平されている。

土壙504

4D地区で検出した。平面形が不整円形を呈し、長軸360cm、短軸100cm以上、深さ30cmである。遺構内堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。東半分は未調査地に入る。土壙内より弥生土器が出土した。北に接する土壙514を切り西肩をピット220に切られる。土壙の上部は、直上に床土が存在し後世に削平されている。

土壙503

6D地区で検出した。平面形が不整円形を呈し、長軸440cm、短軸160cm以上、深さ30cmである。遺構内堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。北半分は未調査地に入る。土壙内より弥生土器が出土した。

土壙234

9B地区で検出した。平面形が楕円形を呈し、長軸220cm、短軸120cm以上、深さ24cmである。遺構内堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。北肩は調査区外に延びる。土壙内より弥生土器が出土した。

土壙517

9C地区で検出した。平面形が長方形を呈し、長辺240cm以上、短辺80cm以上、深さ25cmである。遺構内堆積土は、黒褐色砂混じりシルト質粘土である。南半分は未調査地に入る。土壙内より弥生土器が出土した。西に接する溝508を切り東肩を弥生時代中期に属す土壙518に切られる。

土壙410

12C地区で検出した。平面形が長方形を呈し、長辺180cm、短辺96cm、深さ50cmである。遺構内堆積土は、2層に分層でき上層は暗茶褐色砂混じりシルト質粘土、下層は暗黄褐色砂混じりシルト質粘土で両層とも炭を含む。南半分は調査区外に入る。土壙内より弥生土器が出土した。東に接する溝805を切る。規模から小規模な貯蔵穴の可能性も考えられる。

土壙428

12B地区で検出した。平面形が長方形を呈し、長辺100cm、短辺32cm、深さ16cmである。遺構内堆積土は、暗茶褐色砂混じりシルト質粘土で炭を多量に含む。土壙内より弥生土器が出土した。多量の炭が認められたことから炉の可能性も考えられる。

溝

調査地の西半で小規模な2条を検出した。

溝508

9・10C地区で検出した。長さ120cm以上、幅32cm、深さ20cmで断面形は皿状を呈し、東から西に走る溝である。堆積土は、茶褐色砂混じりシルト質粘土である。溝内より弥生土器が出土した。東を土壙517に、西を弥生時代中期に属す溝505に切られる。

溝805

12C地区で検出した。長さ200cm以上、幅25cm、深さ10cmで断面形は皿状を呈し、東から西に走る溝である。堆積土は、暗茶褐色砂混じりシルト質粘土である。溝内より弥生土器の細片が少量出土した。西を土壙410に切られる。

ピット

竪穴住居1・2の周辺で多く検出したが4E地区にも散在する。いずれも、平面形は円形を呈し径

30cm前後、上面が削平されているため浅く検出面から10cm前後の深さしかない。堆積土は黒褐色砂混じり土と暗茶褐色砂混じりシルト質粘土が多い。南壁断面で確認したものは径8cm深さ40cmの杭と思われる。

2．弥生時代中期の遺構

調査地の中央よりやや西よりで数は少ないが溝3条・土壙1基・ピット1個を検出した。時期は、第II・III様式に属す。各遺構とも性格のわかるものはない。主要な遺構について説明する。

溝505

10B～D地区で検出した南北方向の溝である。北端は調査区外に延びる。長さ960cm、以上幅130cm、深さ24cmの規模をもつ。断面はU形を呈し、堆積土は上層が黄褐色砂質土、下層が茶褐色砂混じり土である。溝内から、少量の第II様式と混入品の多量の弥生時代前期土器が出土した。

溝812

11・12C地区で検出した東西方向の溝である。東端は試掘トレンチで切られ、西端は調査区外に延びる。長さ480cm以上、幅120cm、深さ32cmの規模をもつ。断面は逆台形を呈し、堆積土は上層が暗茶褐色砂混じりシルト質土、下層が茶褐色砂混じり土である。溝内から、少量の第II様式に属す土器と混入品である多量の弥生時代前期土器と縄文時代後期（図218）晩期土器（図185・186）2点が出土した。

溝810

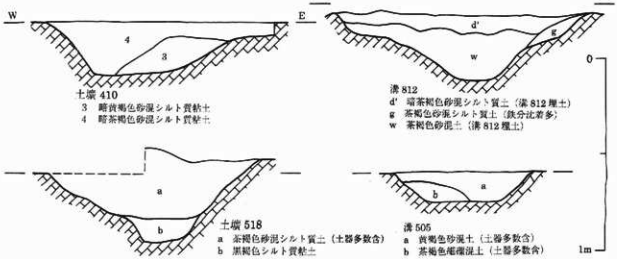
11・12C地区で検出した東西方向の溝である。長さ480cm、幅100cm、深さ16cmである。断面はU形を呈し、堆積土は茶褐色砂混じり土である。

土壙518

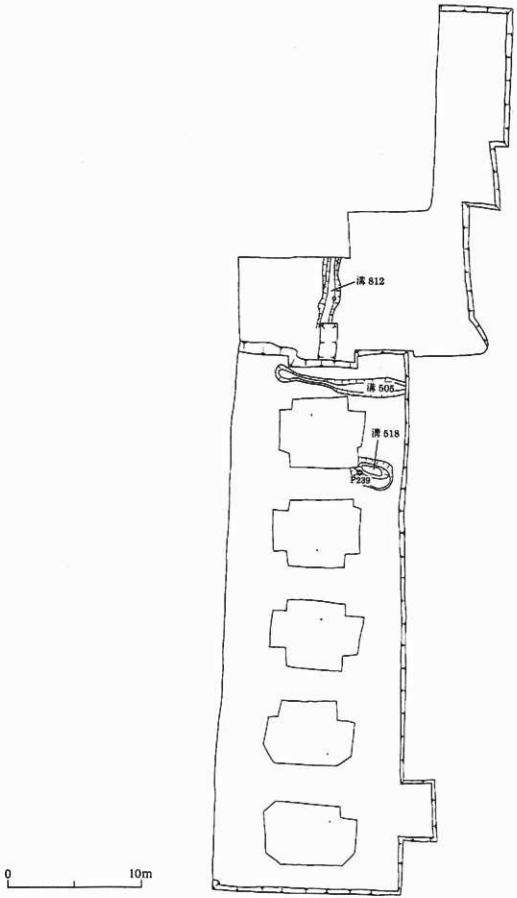
11・12B地区で検出した土壙である。南端は未調査区に延びる。平面形が隅丸方形を呈し長辺320cm以上、短辺200cm、深さ96cmの規模をもつ。断面は逆台形を呈し、堆積土は上層が暗茶褐色砂混じりシルト質土、下層が茶褐色砂混じり土である。土壙内から、少量の第II様式に属す土器と混入品である多量の弥生時代前期土器が出土した。形態から見て井戸の可能性も考えられる。

ピット239

溝(土壙) 518の南の肩部分で検出した。径48cm、深さ30cmで堆積土は暗茶褐色砂混じり土である。



第7図　弥生時代前・中期遺構堆積土実測図



第8図　弥生時代中期遺構平面実測図

土壙を切っていると判断されるためこの時期に属すと考える。

3．古墳時代中期末から後期の遺構

墳丘部を削平された7基の小型低方墳と溝2条を検出した。小型低方墳から順に説明する。

小型低方墳

7基とも墳丘は削平され周溝のみを検出した。墳丘が最終的に削平された時期は、上部を覆う包含層から緑釉陶器を検出しているので遅くとも奈良時代から平安時代にかけてと考えている。ただ、周溝の堆積土と遺物出土状況からみて、墳丘は築造後さほど時間を経ずに崩れたものと思われる。周溝底部は平坦ではなく一部に深く掘られたところもあり、かなり雑な掘り方である。墳丘の平面形はほぼ形態の判明する1・2・3号墳から見ると、正方形ではなく南北に長い長方形を呈する。墳丘の盛土は、弥生時代前～中期の包含層を削平、掘削して盛り上げているため、各古墳の周溝内より多量の弥生土器が出土した。墳丘に葺石・埴輪は存在しない。以下、1号墳から順に概要を記す。

1号墳

5ラインより西、8ラインより東で周溝と墳丘部分を検出した。墳丘は東西10m南北12.4m（周溝墳丘側肩口より計測、以下同じ）、周溝の幅3.6m深さ1mである。周溝の断面形は逆台形を呈し、堆積土は、5層に分層（第9図）できる。周溝上部堆積土中から祭祀に用いられた後、一括投棄されたと考えられる状況で土師器・須恵器・韓式土器・製塩土器などが、東側周溝の南隅（観察表で溝450と記した）と北側周溝東隅（観察表で溝451と記した）でかたまって出土した。東側周溝の南隅では、他にウマの上顎骨と鉄鏃（図298）鉄滓（重量26.1g）各1点も認められた。馬具の可能性がある鉄製品（図297・299）も出土した。

上部堆積土中より完形に復元できた韓式土器の甕が、東側周溝の北隅（図303）と西側周溝の北隅（観察表で溝500と記した。図306）で各1点置かれた状況で検出した。東側周溝のものは置かれた際、体部の中央に1箇所穿孔されていた。穿孔された際に出た破片も同時に出土している。遺物出土量は、今回検出した古墳の中で最も多い。周溝内出土須恵器はTK216～208に属すが周溝の堆積が一定進んだ段階で供献されたものであるため築造時期は、当然須恵器の示す年代観よりやや古くなる。

2号墳

10ラインより東で周溝と墳丘部分を検出した。墳丘は東西8m南北11m、周溝の幅2.5m深さ0.6mである。1号墳と周溝を共有する形で、南側周溝と北側周溝の一部を検出した。周溝の断面形は皿形を呈し、堆積土は、2層に分層（第9図）できる。

西側周溝は3号墳により切られるが、一画が掘られていなかった可能性が高い。また南側周溝も1号墳周溝と現状では途切れているため、完全に接合していなかった可能性が高い。3・4号墳に周溝を切られる。少量の須恵器（図358など）が出土した。周溝内出土の須恵器はTK208に属す。

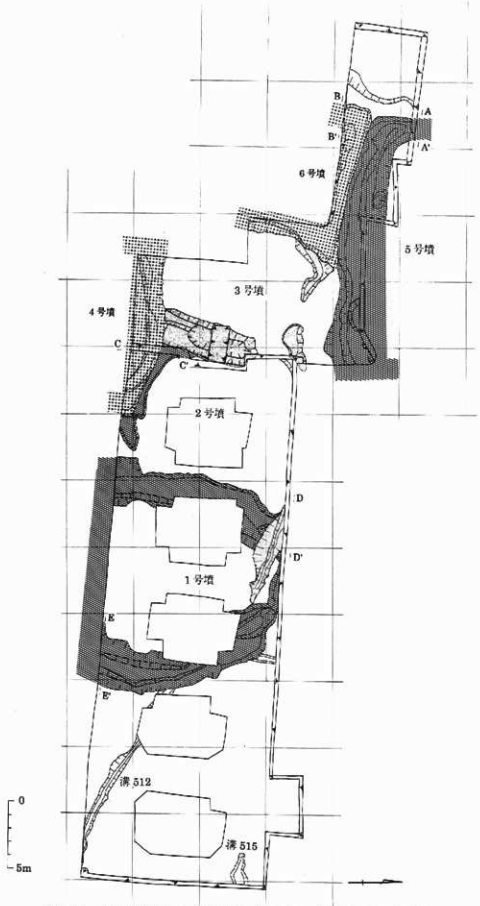
3号墳

12ラインより東で周溝と墳丘部分を検出した。墳丘は東西約8m南北約10m、周溝幅2.8m深さ0.5mである。2号墳の西側周溝を切る形で東側周溝と北側周溝を検出した。周溝の断面形は逆台形を呈し、堆積土は、2層に分層（第9図）できる。

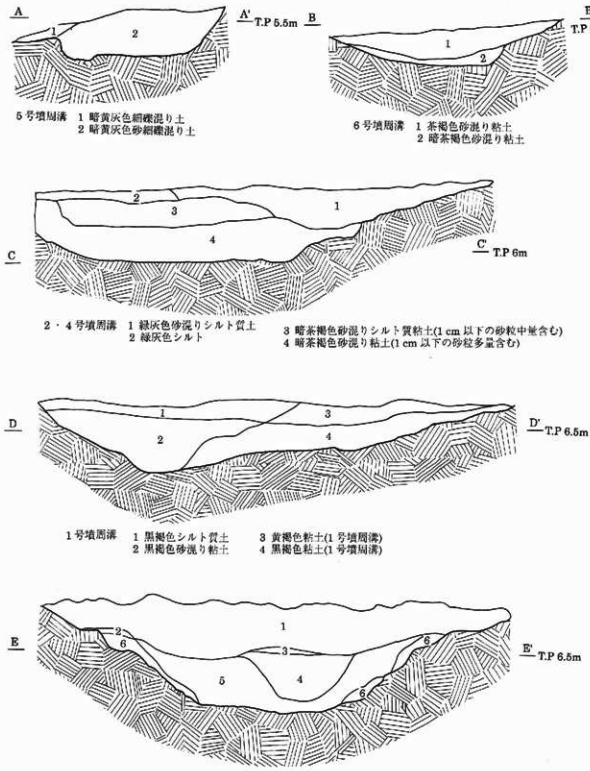
北・東側周溝とも削平のためか、本来存在しないのか明らかでないが1画が途切れる。今回検出した他の古墳の周溝の深さから見ると本来途切れていた可能性が高い。周溝内より須恵器・土師器が少量出土しているが細片のため遺物から時期は判断できない。

4号墳

10・11D地区で周溝を検出した。墳丘は東西12m南北不明、周溝幅2.4m以上深さ0.4mである。



第9図　古墳時代中から後期遺構（小型低方墳周溝）平面実測図



第10図　古墳時代中から後期遺構（小型低方墳周溝堆積土）土層断面実測図

2・3号墳の南側周溝を切る形で北側周溝を検出した。周溝の断面形は皿形を呈し、堆積土は、2層に分層（第9図）できる。周溝内より須恵器・土師器（図352など）少量と、混入品の円筒埴輪の底部破片1点（図351）が出土した。（図382）の須恵器坏身は周溝底部より出土した。（図366）の須恵器甕は6号墳同溝出土品と接合した。周溝内出土須恵器はＴＫ209～217に属す。

5号墳

11～14A地区で周溝検出した。墳丘は東西約12ｍ南北不明、周溝幅3.2ｍ深さ0.5ｍである。南側周溝と西側周溝の一部を検出した。6号墳に南側周溝を切られる。周溝の断面形は逆台形を呈し、堆積土は、2層に分層（第9図）できる。周溝が完全に埋没した時点で、後述する小石室が築かれる。また、南側中央付近の墳丘裾より、祭祀に用いられたと考えられる須恵器の杯身・蓋が6組と壷1点（図344など）が、まとまって置かれた状態で出土した。他に須恵器・土師器が出土し、遺物量は1号墳に次いで多い。周溝内出土須恵器はＴＫ47～ＭＴ15に属す。

6号墳

12・13A、12Ｂ地区で周溝検出した。墳丘は東西約7ｍ南北7.2ｍ以上、周溝幅1.6ｍ深さ0.4ｍである。5号墳の南側周溝のほぼ西半分3号墳の西側周溝のほぼ全部を切る形で、北および西側周溝を確認した。周溝の断面形は皿形を呈し、堆積土は、2層に分層（第9図）できる。周溝内より少量の須恵器・土師器が出土した。完形の須恵器平瓶（図357）は周溝上部堆積土層中から出土した。また、同層より出土した須恵器の大甕（図366）は、4号墳出土のものと接合した。周溝内出土須恵器はＭＴ85～ＴＫ43に属す。

7号墳

7・8Ｂ地区において1号墳の北辺に切り合う形で周溝を検出した。東西・南北不明。周溝幅1.6ｍ深さ0.7ｍである。1号墳の北側周溝を切るが、一端を検出したに留まり現状では断定できないが、溝の形状と検出層位および須恵器細片が出土しており、古墳の周溝の一部と考える。周溝の断面形は皿形を呈し、堆積土は、4層に分層（第9図）できる。時期の判断できる遺物は出土していない。
他に、調査地西端5・6号墳の西に隣接する縄文海進に起因する傾斜地より、古墳に対する祭祀に関係すると思われるウマの歯や完形の須恵器壷・甕・高杯（図367～371）などが、点在して出土した。

溝

6ラインより東で2条の溝を検出した。以下、説明する。

溝515

3Ｃ地区で検出した東西方向と思われる溝である。東端は調査区外に延びる。長さ240cm以上、幅100cm、深さ10cmである。断面は浅い皿形を呈し、堆積土は茶褐色砂混じり土である。溝内から、少量の土師器・須恵器と弥生時代前期土器が出土した。所属時期は、古墳時代中期後半から後期と考えられる。

溝512

3・4Ｅ、6Ｃ地区で検出した南から西よりに湾曲しながら北に走る溝である。南・北端とも調査区外に延びる。長さ21.6ｍ以上、幅0.8ｍ、深さ0.25ｍである。断面は逆台形を呈し、堆積土は暗茶褐色砂混じり土である。溝内から、少量の土師器・須恵器（図386）と弥生時代前期土器が出土した。1号墳の東側周溝により切られる。遺構の切り合いとＴＫ216に属す遺物からから見て古墳時代中期中頃と考える。

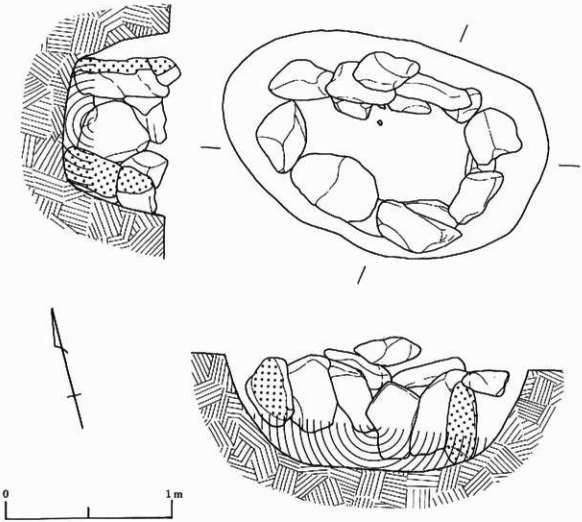
4．古墳時代後期末から飛鳥時代の遺構

この時期の包含層が、調査地西半で認められることから遺構が存在している可能性もあるが明確なものは知られない。存在しても極くわずかであろう。ただ、小型低方墳（5号墳）の周溝が埋没した段階で造られた小石室を1基検出した。

小石室

6号墳周溝の北2ｍで検出した。1面が平坦な人頭大からこれよりやや大きめの石を用いて築造した平面が長方形を呈する石室である。石の平らな面を石室内に向け、壁面は2段積みで大きな石を下に小さな石を上に置く。天井石は石室内に落ち込んだ1個を残して削平され存在しない。石室内の埋め土は　上1層で、床面に礫や木炭などは認められなかった。石室の内法は、長辺0.72ｍ短辺0.4ｍ高さ0.48ｍで墓壙は長辺1.38ｍ短辺0.9ｍ深さ0.48ｍの平面形は楕円形を呈する。石室内堆積土をすべて水洗したが、混入したと思われる土師器の細片が少量出土しただけで人骨や副葬品と考えられる遺物は出土していない。掘り方も同様である。

時期は、上部を平安時代前期包含層が覆うため平安時代前期以前、古墳時代後期以降であることは間違いない。石室の形態から見て7世紀後半に属すと考える。



第11図　古墳時代後期末から飛鳥時代遺構（小石室）実測図

5．鎌倉時代後期の遺構

溝334（幅2.4m・深さ約0.8m）と、溝に囲まれた南北約８m東西45m以上（西端が調査地外に延びる）の島畠を検出した。溝は西に行くほど上部を削平されたためか、深さを減ずる。溝は、当初掘られたものが埋没した後、すぐ側に新しい溝が掘られておりかなり長期にわたって島畠の耕作が行われたことが知られる。遺物は、弥生土器などの混入品が多い。北側にも溝を共有する島畠の存在が想定できる。

島畠は、周辺の低地部で現在も見られる掘上げ田と同様の形態であり、段丘先端部にも存在したことが明らかになった。

6．中世末から近代の遺構

棚田造成後の遺構である。耕作に伴う鋤跡・溝・ピットを、地山・包含層上面からと各床土上面で検出した。特に床土Aおよび床土C上面で多く検出された。鋤跡は、長さは５m幅10cm深さ5cm前後のものが多い。堆積土は、灰褐色シルト質粘土などである。南北方向のものが大半で後述する水路と並行して認められた。

各遺構内からの遺物は細片がほとんどで、時期を決めるのは困難である。しかし国産陶磁器が少量見られることから、床土B層とC層は近世に形成されたことは間違いない。

棚田は、最も深いところで0.5m地下げを行い等高線とほぼ並行に南北方向の段を造成している。今回は３個所で確認した。段の西側に水流調節用と考えられる杭を打った幅１m深さ0.6mの水路が認められた。水路は東から１～３と仮称した。段の造成時期は遺物から見て16世紀後半と考えられる。この時期の造成にともない山麓部で一般に認められる石垣は伴っていない。石垣が認められないのは、前述のように本来の地形が緩傾斜地であるため、地下げがさほど必要でなかったためと考えられる。

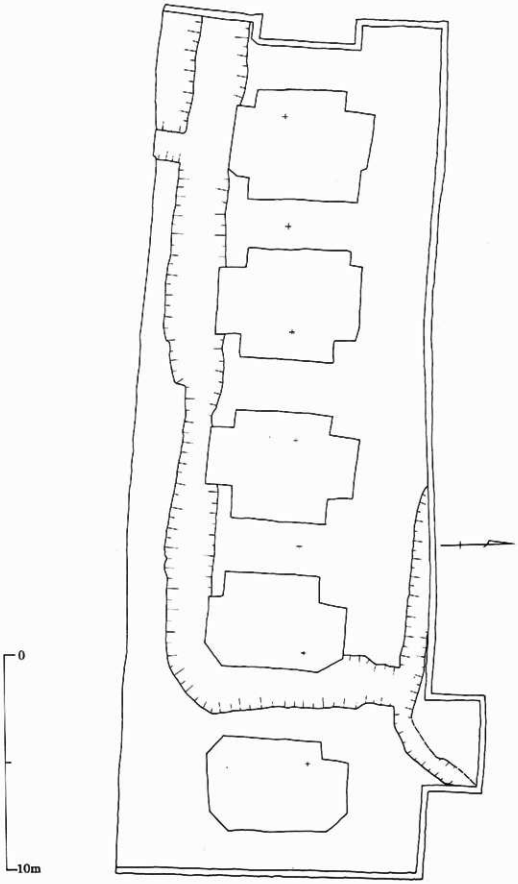
同様の時期に、鬼塚遺跡・西ノ辻遺跡でも棚田造成が認められ16世紀後半が山麓部における棚田の開発時期である可能性が高い。

7．縄文時代の海食崖

遺構ではないが、調査地西端（14ライン付近）で縄文海進に伴う海食崖の一画（傾斜地）を検出した。縄文時代の海食崖は、すでに南約0.6mに位置する鬼虎川遺跡で検出されているが今回はその続きを検出したことになる。今回は海食崖の頂部付近しか検出していない。鬼虎川遺跡と異なり汀線部分まで調査が及んでいないため、縄文時代前期に属す遺物が存在するかどうかは判明しなかった。今後の西側地域での調査に期待したい。

なお、海食崖は古墳時代に一定の堆積が認められるが、平安時代前期までは急な傾斜地として残存していた。調査地においては平安時代前期の層がほぼ水平に堆積していることから、この時期に現在の地形である緩やかな傾斜地となったことが考えられる。

写真１　小型低方墳調査風景



第12図　鎌倉時代後期遺構（溝334）平面実測図

V 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、コンテナ約60個の土器を中心とするものである。遺物の内訳は、多いのが弥生時代前期初頭の土器で、包含層出土のものを含めるとコンテナ約40個ある。ついで古墳時代中期末から後期後半の土器がコンテナ約15個残り約４個が中近世の土器と縄文時代晩期末の凸帯文土器・弥生時代中期土器である。弥生時代前期の石鏃・石斧などもコンテナ約１個分ある。また、獣骨（ウマの骨など）も少量出土した。

なお、土器のうち「在地産」とした土器は、「河内の土器」あるいは「生駒山西麓産」とも呼ばれる胎土に角閃石を含み茶褐色を呈するものである。「他地域産」としたのは、これ以外の土器をさす。個々の遺物については観察表を作成したのでそれを参照されたい。以下、古い時代から順に説明する。

１．弥生時代の遺物

１）　弥生時代前期遺構出土の土器（第13～21図）

縄文土器

凸帯文土器が極く少数出土した。この時期に使用された土器（縄文系）であるためここで説明する。深鉢　胎土・色調は弥生土器の砂粒の少ないものとほとんど差がない。粘土紐による内傾接合で成形する。

弥生土器

畿内第Ⅰ様式古・中段階に属すものが大半であるが、新段階の古い時期とみることのできるものも少量含まれる。器種は壺・甕・鉢・甕蓋・壺蓋がある。高杯は存在しない。土器は胎土から見て９割以上が在地産で、他地域産は１割に満たない。

土器の文様は、量は少ないがヘラ描きの重弧文・斜格子文・放射線文・木葉文・竹管文・羽状文・刺突文などと赤色彩文が見られる。赤色彩文は器表の残りが悪いため、鮮明なものはない。甕の頸部外面に施されるヘラ描き沈線は２条が多く３条も存在するが、４条以上は認められない。成形は、全て外傾接合である。籾圧痕の付着した土器も見られる。

壺　器形から３種に分類する。

A類　半底あるいは上げ底ぎみに突出する底部と、偏球形の体部から急に細くなる頸部とゆるやかに外反する口縁部をもつ。

B類平底の底部と球形の体部から内傾して立ち上がる頸部と短く外反する口縁部をもつ。

C類　頸部外面に縦方向の密なヘラミガキを施すものである。

胎土は３種とも砂粒を多量に含むものと、さほどでもないものがある。

甕　器形からA～Cの３種類に分類する。

A類　外反する口縁部と頸部の境に１～3条のヘラ描沈線を施す。大半が口縁端部外面中央から下端にかけてヘラによる刻目を施す。沈線の位置は頸部よりやや下がった位置につくものもある。体部は張りの少ないものとやや膨らむがある。

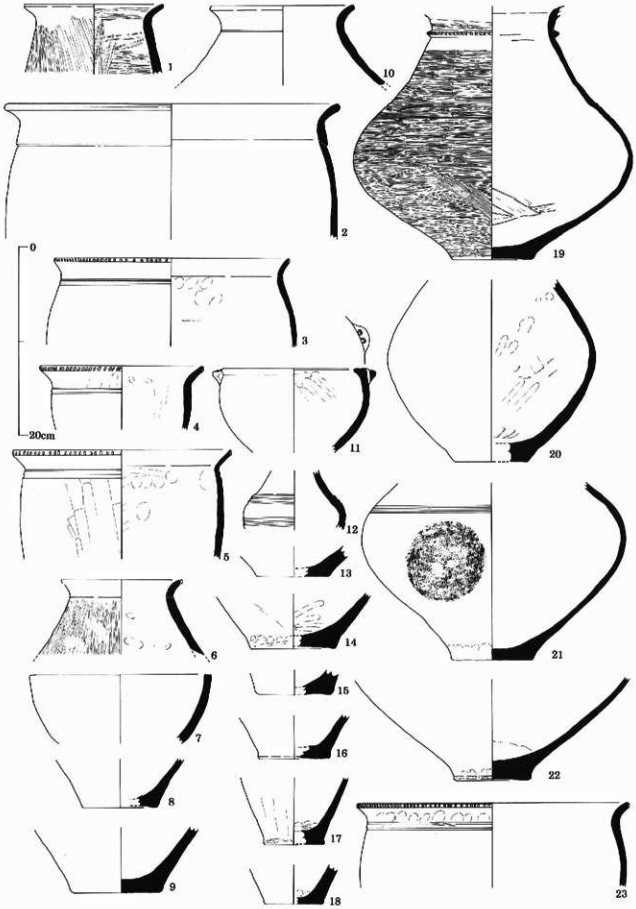
B類　張りの少ない体部から口縁部が外反するものである。口縁部と頸部境の外面に段をもつ。

C類　張りの少ない体部とゆるやかに外反する口縁部をもつ。口縁端部外面中央から下端にかけてヘラによる刻目を施すものと刻目をもたないものがある。

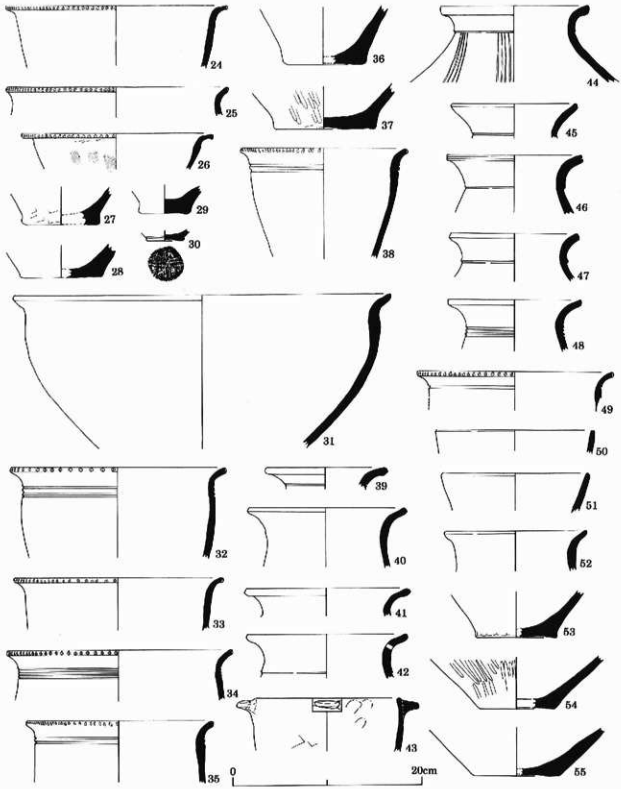
壺と同じく胎土は砂粒を多量に含むものとさほどでもないものがある。

鉢　器形からA・B・C類の３種に分類する。

A類　把手付の鉢である。半球形の体部からゆるやかに内湾する口縁部をもつ。口縁端部は内側に



第13図　弥生時代前期遺構（土壙1・503）出土弥生土器実測図



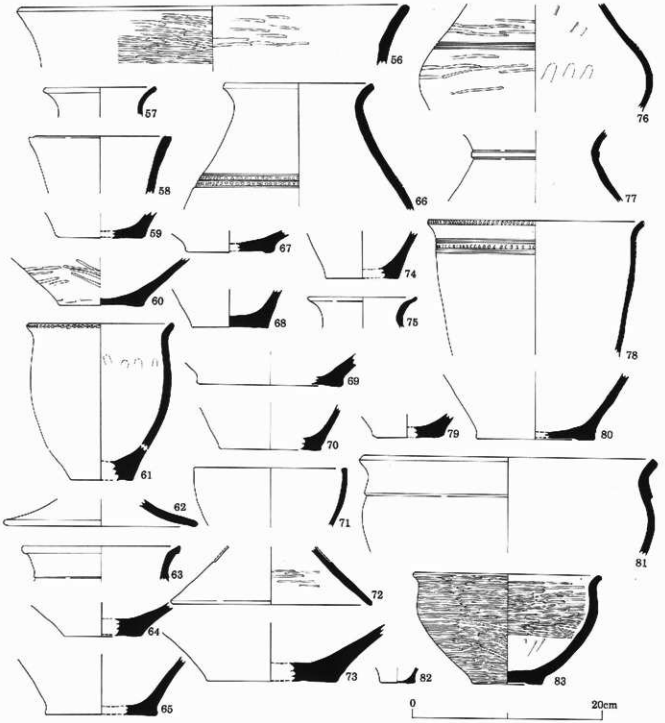
第14図　弥生時代前期遺構（土壙234・410・517、溝508）出土弥生土器実測図

肥厚する。口縁端部外面に相対して把手をつける。把手には焼成前に棒状工具で2個の紐穴をあける。

B類　半球形の体部をもつ直口の鉢である。

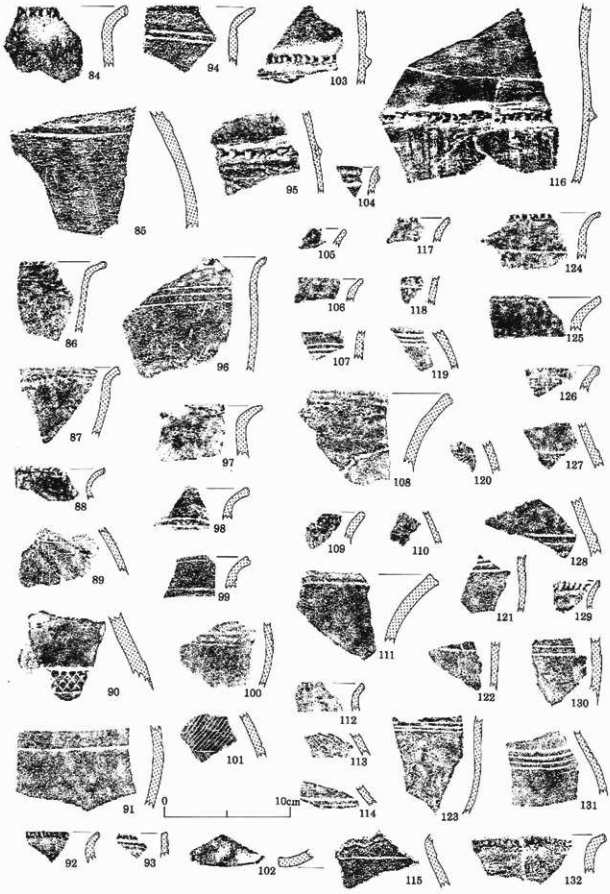
C類　口縁部が外反し頸部に段をもつ鉢である。

甕蓋　傘形の器体をもつ。

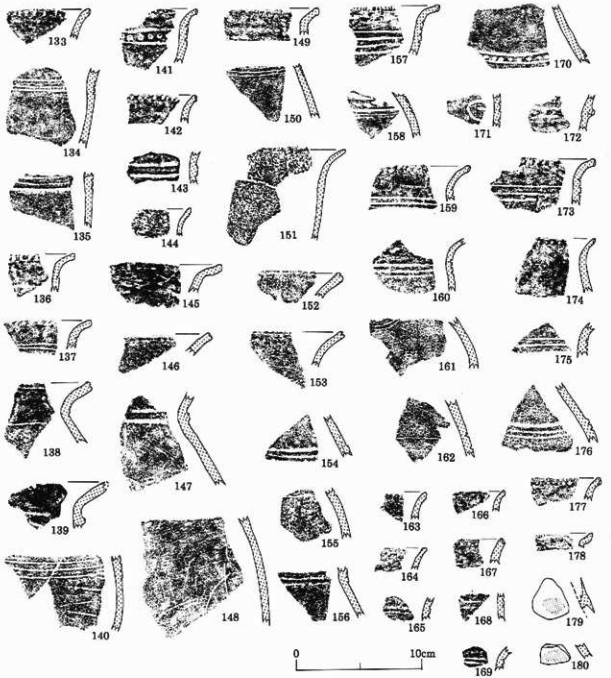


第15図　弥生時代前期遺構（土壙２・３・503・504・ピット218）出土弥生土器実測図

壷蓋　円板状のものが多くまだ定型化していないものである。
土壙１出土土器（図１～11・13～23）
弥生土器
壷　A類（図10・19など）B類（図20など）C類（図１・６）がある。
甕　A類（図３など）B類（図２など）C類（図84など）がある。
甕蓋　（図102）が１点出土している。
鉢　A類（図11）B類（図７）がある。



第16図　弥生時代前期遺構（土壙1・2・503・504・507）出土縄文土器・弥生土器拓影



第17図　弥生時代前期遺構（土壙234・410・517）出土弥生土器拓影

縄文土器

深鉢　2点（図103・116）出土しているがいずれも胴部の破片である。胎土・色調は弥生土器の砂粒の少ないものとほとんど差がない。粘土紐による内傾接合で成形し、体部下半をヘラケズリで調整する。

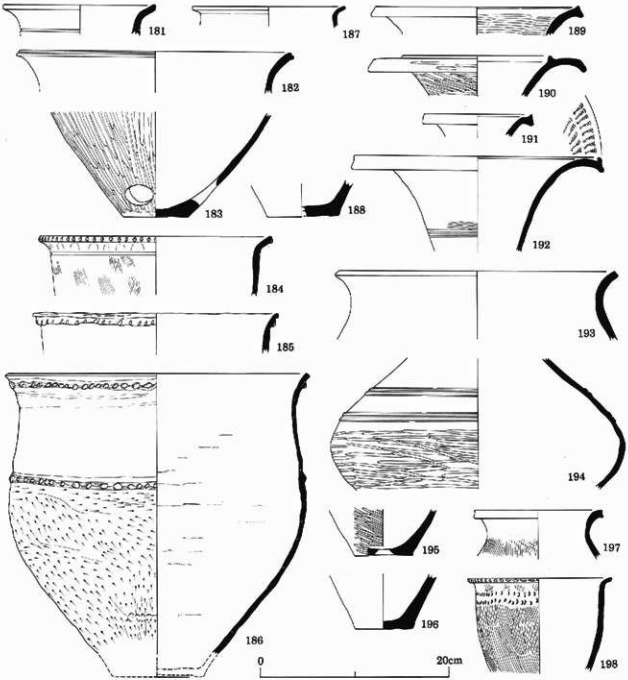
土壙410出土土器（図24－35・39～43）

弥生土器

壷　A類（図39など）B類（図40など）がある。赤色顔料を塗布した（図179・180）もある。

甕　A類（図32など）C類（図24など）がある。

鉢　A類（図43）B類（図51）C類（図31）がある。



第18図　弥生時代中期遺構（土壙518、溝505・溝812）出土縄文・弥生土器実測図

土壙234出土土器（図36～38・44～48）

弥生土器

壷　A類（図40など）B類（図46など）がある。（図171）は体部にヘラ描き線刻が見られる。

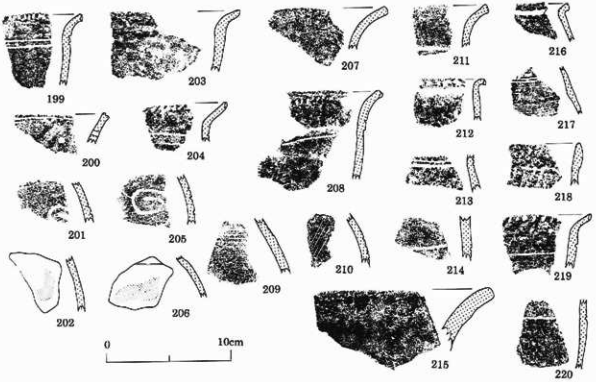
甕　A類（図38など）B類（図149）C類（図142）がある。

土壙517（図52～55・136～140・145～148・156・165）

弥生土器

壷　A類（図138など）B類（図52）がある。（図139・147）のように頸部に削出し凸帯をもつのが多いが（図138）は段をもつ。

甕　A類（図137など）C類（図145）がある。



第19図　弥生時代中期遺構（土壙518、溝505・812）出土縄文・弥生土器拓影

溝508出土土器（図49・50）

弥生土器

甕　A類（図49）がある。頸部に1条のヘラ描き沈線を施す。

鉢　B類（図50）がある。

土壙503出土土器（12・63～65・72・73・82・86～91・95～101）

壷　A類（図63）B類（図99など）がある。（図63）頸部に段を強調する1条のヘラ描き沈線が施される。削出し凸帯上にヘラ描き沈線で斜格子文を施す（図90）や羽状文（図101）がある。（図12）は小形の壷である。

甕　A類（図93など）B類（図91）C類（図86など）がある。3条のヘラ描き沈線（図96）や上下に引いたヘラ描き沈線の中に竹管文を施す（図100）が見られる。（図61）の口縁部の刻み目は口縁端部下端から施される。

甕蓋　（図72）がある。内外面に煤が付着する。

縄文土器

深鉢　（図95）がある。体部の破片で貼付け凸帯に施された刻み目はD字形である。

土壙504出土土器（図61・62・68～71・75・79～81・112～114・121～123・130・131）

弥生土器

壷　A類（図111）B類（図75）がある。（図113）は木の葉文が施される。

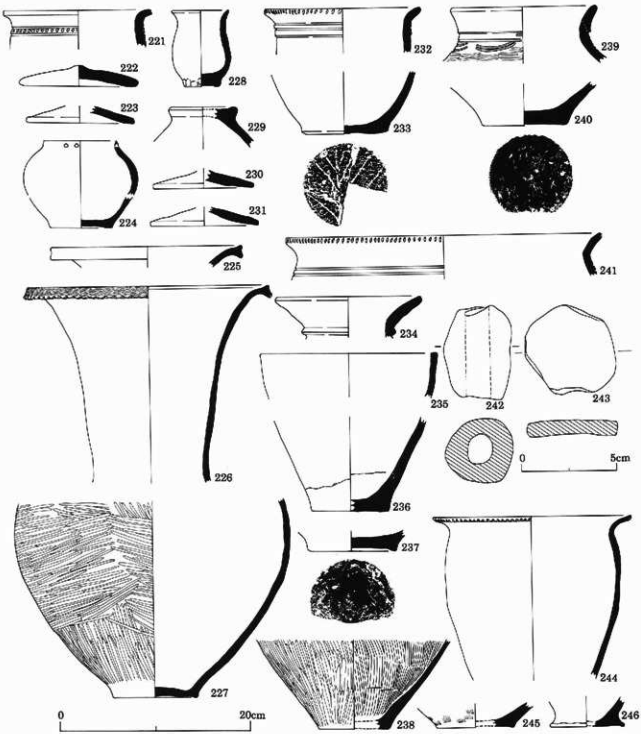
甕　A類（図121など）C類（図61）がある。3条のヘラ描き沈線が見られる。（図61）の口縁部の刻み目は口縁端部下端から施される。

甕蓋　（図62）がある。内面に煤が付着する。

鉢　B類（図71）C類（図81）がある。

土壙2出土土器（図56～60・66・74・105～110・117～120・124～129）

弥生土器



第20図　包含層（小型低方墳周溝）出土弥生土器・土製品実測図

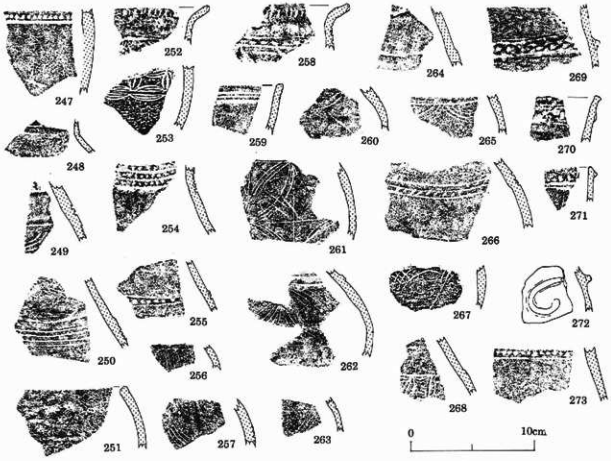
壷　A類（図57）B類（図56など）がある。（図66）は肩部にヘラ描き沈線で区画された中に竹管文が上下に2段に施される。

甕　A類（図124）C類（図118など）がある。（図124）は1条のヘラ描き沈線で段を強調する。（図117）などの口縁部端部の刻み目は斜め上から施される。

土壙3出土土器（図67・76～78）

弥生土器

壷　A類（図77ほか）がある。（図76）は肩部に3条のヘラ描き沈線を施す。



第21図　包含層（小型低方墳周溝他）出土縄文・弥生時代前期土器拓影

甕　A類（図78）がある。上下各2条のヘラ描き沈線で区画した中央に楕円形の刺突文を施す。

他に遺構出土土器として、ピット218から鉢C類（図83）が1点、土壙507から縄文土器の口縁部（図104）が1点出土した。

2）　包含層出土の弥生時代前期土器・土製品（第20～21図）

弥生時代中期の遺構、小型低方墳の周溝や包含層から多量の土器が出土した。全て図示していないが壷・甕・鉢・甕蓋・壷蓋と土錘（図242）・土製円板（図243）および縄文土器の深鉢が6点（図185・186・182・269～271）ある。高杯および紡錘車は出土していない。

3）　弥生時代中期の土器（第18～20図）

遺構と包含層（小型低方墳の周溝を含む）から少量の畿内第Ⅱ様式に属す土器が出土した。

土壙518出土土器（図183・189～192・216）

壷（図189～192）と鉢（図216）が出土した。底部近くの体部に穿孔された（図183）がある。

溝505出土土器（図197他）

壷（図197）が出土した。

溝812出土土器（図217他）

壷の体部（217）が1点出土した。外面に櫛描き直線文が施される。

4）　弥生時代の石器（第22・23図・図版46−52）

遺構・包含層より石鏃・石錐・ピエス、エスキエ・石匙・石核・凸刃削器・複刃石器・削器・石斧・砥石の製品と剥片が出土した。個々については、一覧表（表２）を作成したので参照されたい。この他に、多数の剥片（総数442点）が出土している。なお、サヌカイト石材の産地を併記したが、報告者の肉眼観察によるものである。参考程度に記したが、いずれ理化学的な産地同定を行いたいと考えている。最終的な石材産地はそれをもって確定したい。

出土した弥生土器のほとんどが前期であるので大半が同時期のものと思われるが、出土土器と同様少数の中期に属すものがある。

石鏃　全部で39点（図１～８など）出土したが前期に属すのは35点で１類の凹基無茎式が多く（31点）２類の平基無茎式（４点）も存在する。未製品１点と、縄文時代晩期に見られる五角形鏃（図版47−25）も１点存在する。最大長が１cmの小形品も含まれる。金山産が約８割を占めると思われる。

５類とした凸基有茎式は２点（図13など）で形態から見て中期に属す。石材は二上山産と考える。

石錐　15点（図９～12など）出土した。一部、中期に属すものが含まれると思われるが、識別できない。棒状を呈する３類７点、不定形な大きい頭部と短い錐部をもつ４類１点、逆Ｌ字状の形態をもつ５類７点である。５類が多いのが特徴でこれは前期に属すと考えて良いであろう。金山産は12点、８割と考える。

ピエス・エスキエ　10点（図版50−63～72など）出土した。金山産は６点、６割と考える。

石匙　２点（図14・図版51−74）出土した。金山産は１点、約１割と考える。

石核　１点（図版51−75）出土した。二上山産と考える。

凸刃、複刃削器・削器各１点（図版48・51−52・53・73）ある。金山産は２点、約７割と考える。

石斧　２点（図15・17）出土した。太型蛤刃石斧で石材は角閃石安山岩とハンレイ岩である。包含層出土であるが形態から、ともに前期に属すと考える。

砥石　１点（図16）出土した。ハンレイ岩製で古墳時代包含層出土であるが形態から前期に属すと考える。形態は石斧に似るがもろい材質から砥石と判断した。

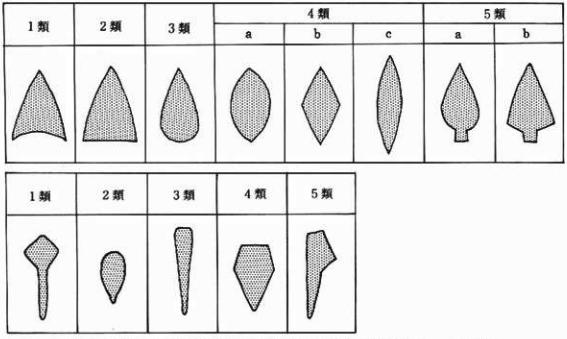
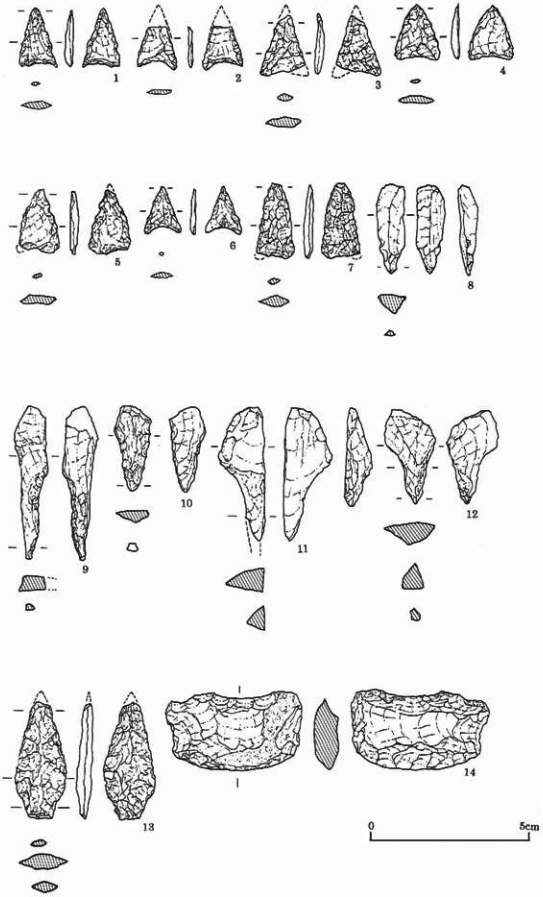
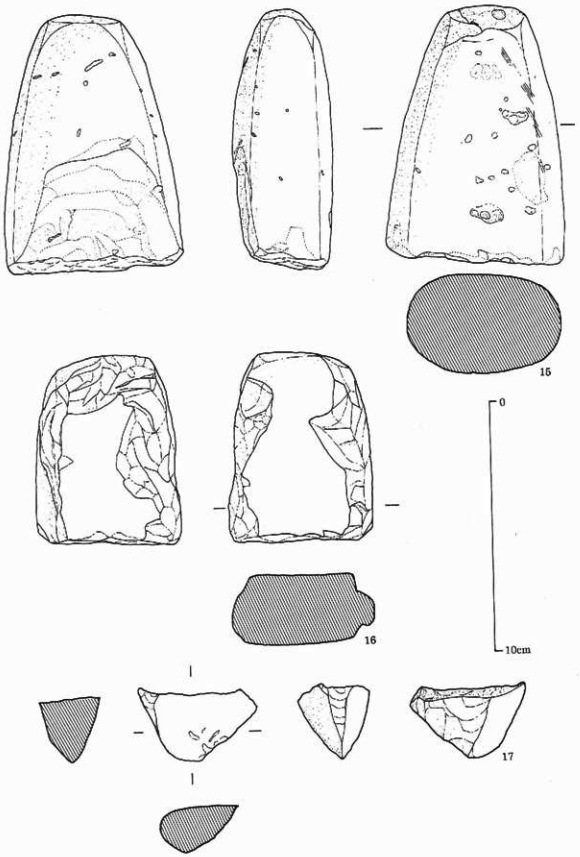


表１　石鏃・石錐形態分類表（河内平野遺跡群の動態Ⅲより、一部改編）



第22図　弥生時代石器（石鏃・石匙）実測図



第23図　弥生時代石器（石斧・砥石）実測図

表2　弥生時代石器一覧

番号	挿図番号 図版番号	器種	型式	出土地区・遺構・層名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材 産地	残存状況
1	13 46−13	石鏃	5類a形態	東地区東床土 溝150	3.65	1.59	0.49	2.4	サヌカイト 二上山	先端欠失
2	7 46−7	石鏃	1類	4A層12B	2.38	1.18	0.36	0.8	サヌカイト 二上山	先端欠失 基端欠失
3	6 46−6	石鏃	1類	4B層11B	1.49	1.19	0.19	0.2	サヌカイト 二上山	先端欠失
4	5 46−5	石鏃	1類	中地区4B層上面 溝700	2.02	1.28	0.27	0.7	サヌカイト 金山	先端欠失
5	4 46−4	石鏃	1類	中地区3層	1.82	1.14	0.25	0.5	サヌカイト 金山	完形
6	3 46−3	石鏃	1類	M層11B	1.65	1.40	0.3	0.6	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
7	2 46−2	石鏃	1類	4B層11C	1.60	1.45	0.4	0.3	サヌカイト 二上山	先端欠失
8	1 46−1	石鏃	1類	4層12A	1.75	1.20	0.3	0.4	サヌカイト 金山	完形
9	48−51	石鏃	5類b形態	溝503	3.25	1.70	0.5	2.3	サヌカイト 二上山	先端欠失
10	47−35	石鏃	1類	中地区12D 溝334	1.75	1.75	0.4	1.2	サヌカイト 金山	先端欠失
11	48−40	石鏃	1類	4B層9C	2.30	1.70	0.5	1.4	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
12	47−21	石鏃	1類	4B層9C	2.75	1.90	0.5	1.7	サヌカイト 金山	先端欠失
13	47−24	石鏃	1類	4A層11B	2.80	1.95	0.5	1.4	サヌカイト 金山	先端欠失
14	47−28	石鏃	2類	4A層12B	1.60	1.65	0.3	0.7	サヌカイト 二上山	先端欠失
15	47−25	石鏃	1類	4A層5C	1.55	1.60	0.25	0.8	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
16	48−49	石鏃	2類	4B層9C	1.65	1.40	0.5	1.3	サヌカイト 二上山	先端欠失
17	47−27	石鏃	1類	4A層12B	2.35	1.25	0.3	1.0	サヌカイト 金山	完形
18	48−43	石鏃	1類	4B層4E	1.15	1.65	0.3	0.5	サヌカイト 金山	先端欠失
19	47−30	石鏃	1類	4層上面 溝502	1.80	1.15	0.2	0.4	サヌカイト 二上山	先端部欠失
20	47−23	石鏃	1類	4A層8C	2.20	1.65	0.4	1.3	サヌカイト 金山	基端欠失
21	48−47	石鏃 (未製品)		4D層上面11C	2.10	1.90	0.6	2.8	サヌカイト 金山	
22	48−42	石鏃	1類	4A層6D	1.90	1.65	0.3	1.1	サヌカイト 金山	基端欠失
23	48−45	石鏃	1類	4A層10B	1.45	1.35	0.4	0.6	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
24	47−32	石鏃	1類	5E 溝450	1.55	1.55	0.3	0.6	サヌカイト 金山	先端欠失

番号	挿図番号 図版番号	器種	型式	出土地区・遺構・層名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材 産地	残存状況
25	48－48	石鏃	5角形	4A 層 6D	1.00	1.75	0.3	0.9	サヌカイト 二上山	先端欠失 基部欠失
26	48－39	石鏃	2類	4D 層 12B	1.25	1.95	0.4	1.2	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
27	47－22	石鏃	1類	4A 層 5C	2.35	1.60	0.7	2.4	サヌカイト 金山	基端欠失
28	48－46	石鏃	1類	4A 層 8D 溝 456	2.55	1.85	0.3	1.8	サヌカイト 金山	基端欠失
29	47－38	石鏃	2類	東地区東 3 層	2.30	1.75	0.3	1.1	サヌカイト 二上山	基端欠失
30	47－34	石鏃	1類	4B 層 9C	1.65	1.65	0.2	0.5	サヌカイト 金山	基端欠失
31	47－20	石鏃	1類	4B 層 9C	2.65	2.15	0.3	1.1	サヌカイト 金山	先端欠失
32	47－29	石鏃	1類	4A 層 8C	1.25	1.85	0.4	0.7	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
33	48－41	石鏃 (未製品)		東地区中 溝 334	2.45	1.55	0.4	1.6	サヌカイト 金山	
34	48－44	石鏃	1類	東地区中床土	2.15	1.55	0.5	1.3	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
35	47－26	石鏃	1類	4A 層 9C	2.35	1.35	0.3	0.6	サヌカイト 金山	基端欠失
36	47－33	石鏃	1類	5 層上面 溝 811 上層	1.25	1.40	0.3	0.9	サヌカイト 金山	完形
37	47－37	石鏃	1類	表採	1.95	1.00	0.2	0.4	サヌカイト 金山	基端欠失
38	47－31	石鏃	1類	4A 層 11B	1.50	1.85	0.4	1.0	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
39	47－36	石鏃	1類	5 層上面 12C ピット 410	1.40	1.60	0.3	0.8	サヌカイト 金山	先端欠失 基端欠失
40	9 46－9	石錐	5類	4B 層 7C	4.82	0.93	0.59	4.4	サヌカイト 金山	完形
41	12 46－12	石錐	5類	東地区中床土 溝 236	3.01	1.47	0.81	2.7	サヌカイト 金山	錐部先端 欠失
42	8 46－8	石錐	3類	西地区 13A 水路 3	2.80	0.73	0.68	1.1	サヌカイト 金山	完形
43	10 46－10	石錐	3類	東地区中 3 層	2.64	1.13	0.47	1.1	サヌカイト 金山	完形
44	11 46－11	石錐	5類	6E 溝 450 上層	4.14	2.68	0.85	2.6	サヌカイト 二上山	錐部先端 欠失
45	49－56	石錐	5類	ピット 2	2.30	1.85	0.40	1.5	サヌカイト 金山	錐部先端 欠失
46	49－57	石錐	3類	4D 層 12C	4.40	1.40	0.9	4.9	サヌカイト 二上山	錐部先端 欠失
47	49－59	石錐	5類	4D 層 12C	5.45	1.75	1.50	12.3	サヌカイト 金山	完形
48	49－62	石錐	3類	5 層 溝 508D	4.95	1.55	0.6	4.4	サヌカイト 完形	完形
49	49－61	石錐	3類	東地区東 4 層 溝 334	4.05	1.35	0.8	3.8	サヌカイト 二上山	完形

番号	挿図番号 図版番号	器種	型式	出土地区・遺構・層名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材 産地	残存状況
50	49−55	石錐	3類	東地区西3層	3.30	1.15	0.7	2.6	サヌカイト 金山	錐部先端 欠失
51	49−60	石錐	5類	東地区中 溝334	5.15	1.70	0.5	14.2	サヌカイト 金山	錐部先端 欠失
52	49−54	石錐	4類	5層上面11C ピット403	2.35	2.40	0.5	2.4	サヌカイト 金山	完形
53	48−50	石錐	3類	東地区東床土 溝170	2.65	1.15	0.7	1.4	サヌカイト 金山	完形
54	49−58	石錐	5類	5層上面12C ピット410	2.35	1.45	0.6	2.2	サヌカイト 金山	錐部先端 欠失
55	50−69	ピエス・ エスキーエ		4D層12C	2.05	2.95	0.8	4.4	サヌカイト 二上山	完形
56	50−65	ピエス・ エスキーエ		東地区東第3層	4.15	4.10	0.6	13.8	サヌカイト 金山	完形
57	50−63	ピエス・ エスキーエ		4A層12A	2.05	2.35	0.7	4.9	サヌカイト 金山	完形
58	50−67	ピエス・ エスキーエ		4A層10C	3.45	1.85	0.7	4.2	サヌカイト 金山	完形
59	50−70	ピエス・ エスキーエ		東地区中4層 溝334	3.95	3.40	1.0	19.4	サヌカイト 二上山	完形
60	50−71	ピエス・ エスキーエ		4B層4D 溝459	2.55	1.85	0.5	2.2	サヌカイト 二上山	完形
61	50−68	ピエス・ エスキーエ		4B層上面10D	1.45	2.05	0.6	2.7	サヌカイト 金山	完形
62	50−64	ピエス・ エスキーエ		4B層11C	2.85	3.45	0.9	11.5	サヌカイト 金山	完形
63	50−72	ピエス・ エスキーエ		4A層9B 溝455	3.55	2.80	0.7	7.6	サヌカイト 二上山	完形
64	50−66	ピエス・ エスキーエ		4A層8C	2.85	2.55	0.8	5.5	サヌカイト 金山	完形
65	14 46−14	石匙		4B層8B	4.35	2.40	0.9	12.4	サヌカイト 二上山	完形
66	51−74	石匙		5層 溝508E9E	4.40	5.65	0.7	16.4	サヌカイト 金山	完形
67	48−52	凸刃削器		5層上面12B 溝800	6.15	4.50	0.8	22.1	サヌカイト 金山	完形
68	51−73	複刃削器		4B層8E	8.75	6.45	1.2	76.0	サヌカイト 二上山	完形
69	48−53	削器		5E 溝450	5.50	8.35	0.9	28.3	サヌカイト 金山	完形
70	51−75	石核		6D島東壁	5.75	7.25	2.1	100.9	サヌカイト 二上山	完形
71	15 52−15	大型蛤刃 石斧		4B層8C	10.25	7.05	3.9	460.0	角閃石 安山岩	先端欠失
72	17 51−17	大型蛤刃 石斧		5層 溝505北	3.05	4.75	2.6	32.4	ハンレイ岩	刃部残存
73	16 52−16	砥石		4A層11B	5.65	7.55	2.8	248.3	ハンレイ岩	完形

2．古墳時代の遺物（第24～29図）

古墳時代の土器は、前述の様に5世紀後半から6世紀後半の須恵器・土師器・韓式土器が見られる。韓式土器は、軟式のものである。古墳に供献されたものが多く、完形品が多い。須恵器は群集墳に副葬されたいわゆる副葬用の須恵器と共通の器種が存在する。

1）　小型低方墳出土の遺物

1号墳出土遺物（第24～26図）

土師器（図281・282・284・286・288～292・293・301・304・305）

角閃石を含む在地産のものと他地域産の2者がある。

甕（図286・292・293・301・304・305）と高杯（281・282・284・288～291）がある。甕は口縁端部を内側にわずかに肥厚させる布留系の（図293・304・305）と口縁部を肥厚させない（図286・292・301）がある。（図288）は口縁部が外反する高杯である。

製塩土器（図279・280）

図示したのは外面が無文である。大半は同類であるが、平行タタキを施すものが少量認められる。

韓式土器（図274・276・295・296・303・306）

胎土からみると角閃石を含む在地産のものと他地域産の2者があるが、外面にタタキの施されるものは、全て他地域産である。

長胴甕（図274）鍋（図295）甕（図276・303・306）甑（図296）がある。（図274）は器体外面と口縁部内面をハケで仕上げる。（図303・306）は外面に格子タタキが施される。（図303）は体部中位の穴部分の破片は同時に出土し接合した。（図276）は体部外面に平行タタキを施した後ヘラ削りする。（図296）は外面に縄蓆文タタキを施す。把手下面中央に竹管による刺突が1箇所認められる。甑は他に外面をハケで仕上げる在地産のものが出土している。

須恵器（図300・309～311・314・315・318～320）

有蓋高杯蓋（図315）・蓋杯（図309～311）壺（図300）椀（図314）高杯（図319・320）甕（図318）がある。（図310）は、天井部外面のヘラ削りは逆時計回りである。（図321）は杯部内面に火ぶくれが認められる。いずれも焼成は良好である。

金属製品（図297～299）

鉄鏃（図298）現存長11.cm、最大刃幅1.3cmの長頸鏃である。茎の先端を欠失する。他に馬具の可能性がある破片が2点（図297・299）出土した。

出土遺物は、須恵器型式のＴＫ216～ＴＫ208に属すと考える。

2号墳出土遺物（第28図）

須恵器（図358～360・362・364）

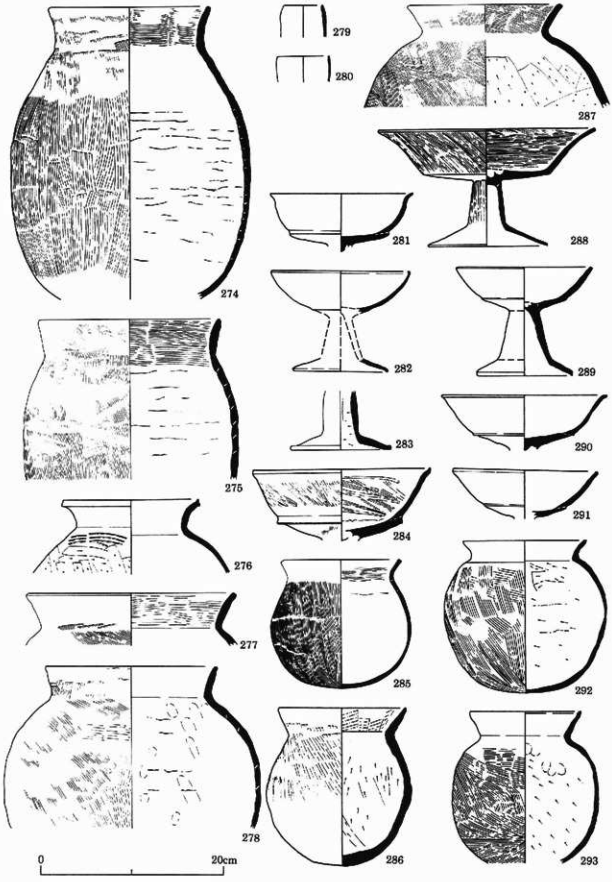
壺（図358）・甕（図362）杯蓋（図359・360）・有蓋高杯（図364）がある。（図359）は口径12.7cm天井部外面を時計回りでヘラ削りする。（図364）は類例の少ない大型の製品である。杯底部内面に一部ナデにより消され、はっきりしないが青海波ないしは同心円のタタキが認められる。

土師器は図示できるものがない。（図364）は、やや古い要素を残すが他は須恵器型式のＴＫ208に属すと考える。

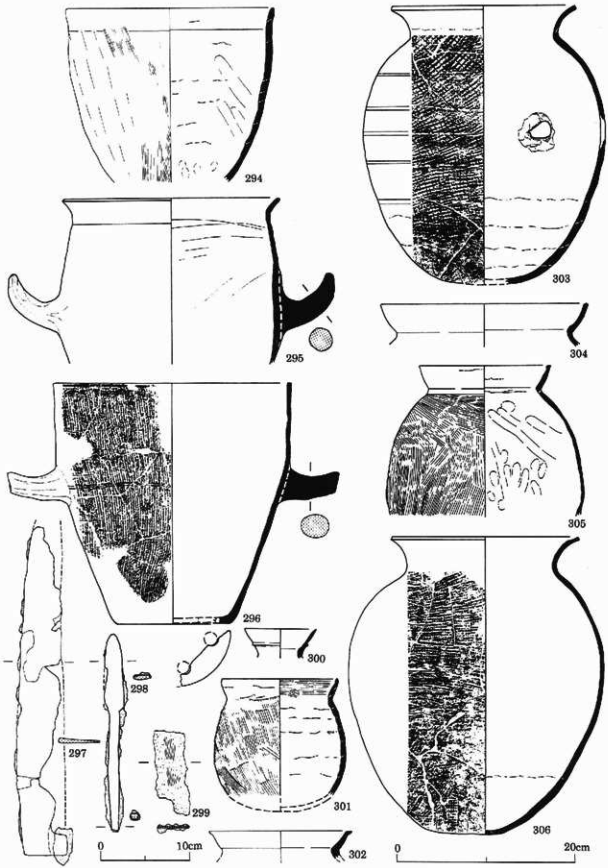
4号墳出土遺物（第28・29図）

須恵器（図365・366・382）

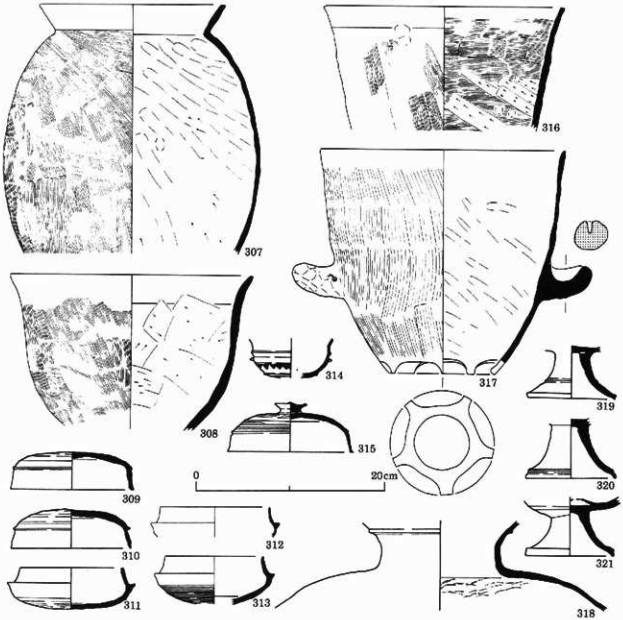
甕（図366）杯身（図382）脚付壺（図365）がある。（図366）は上述のごとく6号墳周溝出土品と接合した。



第24図　古墳時代遺構（1号墳周溝）出土土師器・製塩土器実測図



第25図　古墳時代遺構（1号墳周溝）出土土師器・韓式土器・須恵器・鉄製品実測図



第26図　古墳時代遺構（1号墳周溝）出土土師器・須恵器実測図

土師器（図352・353）

杯（図352）羽釜（図353）がある。（図352）は内面に放射状の暗文が認められる。

円筒埴輪（図351）底部径13cmの小型品である。外面に縦方向のハケを施す。今回の調査で出土した唯一の埴輪である。

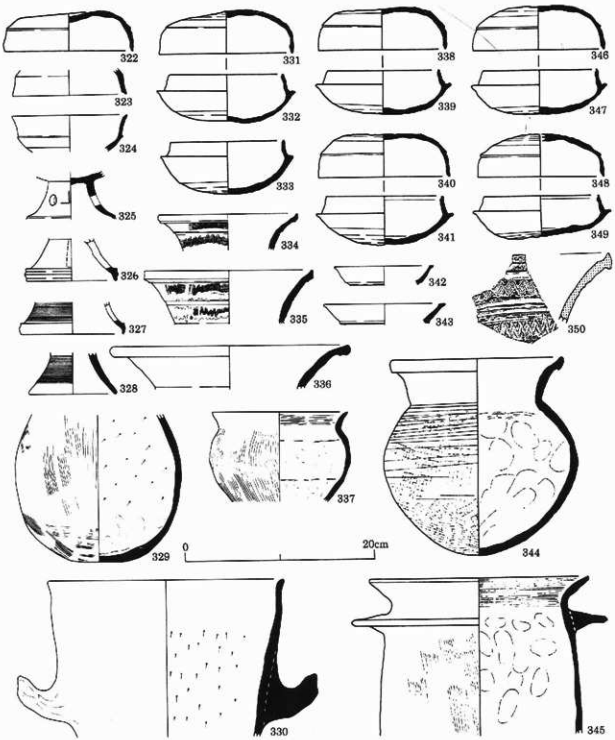
出土遺物は、須恵器型式のＴＫ209－ＴＫ217に属すと考える。したがって、円筒埴輪は混入品と判断できる。

5号墳出土遺物（第27図）

須恵器（図322・325～328・331～333・338～341・344・346～350）

蓋杯（図322・331～333・338～341・346～349）有蓋高杯（325～328）壷（344）などがある。（322・333）は出土状況から見て本来組み合っていたものと考える。

土師器（図309・330・337・345）



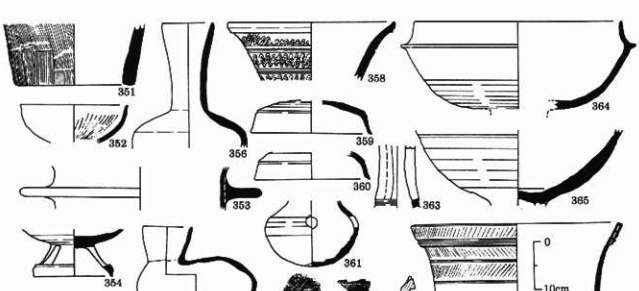
第27図　古墳時代遺構（5号墳周溝）出土土師器・須恵器実測図

在地産の羽釜（図345）と甕（図337）・甑（図330）・小型壺などが出土している。出土遺物は、須恵器型式のＴＫ47～ＭＴ15に属すと考える。この時期の羽釜は数少ない資料である。

6号墳出土遺物（第28図）

須恵器（図356・357・361・363・366）

長頸壺（図356）甕（図361）高杯（図363）平瓶（図357）甕（図366）などがある。



第28図　古墳時代遺構（4・6号墳周溝）出土土師器・須恵器実測図

土師器

図示できるものがない。(366) を除き須恵器型式のＴＫ43～ＴＫ209に属すと考える。

2）　傾斜地出土遺物（第29図）

土師器・須恵器・砥石・ウマの歯などが出土した。土師器は図示できるものがない。

須恵器（図367～371）

甕（図367・368）壷（図369）高杯（図371）がある。(図368) は体部外面に平行タタキを施す。(図369) は蓋がつく壷である。頸部外面に波状文を施す。

出土遺物は、(図367～370) が須恵器型式のＭＴ15～ＴＫ10に（図371）がＴＫ209に属すと考える。したがって、(図367～370) は5号墳に（図371）は6号墳に伴う祭祀に用いられたものと考えられる。

3）　その他遺構出土遺物（第29図）

溝512・515から須恵器が少量出土したが図示できるのは溝512出土品である。

溝512出土遺物

須恵器（図386）

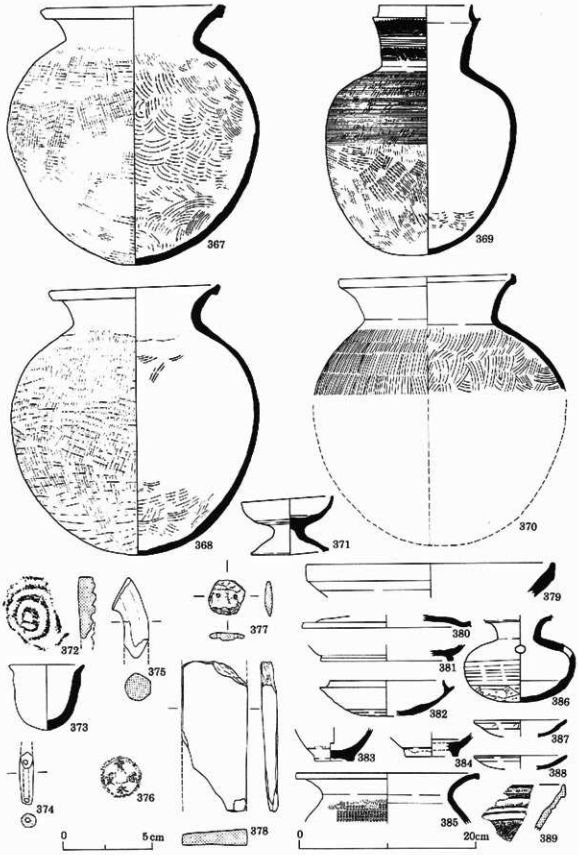
壷が1点出土した。現存器高9.8cm口縁部を欠失するが、他は完存する。底部に手持ちヘラ削りを施す。ＴＫ216に属すと考える。

4）　包含層出土遺物

少量の韓式土器・須恵器・土師器と石製品が出土した。石製品は（図377）は包含層出土の径2cmの滑石製双孔円板である。今回の調査では滑石製品はこれ一点が出土した。

3．奈良時代以降の遺物（図380・381・383・384・387・388）

奈良時代から平安時代前期に属す少量の須恵器・緑釉陶器などがある。図示できるのは須恵器の蓋（図380）杯（図381）である。鎌倉時代後期から近世の遺物で図示できるのはは、13世紀前半の土師器小皿（図387・388）と15世紀後半の和泉型瓦器擂鉢（図379）15世紀代の龍泉窯系青磁椀（図384）17世紀代の肥前陶器（図383）がある。



第29図　古墳から江戸時代遺構・包含層出土土師器・須恵器・国産陶器・石製品・古銭他実測図

出土遺物観察表

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物類(mm)	残存	備考
					内面	外面				
1	土壙1	弥生土器	壺	口径(14.2) 器高(7.4)	・口縁部ヘラミガキ ・体部ヘラミガキ	・口縁部ヨコナデ ・体部ヘラミガキ	内面10YR4/4 褐色 10YR1.7/1 黒色 外面10YR4/4 褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 雲母中量	口縁部 ～体部 1/4	・内面煤付着 ・在地産
2	土壙1	弥生土器	甕	口径(34.5) 器高(14.2)	・ナデ	・口縁電部ヘラ描沈線 ・口縁部ヨコナデ ・頸部横方向のナデ ・肩部段をもつ (やや風化している) ・体部ナデ	内面10YR 3/1～3/2 黒褐色 外面10YR4/3 にぶい黄褐色	3.0以下の長石・2.0以下の角閃石多量 微細な雲母微量	口縁部 ～体部 1/5	・内面煤付着 ・在地産
3	土壙1	弥生土器	壺	口径(24.4) 器高(9.3)	・口縁部と体部の境ユビオサエ ・体部ナデ(工具痕あり)	・口縁電部刻み目 ・口縁部ヨコナデ ・肩部ヘラ描沈線2条 ・ナデ(板ナデ?)	内面10YR6/3 にぶい黄色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石多量 微細な雲母微量	口縁部 ～体部 1/10	・在地産
4	土壙1	弥生土器	壺	口径(16.8) 器高(6.7)	・体部ナデ(工具痕あり)	・口縁電部刻み目 ・口縁部ヨコナデ ・肩部ヘラ描沈線2条 ・ナデ(板ナデ?)	内面10YR5/1 褐灰色 7.5YR6/4～7/4 にぶい橙色 外面10YR5/1 褐灰色 7.5YR6/4～7/4 にぶい橙色	2.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量 微細な雲母微量	口縁部 ～体部 1/5	・在地産
5	土壙1	弥生土器	壺	口径(22.8) 器高(11.5)	・口縁部と体部の境ユビオサエ ・胎かいハケメ後ナデ (やや風化している)	・口縁電部刻み目 ・口縁部ヨコナデ・ユビオサエ ・肩部ヘラ描沈線2条 ・観方向のナデ	内面10YR 5/4～4/2 にぶい黄色 ～灰黄褐色 外面10YR 5/4～4/2 にぶい黄褐色 ～灰黄褐色 10YR3/1 黒褐色	3.0以下の長石・2.0以下の角閃石多量 1.0以下の雲母少量 クサリ礫微量	口縁部 ～体部 1/4	・在地産 ・外面に黒斑あり
6	土壙1	弥生土器	壺	頸径(11.0) 器高(7.9)	・風化のため調整不明	・口縁部ヨコナデ ・体部ヘラミガキ	内面2.5Y8/2 灰白色 外面7.5YR 6/4～6/6 にぶい橙色 ～橙色	4.0以下の長石多量 黒色砂粒少量 クサリ礫・雲母微量	口縁部 ～頸部 1/4	・他地域産
7	土壙1	弥生土器	鉢	口径(19.0) 器高(7.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/1 褐灰色 外面7.5YR 6/4～6/6 にぶい橙色 ～橙色 7.5YR3/1 黒褐色	4.0以下の長石多量 2.0以下の角閃石多量クサリ礫	口縁部 ～体部 1/8	・在地産
8	土壙1	弥生土器	甕底部	器高(5.1) 底径(7.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR4/3 にぶい黄褐色 外面10YR5/2 灰黄褐色	2.0以下の長石・角閃石多量	底部 1/5	・在地産
9	土壙1	弥生土器	壺底部	器高(6.9) 底径(8.4)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の角閃石・長石多量	底部 1/2	・在地産
10	土壙1	弥生土器	壺	口径(14.8) 器高(8.4)	・風化のため調整不明	・口縁部ヨコナデ ・頸部段をもつ	内面10YR8/1 灰白色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色	3.0以下の長石多量白色砂粒・黒色砂粒多量	口縁部 ～体部 1/5	・他地域産

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
11	土壌1	弥生土器	把手付鉢	口径(14.9) 器高(8.9)	・ユビオサエ残る (風化のため調整不明)	・口縁部に把手を施し2孔を穿つ ・風化のため調整不明	内面2.5Y5/1 黄灰色 外面7.5YR5/4 におい褐色	4.0以下の長石多量 3.0以下の角閃石中量 微細な雲母少量	口縁部～体部 1/5	・在地産
12	土壌503	弥生土器	壺	器高(6.1)	・風化のため調整不明	・肩部段の上にヘラ描沈線2条 ・体部細いヘラ描沈線3条	内面7.5YR5/4 におい橙色 外面7.5YR5/4 におい橙色 断面7.5YR5/4 におい橙色	1.0以下の雲母 ・クサリ礫少量 3.0以下の長石・角閃石多量	1/3	・在地産
13	土壌1	弥生土器	壺底部	器高(3.1) 底径(7.7)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR4/2 灰褐色 外面7.5YR4/4 褐色	4.0以下の長石・ 1.0以下の角閃石多量雲母少量	底部 1/7	・在地産
14	土壌1	弥生土器	壺底部	器高(5.8) 底径(8.9)	・ナデ	・板ナデ? ・底部ヘラケズリ	内面10YR 4/1～2/1 褐灰色～黒色 外面10YR7/3 におい黄橙色	3.0以下の長石多量 微細な黒色砂粒中量 微細な雲母微量	体部 ～底部 1/4	・他地域産 ・内面塩付着
15	土壌1	弥生土器	壺底部	器高(2.5) 底径(7.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	10YR5/4～3/2 におい黄褐色 ～黒褐色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石多量クサリ礫微量	底部 1/3	・在地産 ・内外面とも風化著しい
16	土壌1	弥生土器	壺底部	器高(4.6) 底径(7.4)	・風化のため調整不明	・底部ヨコナデ (風化している)	内面2.5Y6/2 灰黄色 外面5YR 4/2～4/3 灰褐色 ～におい赤褐色	6.0以下の長石中量 4.0以下の角閃石多量クサリ礫・雲母微量	底部 1/4	・在地産
17	土壌1	弥生土器	壺底部	器高(7.0) 底径(6.2)	・体部ナデ	・体部板ナデ? ・底部ナデ	内面10YR5/4 におい黄褐色 外面5YR 5/4～4/4 におい赤褐色	3.0以下の長石少量 3.0以下の角閃石多量 1.0以下の雲母微量 微細な白色砂粒・黒色砂粒多量	体部 ～底部 2/5	・在地産 ・外面火をうける
18	土壌1	弥生土器	壺底部	器高(4.2) 底径(6.2)	・ナデ	・風化のため調整不明	内面10YR6/3 におい黄橙色 外面7.5YR5/4 におい褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石多量雲母微量クサリ礫少量	底部 1/4	・在地産
19	土壌1	弥生土器	壺	頸径(12.9) 器高(26.8) 底径(8.3) 腹径(29.6)	・ナデ	・頸部に1条の凸帯刻み目 ・体部ヘラ描沈線3条 ・ヘラミガキ	内面2.5Y8/1 灰白色 2.5Y3/1 黒褐色 外面7.5YR 7/6～8/1 橙色～灰白色 7.5YR2/1 黒色	3.0以下の長石多量雲母少量	体部 ～底部 1/2	・他地域産
20	土壌1	弥生土器	壺	器高(19.1) 底径(7.6)	・ハケメ後ナデ	・風化のため調整不明	内面10YR 4/1～2/1 褐灰色～黒色 外面10YR7/3 におい黄橙色	3.0以下の長石多量 微細な黒色砂粒中量 微細な雲母微量	体部 ～底部 1/4	・在地産

番号	遺構・層	器種	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
21	土壙1	弥生土器	壺	器高(18.6) 底径(8.7) 胴径(27.8)	・風化のため調整不明	・胴部ヘラ描沈線3条 ・底部ユビオサエ後ヨコナデ	内面7.5YR3/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/2 灰褐色	3.0以下の長石・角閃石多量雲母微量	底部完形 体部2/5	・在地産
22	土壙1	弥生土器	壺	器高(10.6) 底径(8.2)	・風化のため調整不明	・底部接合部のユビナデ及もり ・風化のため調整不明	内面2.5Y6/1 黄灰色 外面7.5YR 6/4～5/3 にぶい橙色 ～にぶい褐色	6.0以下の長石・5.0以下の角閃石多量クサリ礫・雲母微量	体部～底部1/3	・在地産 ・外面一部に黒斑あり
23	土壙1	弥生土器	甕	口径(28.1) 器高(8.9)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部ヨコナデ ・胴部ヘラ描沈線2条	7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石中量5.0以下の角閃石多量クサリ礫微量	口縁部～体部1/3	・在地産
24	土壙234	弥生土器	壺	口径(23.2) 器高(6.5)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面5YR4/3 にぶい赤褐色 外面5YR4/3 にぶい赤褐色 断面5YR5/2 灰褐色	2.0以下の長石・0.5以下の雲母中量2.0以下の角閃石多量1.0以下のクサリ礫少量	口縁部1/5	・在地産 ・部部外面黒斑あり
25	土壙234	弥生土器	壺	口径(23.2) 器高(2.9)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面7.5YR5/6 明褐色 外面7.5YR4/1 褐灰色 断面7.5YR5/6 明褐色	2.0以下の角閃石多量2.0以下の長石・0.5以下の雲母少量	1/10	・在地産
26	土壙234	弥生土器	壺(又は鉢)	口径(20.0) 器高(3.6)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・ハケメ(風化著しい)	内面7.5YR3/4 にぶい褐色 外面7.5YR3/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石多量2.0以下の長石・0.5以下の雲母中量	1/8	・在地産
27	土壙234	弥生土器	甕又は壺底部	器高(3.9) 底径(8.2)	・風化のため調整不明	・ハケメ(風化している)	内面10YR5/4 にぶい黄褐色 外面10YR5/4 にぶい黄褐色 断面10YR3/4 にぶい黄褐色	2.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量1.0以下のクサリ礫少量0.5以下の雲母少量	底部1/5	・在地産 ・外面一部黒色化(甕又は黒底)
28	土壙234	弥生土器	甕又は壺底部	器高(3.5) 底径(8.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR5/3 にぶい黄褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	4.0以下の長石・角閃石少量1.0以下のクサリ礫少量0.5以下の雲母少量	底部1/3	・在地産
29	土壙234	弥生土器	壺又は甕底部	器高(2.8) 底径(5.4)	・風化のため調整不明	・底部ヘラケズリ ・風化のため調整不明	内面5YR3/4 にぶい赤褐色 外面2.5Y6/3 灰黄色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	6.0以下の長石・5.0以下の角閃石多量1.0以下のクサリ礫少量0.5以下の雲母中量	底部完形	・在地産
30	土壙234	弥生土器	壺又は甕底部	器高(1.1) 底径(3.9)	・風化のため調整不明	・底部ヘラ描線刻 ・体部下方底部との境界にヘラ描沈線1条	内面2.5Y3/1 黒褐色 外面2.5Y5/1 黄灰色 断面2.5Y3/1 黒褐色	3.0以下の長石・1.0以下の角閃石0.5以下の雲母中量2.0以下のクサリ礫少量	底部完形	・在地産 ・底部外面の一部と内面全体黒色化

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
31	土壙234	弥生土器	鉢	口径 (39.7) 器高 (12.1)	・ナデ	・口縁部ナデ ・体部ヘラケズリ後ヘラミガキ	内面10YR6/4 にぶい黄橙色 外面2.5Y 6/3～5/1 にぶい黄色 ～黄灰色	2.0以下の長石・角閃石多量クサリ礫微量	口縁部 1/2	・在地産
32	土壙410	弥生土器	壺	口径 (22.6) 器高 (9.6)	・風化のため調整不明	・口縁端部ヨコ目 ・肩部ヘラ描沈線3条	口縁部2.5YR5/6 明赤褐色 体部10YR6/3 にぶい黄橙色	2.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量雲母中量	口縁部 1/10	・在地産
33	土壙410	弥生土器	壺	口径 (21.8) 器高 (5.5)	・風化のため調整不明	・口縁端部ヨコ目(風化著しい)	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石中量2.0以下の角閃石多量1.0以下の雲母少量	1/7	・在地産
34	土壙410	弥生土器	壺	口径 (23.4) 器高 (5.3)	・風化のため調整不明	・口縁端部ヨコ目 ・体部上方ヘラ描沈線4条	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の角閃石多量2.0以下の長石・0.5以下の雲母中量1.0以下のクサリ礫極少量	1/10	・在地産 ・一部に煤付着
35	土壙410	弥生土器	壺	口径 (19.4) 器高 (6.4)	・風化のため調整不明	・口縁端部ヨコ目 ・肩部ヘラ描沈線2条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面10YR6/3 にぶい黄橙色	2.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量	口縁部 1/4	・在地産
36	土壙234	弥生土器	甕又は壺底部	器高 (6.1) 底径 (8.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR5/3 にぶい黄色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の長石・5.0以下の角閃石多量3.0以下の雲母中量1.0以下のクサリ礫少量	底部 1/4	・在地産
37	土壙234	弥生土器	甕底部	器高 (4.7) 底径 (10.7)	・風化のため調整不明	・体部ハケメ後ヘラミガキ(風化している) ・底部ヘラケズリ後ナデ	内面7.5YR4/2 灰褐色 外面7.5YR5/3 にぶい褐色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	5.0以下の角閃石多量5.0以下の長石中量1.0以下のクサリ礫・0.5以下の雲母少量	底部 完形	・在地産
38	土壙234	弥生土器	壺	口径 (17.1) 器高 (7.2)	・風化のため調整不明	・口縁端部ヨコ目 ・肩部ヘラ描沈線2条	内面2.5Y5/3 黄褐色 外面2.5Y3/2 黒褐色	4.0以下の長石多量角閃石・雲母	口縁部 1/10	・在地産
39	土壙410	弥生土器	壺	口径 (12.4) 器高 (2.2)	・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描沈線1条以上	内面10YR5/4 にぶい黄色 外面10YR5/4 にぶい黄色 断面10YR5/4 にぶい黄橙色	2.0以下の角閃石多量2.0以下の長石・1.0以下のクサリ礫・1.0以下の雲母少量	1/5	・在地産 ・外面赤色顔料付着
40	土壙410	弥生土器	壺	口径 (16.4) 器高 (6.3)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR7/6 橙色 外面5YR7/6 橙色 断面5YR7/6 橙色	4.0以下の長石極多量4.0以下のクサリ礫少量1.0以下の雲母極少量	1/7	・他地域産

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
41	土壙410	弥生土器	壺	口径 (16.8) 器高 (3.0)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石中量 1.5以下の長石・0.5以下の雲母少量	1/7	・在地産
42	土壙410	弥生土器	壺	口径 (16.6) 器高 (4.7)	・風化のため調整不明	・頸部に段をもつ (風化している)	10YR4/4 褐色	1.0以下の長石・角閃石	口縁部 1/7	・口縁部内面一部煤付着
43	土壙410	弥生土器	把手付鉢	口径 (15.0) 器高 (5.6)	・ナデ	・口縁部直下に把手を貼す ・ナデ	内面10YR5/4 にぶい黄色 外面10YR 5/6～2/1 黄褐色～黒色	1.0以下の長石 1.0以下の角閃石雲母	口縁部 1/4	・在地産
44	土壙234	弥生土器	壺	口径 (15.4) 器高 (8.0)	・風化のため調整不明	・頸部に段をもつ ・段直下に縦の4条1単位のヘラ描沈線	10YR5/3 にぶい黄褐色	5.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量	口縁部 1/2	・在地産
45	土壙234	弥生土器	壺	口径 (12.8) 器高 (3.4)	・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描沈線1条 (前出凸帯の可能性あり)	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	1.0以下の長石中量 2.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	1/10	・在地産
46	土壙234	弥生土器	壺	口径 (14.0) 器高 (6.1)	・風化のため調整不明	・口縁部ヘラ描沈線1条 ・頸部段をもつ	5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の長石中量 3.0以下の角閃石多量	口縁部 1/7	・在地産
47	土壙234	弥生土器	壺	口径 (13.1) 器高 (4.9)	・風化のため調整不明	・頸部段をもつ (風化している)	10YR5/3 にぶい黄橙色	3.0以下の長石中量 3.0以下の角閃石多量	口縁部 1/7	・在地産
48	土壙234	弥生土器	壺	口径 (13.9) 器高 (5.4)	・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描沈線3条	2.5Y7/1 灰白色 外面5YR6/6 橙色	2.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量クサリ礫少量	口縁部 1/7	・在地産
49	柄508	弥生土器	甕	口径 (20.2) 器高 (4.1)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下ヘラ描沈線1条	内面5YR4/1 にぶい赤褐色 外面2.5YR4/6 赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母少量	1/10	・在地産 ・内外面煤付着 (二次焼成?)
50	柄508	弥生土器	鉢	口径 (16.2) 器高 (7.5)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR4/6 赤色 外面10YR4/6 赤色 断面10YR4/6 赤色	1.0以下の長石中量 2.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	1/10	・在地産 (二次焼成?)

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
51	土壙410	弥生土器	鉢	口径 (15.0) 器高 (4.1)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石 中量 4.0以下の角閃石 多量	1/7	・在地産
52	土壙517	弥生土器	壺	器高 (4.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR6/3 にぶい黄色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面10YR6/3 にぶい黄色	1.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	1/3	・在地産
53	土壙517	弥生土器	底部	器高 (4.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR6/4 にぶい橙色	5.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母 少量	1/3	・在地産 ・外面黒斑あり
54	土壙517	弥生土器	底部	器高 (5.4)	・風化のため調整不明	・ヘラミガキ (風化著しい)	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面10YR6/3 にぶい黄色	2.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量	1/3	・在地産
55	土壙517	弥生土器		器高 (5.0)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/1 褐灰色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR6/3 にぶい橙色	3.0以下の長石・2.0以下の角閃石 多量 5.0以下のクサリ礫少量 1.0以下の雲母 少量	1/3	・在地産
56	土壙2	弥生土器	壺	口径 (40.4) 器高 (6.3)	・横方向のヘラミガキ (風化している)	・横方向のヘラミガキ (風化している)	内面7.5YR 7/6~7/3 橙色~ にぶい橙色 外面7.5YR 7/6~7/3 橙色~ にぶい橙色 断面7.5YR6/1 褐灰色	5.0以下の長石 多量 1.0以下のクサリ礫・雲母少量	1/10	・他地域産 ・外面一部黒色化
57	土壙2	弥生土器	壺	口径 (11.6) 器高 (3.1)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量	1/6	・在地産
58	土壙2	弥生土器		口径 (14.8) 器高 (6.1)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の雲母 少量	1/6	・在地産
59	土壙2	弥生土器	底部	器高 (2.6) 底径 (9.4)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/1 褐灰色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	6.0以下の長石・2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量	底部 1/5	・在地産
60	土壙2	弥生土器	底部	器高 (5.0) 底径 (9.0)	・風化のため調整不明	・体部分割のヘラミガキ ・底部ヘラミガキ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石・4.0以下の角閃石 多量 0.5以下の雲母 中量	底部 3/4	・在地産

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
61	土壌504	弥生土器	甕	口径 (15.05) 器高 (16.4) 底径 (6.5)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・底部平底	内面7.5YR6/4 によい褐色 外面7.5YR 6/3～2/2 によい褐色～黒褐色	2.0以下の長石・角閃石・雲母・クサリ礫	口縁部～体部ほぼ完形	・在地産 ・外面煤付着
62	土壌504	弥生土器	甕蓋	口径 (20.0) 器高 (2.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	10YR5/3～3/1 によい黄褐色～黒褐色	1.0以下の長石・雲母・角閃石	口縁部 1/7	・在地産 ・内面煤付着
63	土壌503	弥生土器	壺	口径 (16.4) 器高 (3.7)	・風化のため調整不明	・頸部段をもつ(又は沈線)	内面10YR6/3 によい黄褐色 外面7.5YR5/3 によい褐色 断面7.5YR5/4 によい褐色	4.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫 0.5以下の雲母中量	1/8	・在地産
64	土壌503	弥生土器	壺底部	器高 (3.6) 底径 (8.0)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/3 によい褐色 外面7.5YR5/3 によい褐色 断面7.5YR5/3 によい褐色	3.0以下の長石・5.0以下の角閃石多量 2.0以下のクサリ礫少量 1.0以下の雲母少量	1/3	・在地産 ・底部内面黒斑あり
65	土壌503	弥生土器	底部	器高 (6.3) 底径 (11.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/3 によい褐色 外面7.5YR5/3 によい褐色 断面7.5YR5/3 によい褐色	5.0以下の長石多量 5.0以下の角閃石中量 1.0以下のクサリ礫少量	1/4	・在地産 ・外面煤付着 ・80と同一固体
66	土壌2	弥生土器	壺	口径 (15.4) 器高 (13.3)	・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描沈線沈線文間に2条の円形刺突文	内面7.5YR5/4 によい褐色 外面2.5YR6/6 橙色	2.0以下の長石・角閃石多量 クサリ礫微量	口縁部 1/4	・在地産
67	土壌3	弥生土器	壺底部	器高 (2.3) 底径 (9.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR2/1 黒褐色 外面5YR4/4 によい赤褐色 断面5YR4/4 によい赤褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母少量	底部 1/4	・在地産 ・内外面煤付着
68	土壌504	弥生土器	底部	器高 (4.0) 底径 (7.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 によい褐色 外面7.5YR5/4 によい褐色 断面7.5YR5/4 によい褐色	3.0以下の長石・角閃石中量 1.0以下の雲母・クサリ礫少量	底部 完形	・在地産 ・外面下ガー部に黒斑あり
69	土壌504	弥生土器	底部	器高 (3.4) 底径 (15.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR6/2 灰褐色 外面5YR5/4 によい赤褐色 断面5YR5/4 によい赤褐色	3.0以下の長石少量 6.0以下の角閃石多量	1/5	・在地産
70	土壌504	弥生土器	底部	器高 (4.8) 底径 (10.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 によい褐色 外面7.5YR5/4 によい褐色 断面7.5YR5/4 によい褐色	3.0以下の長石多量 1.0以下の角閃石中量 1.0以下の雲母少量	1/4	・在地産 ・内面煤付着

番号	遺構・層	種別	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物粒(mm)	残存	備考
					内面	外面				
71	土壙504	弥生土器	鉢	口径 (15.8) 器高 (6.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR6/4 にぶい黄橙色 外面10YR6/4 にぶい黄色 断面10YR6/4 にぶい黄色	5.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫・雲母少量	1/8	・在地産
72	土壙503	弥生土器	壺蓋	口径 (20.6) 器高 (8.0)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明 (ヘラミガキ)	内面2.5YR4/6 赤褐色 外面2.5YR4/6 赤褐色 断面2.5YR4/6 赤褐色	2.0以下の長石・角閃石中量 1.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母少量	1/10	・在地産 ・内外面煤付着
73	土壙503	弥生土器	底部	器高 (6.3) 底径 (13.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/6 明褐色 外面5YR7/3 にぶい橙色 断面5YR7/3 にぶい橙色	3.0以下の長石・5.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	1/4	・在地産
74	土壙2	弥生土器	底部	器高 (5.0) 底径 (7.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	6.0以下の長石・5.0以下の角閃石多量	底部1/4	・在地産
75	土壙504	弥生土器	壺	口径 (11.4) 器高 (5.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面3YR5/3 にぶい赤褐色 外面5YR5/3 にぶい赤褐色 断面5YR5/3 にぶい赤褐色	5.0以下の角閃石中量 1.0以下の長石・クサリ礫少量	1/7	・在地産
76	土壙3	弥生土器	壺	器高 (11.4) 頸径 (24.4)	・ハケメ・ユビナデ(風化している) ・頸部ヘラ描沈線3条 ・横方向のヘラミガキ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石中量 3.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	胴部1/5	・在地産
77	土壙3	弥生土器	壺	器高 (7.5) 頸径 (13.0)	・風化のため調整不明	・頸部粘付凸帯(風化著しい)	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 断面7.5YR7/4 にぶい橙色	4.0以下の長石多量 1.0以下のクサリ礫少量 2.0以下の雲母少量	頸部1/5	・他地域産
78	土壙3	弥生土器	甕	口径 (22.5) 器高 (14.1)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・頸部ヘラ描沈線4条 2・3条間に楕円形の刺突文	7.5YR 5/6~5/2 明褐色 ~灰黄褐色	2.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量 クサリ礫微量	1/3	・在地産
79	土壙504	弥生土器	底部	器高 (2.5) 底径 (7.4)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	2.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量	3/10	・在地産
80	土壙504	弥生土器	底部	器高 (6.9) 底径 (12.0)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR4/3 にぶい赤褐色 外面5YR4/3 にぶい赤褐色 断面5YR4/3 にぶい赤褐色	5.0以下の長石多量 2.0以下の角閃石・雲母少量 1.0以下のクサリ礫少量	3/10	・在地産 ・外面に煤付着 ・65と同一個体

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
81	土壙504	弥生土器	鉢	口径 (30.5) 器高 (10.1)	・風化のため調整不明	・肩部段をもつ(風化している)	7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR7/1 明褐灰色	角閃石・長石多量	口縁部小破片	・在地産
82	土壙503	弥生土器	底部	器高 (1.6) 底径 (3.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	1.0以下の長石中量 2.0以下の角閃石多量 0.5以下の雲母少量	1/2	・在地産
83	ピット218	弥生土器	鉢	口径 (19.0) 器高 (11.5) 底径 (7.4)	・ヘラミガキ ・底部風化している	・ヘラミガキ ・底部平底	内面7.5YR2/1 黒色 10YR6/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR2/1 黒色 7.5YR5/3 にぶい褐色	3.0以下の長石・角閃石多量白色砂粒・黒色砂粒多量雲母少量	2/5	・在地産
84	土壙1	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	10YR5/3 にぶい黄褐色	3.0以下の長石・角閃石多量クサリ礫・雲母微量	口縁部小破片	・在地産
85	土壙1	弥生土器	広口壺		・横方向のミガキ	・ナデ ・削出凸帯	内面5YR4/4 にぶい赤褐色 外面2.5Y7/1 灰白色 2.5Y2/1 黒色	3.0以下の長石中量 4.0以下の角閃石多量白色砂粒・黒色砂粒多量	体部小破片	・在地産
86	土壙503	弥生土器	甕		・風化のため調整不明 (表面落剝)	・口縁端部刻み目	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
87	土壙503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の角閃石多量 1.0以下の長石・雲母少量	小破片	・在地産
88	土壙503	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	1.0以下の長石3.0以下の角閃石中量 0.5以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
89	土壙503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描沈線3条 その直下に縦方向にヘラ描沈線4条	内面7.5YR8/2 灰白色 外面7.5YR8/3 浅黄橙色 断面7.5YR8/2 灰白色	3.0以下の長石多量 1.0以下のクサリ礫中量	小破片	・他地域産
90	土壙503	弥生土器	壺		・風化・欠損のため調整不明	・肩部段をつけた上に斜格子文とヘラ描沈線1条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR2/1 黒褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石中量 3.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産 ・外面黒色化

番号	遺構・層	種別	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
91	土壙503	弥生土器	壺又は鉢		・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ描沈線2条(又は削出凸帯)	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石 多量 2.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産 ・外面黒斑あり
92	土壙1	弥生土器	壺		・口縁部ヨコナデ	・口縁端部刻み目 ・口縁部ヨコナデ	内面10YR3/3 にぶい黄褐色 外面10YR5/6 黄褐色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
93	土壙1	弥生土器	鉢		・口縁部ヨコナデ	・口縁部ヨコナデ ・口縁部ヘラ描沈線3条	10YR3/2 黒褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
94	土壙1	弥生土器	壺		・口縁部板ナデ (工具痕あり)	・口縁端部刻み目 ・口縁部ヨコナデ ・肩部ヘラ描沈線2条 ・体部ナデ	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR 6/1～2/1 褐灰色～黒色	2.0以下の長石 少量 3.0以下の角閃石 多量 微細な白色砂粒 ・黒色砂粒多量 クサリ礫	口縁部 小破片	・在地産
95	溝503	縄文土器	深鉢		・風化のため調整不明	・肩部貼付凸帯に刻み目 ・体部下方ヘラケズリ	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR3/1 黒褐色 断面7.5YR5/2 灰褐色	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
96	土壙503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下ヘラ描沈線3条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
97	土壙503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・ハケメ(風化している)	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/1 褐灰色	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫・雲母少量	小破片	・在地産
98	土壙503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部削出凸帯	内面10YR5/2 灰黄褐色 外面10YR7/2 にぶい黄橙色 断面10YR7/2 にぶい黄橙色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 中量 2.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
99	土壙503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部ヘラ描沈線 ・頸部削出凸帯(又は沈線)	内面10YR5/1 褐灰色 外面10YR6/3 にぶい黄橙色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	6.0以下の長石 多量 1.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
100	土壙503	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ描沈線2条とその間に刺突文	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石 中量 1.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
101	土壙503	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部羽状文	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 5.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産
102	土壙1	弥生土器	甕蓋		・口縁部ヨコナデ	・口縁部ヨコナデ	10YR4/3 にぶい黄褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 クサリ礫・雲母	小破片	・在地産
103	土壙1	縄文土器	深鉢		・ナデ	・貼付凸帯上に刻み目 ・ナデ	7.5YR5/4～4/2 にぶい褐色 ～灰褐色	1.0以下の長石 2.0以下の角閃石	小破片	・在地産
104	土壙507	縄文土器	鉢		・風化のため調整不明	・口縁部直下貼付凸帯 上に刻み目	内面7.5YR6/6 橙色 外面7.5YR6/4 にぶい橙色 断面7.5YR6/4 にぶい橙色	1.0以下の長石・角閃石中量 0.5以下のクサリ礫・雲母少量	小破片	・在地産
105	土壙2	弥生土器	壺又は甕		・風化のため調整不明	・口縁部ヨコナデ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 中量 1.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
106	土壙2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
107	土壙2	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ描沈線3条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 中量 1.5以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
108	土壙2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量 1.0以下の雲母中量	小破片	・在地産 ・内面煤付着
109	土壙2	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR7/6 橙色 外面7.5YR7/6 橙色 断面7.5YR7/6 橙色	3.0以下の長石 多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・他地域産
110	土壙2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・ヘラ描沈線1条 (模様の可能性あり)	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.5以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 0.5以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
111	土壙504	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面7.5YR4/1 褐灰色 断面7.5YR4/1 褐灰色	3.0以下の長石・1.5以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
112	土壙504	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の角閃石中量 0.5以下の長石・雲母少量	小破片	・在地産
113	土壙504	弥生土器	壺		・ナデ	・体部木葉文様	内面10YR7/3 にぶい黄橙色 外面5YR5/6 橙色 断面5YR6/6 橙色	3.0以下の長石多量	小破片	・他地域産
114	土壙504	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・体部段をつけた上に ヘラ描沈線1条以上	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	1.0以下の長石多量 2.0以下の角閃石少量	小破片	・在地産
115	土壙1	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・体部ヘラ描沈線1条	7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
116	土壙1	縄文土器	深鉢		・ナデ	・口縁部ヨコナデ ・口縁部と体部の境貼付凸帯1条 その上に刻み目 ・体部ケズリ	内面10YR6/4 にぶい黄橙色 外面7.5YR 5/6～3/2 明褐色～黒褐色	2.0以下の長石中量 3.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
117	土壙2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石1.0以下の角閃石中量 1.0以下のクサリ礫・雲母少量	小破片	・在地産
118	土壙2	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面2.5Y6/2 灰黄色 断面2.5Y6/2 灰黄色	2.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産 ・風化著しい
119	土壙2	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・体部削出凸帯上にヘラ描沈線2条	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面10YR6/2 灰黄褐色 断面10YR6/2 灰黄褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 2.0以下のクサリ礫・雲母少量	小破片	・在地産
120	土壙2	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・木の葉文様	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	3.0以下の長石多量 2.0以下の角閃石中量 2.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	器種	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
121	土壙504	弥生土器	壷		・ナデ	・体部ヘラ描沈線3条	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面2.5Y6/2 灰黄色 断面2.5Y6/2 灰黄色	1.0以下の長石少量 2.0以下の角閃石多量 1.0以下の雲母僅少量	小破片	・在地産
122	土壙504	弥生土器	壷		・ナデ	・体部ヘラ描沈線1条	内面7.5YR7/3 にぶい橙色 外面2.5Y7/2 灰黄色 断面7.5YR7/3 にぶい橙色	6.0以下の長石多量 2.0以下の角閃石中量	小破片	・在地産
123	土壙504	弥生土器	壷		・ナデ	・体部ヘラ描沈線3条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	4.0以下の長石・6.0以下の角閃石多量 1.0以下の雲母少量	小破片	・在地産
124	土壙2	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下ヘラ描沈線1条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石多量 2.0以下の角閃石中量 1.0以下のクサリ礫・雲母少量	小破片	・在地産 ・内面一部黒斑あり
125	土壙2	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石多量 3.0以下の長石・1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産 ・口縁部内面の一部黒斑あり
126	土壙2	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・口縁端部一部刻み目	内面10YR6/4 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石中量 2.0以下の角閃石多量 0.5以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
127	土壙2	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・肩部段をつけた上にヘラ描沈線1条	内面10YR6/3 にぶい黄褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	4.0以下の長石中量 3.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
128	土壙2	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・肩部段をつけた上にヘラ描沈線1条	内面10YR7/1 黒色 外面10YR6/2 灰黄褐色 断面10YR6/2 灰黄褐色	5.0以下の長石・角閃石多量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産 ・内面黒色化
129	土壙504	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面5YR4/3 にぶい赤褐色 外面5YR4/3 にぶい赤褐色 断面5YR4/3 にぶい赤褐色	1.0以下の長石・角閃石中量	小破片	・在地産
130	土壙504	弥生土器	壷		・ナデ	・体部ヘラ描沈線2条以上	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・角閃石中量 1.0以下の雲母少量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	種別	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物粒(mm)	残存	備考
131	土壙504	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・体部段をつけた上にヘラ描沈線3条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石少量 2.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
132	土壙1	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面7.5YR4/1 褐灰色 外面7.5YR4/3 褐色	2.0以下の長石・角閃石多量	小破片	・在地産
133	土壙234	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	3.0以下の角閃石多量 2.0以下の長石・1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
134	土壙234	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ描沈線3条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・中量 2.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫・雲母少量	小破片	・在地産
135	土壙234	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下削出凸帯 その上にヘラ描沈線1条	内面10YR6/4 にぶい黄橙色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の角閃石多量 1.0以下の長石・2.0以下のクサリ礫・0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産
136	土壙517	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下ヘラ描沈線2条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR4/3 褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石・角閃石中量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産
137	土壙517	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ描沈線2条	内面7.5YR7/3 にぶい橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石中量 2.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
138	土壙517	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部ヘラ描沈線1条 ・頸部に段をもつ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・1.0以下の角閃石多量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産
139	土壙517	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部削出凸帯	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR6/4 にぶい橙色 断面7.5YR6/4 にぶい橙色	1.0以下の長石中量 3.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産 ・内外面一部黒斑あり
140	土壙517	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ描沈線3条	内面10YR7/2 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石中量 3.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	組織	器形	底径(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物類(mm)	残存	備考
141	土壙234	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下ヘラ描沈線2条その間に竹管文	内面5YR4/4 にぶい赤褐色 外面5YR4/4 にぶい赤褐色 断面5YR4/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫・雲母少量	小破片	・在地産
142	土壙234	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面5YR4/4 にぶい赤褐色 外面5YR4/4 にぶい赤褐色 断面5YR4/4 にぶい赤褐色	3.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
143	土壙234	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部刺出凸帯1帯	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	3.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産
144	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面2.5YR6/6 明赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面2.5YR6/6 明赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
145	土壙517	弥生土器	甕		・風化のため調整不明(強いヨコナデ)	・風化のため調整不明(ヨコナデ)	内面7.5YR4/3 褐色 外面7.5YR4/3 褐色 断面7.5YR4/3 褐色	1.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産 ・内外面一部黒色化
146	土壙517	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部ヘラ描沈線	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面7.5YR5/3 にぶい褐色 断面7.5YR5/3 にぶい褐色	2.0以下の長石・ 1.0以下の雲母 6.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
147	土壙517	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・頸部貼付凸帯	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面10YR6/3 にぶい黄橙色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	2.0以下の角閃石 1.0以下の雲母 多量 1.0以下の長石 中量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産 ・外面一部黒斑あり
148	土壙517	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描沈線あり	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面5YR5/4 にぶい褐色 断面5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産 ・内外面黒斑あり
149	土壙234	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・ クサリ礫少量	小破片	・在地産
150	土壙234	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部細いヘラ描沈線3条	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	器種	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物類(mm)	残存	備考
					内面	外面				
151	土壙410	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面2.5YR5/1 赤灰色 外面2.5YR6/4 にぶい橙色 断面2.5YR6/4 にぶい橙色	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
152	土壙410	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・口縁端部ヘラ描沈線1条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石・3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
153	土壙410	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・口縁端部ヘラ描沈線1条	内面7.5YR6/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・3.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫様少量	小破片	・在地産
154	土壙410	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・頸部段をつけた上にヘラ描沈線2条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面10YR5/3 にぶい黄褐色 断面10YR5/3 にぶい黄褐色	2.0以下の長石・角閃石中量	小破片	・在地産 ・176と同一個体
155	土壙410	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描沈線1条以上	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	1.5以下の長石 多量 3.0以下の角閃石 少量	小破片	・在地産
156	土壙517	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・頸部削出凸帯上にヘラ描沈線2条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下の長石 中量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
157	土壙234	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下へラ描沈線4条	内面7.5YR3/1 黒褐色 外面7.5YR3/1 黒褐色 断面7.5YR3/1 黒褐色	3.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・クサリ礫少量 0.5以下の雲母 少量	小破片	・在地産 ・内外面黒色化（煤？）
158	土壙234	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・肩部刺突文その上方にヘラ描沈線1条（以上）下方2条	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面10YR5/6 明赤褐色 断面10YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産無
159	土壙410	弥生土器	壷		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目（風化著しい） ・体部上方ヘラ描沈線3条	内面2.5YR5/6 明赤褐色 外面10YR6/3 にぶい黄色 断面2.5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産 ・32と160と同一個体
160	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・頸部上方ヘラ描沈線3条	内面2.5YR5/6 明赤褐色 外面10YR6/3 にぶい黄色 断面10YR6/3 にぶい黄色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫・雲母少量	小破片	・在地産 ・32と159と同一個体

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
161	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・訂部2条1単位の重弧文	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
162	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・体部ヘラ描沈線2条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・クサリ礫・雲母 少量	小破片	・在地産
163	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	4.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・雲母少量	小破片	・在地産
164	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・クサリ礫少量	小破片	・在地産
165	土壙517	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁部直下削出凸帯	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・1.0以下の角閃石 多量 0.5以下の雲母 少量	小破片	・在地産
166	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/2 灰褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
167	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目(風化著しい)	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR3/1 黒褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 少量 1.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
168	土壙410	弥生土器	甕		・ナデ	・体部上方ヘラ描沈線2条	内面7.5YR6/6 橙色 外面7.5YR6/6 橙色 断面7.5YR6/6 橙色	1.0以下の角閃石 少量 2.0以下の長石・1.0以下のクサリ礫中量	小破片	・在地産
169	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・体部上方ヘラ描沈線2条	内面2.5YR4/6 赤褐色 外面2.5YR4/6 赤褐色 断面2.5YR4/6 赤褐色	1.0以下の角閃石 中量 1.0以下の長石・雲母少量	小破片	・在地産
170	土壙234	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部段をつけた上にヘラ描沈線1条 段と沈線の間に刺突文	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 1.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母 少量	小破片	・在地産 ・255と同一個体

番号	遺構・層	時期	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物類(mm)	残存	備考
171	土壙234	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描線刻	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 2.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母 少量	小破片	・在地産 ・201と205と同一個体
172	土壙368	縄文土器	深鉢		・風化のため調整不明	・粘付凸帯上に刻み目	内面2.5YR4/6 赤褐色 外面2.5YR4/6 赤褐色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	1.0以下の長石 中量 5.0以下の角閃石 多量 1.0以下の雲母 少量	小破片	・在地産
173	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・体部上方ヘラ描沈線3条	内面7.5YR5/4 にぶい赤褐色 外面7.5YR5/4 にぶい赤褐色 断面7.5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫極少量 0.5以下の雲母 少量	小破片	・在地産
174	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目(風化著しい)	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
175	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・体部上方ヘラ描沈線2条	内面7.5YR3/1 黒褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石 中量	小破片	・在地産
176	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部段をつけた上にヘラ描沈線2条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面10YR5/3 にぶい黄褐色 断面10YR5/3 にぶい黄褐色	2.0以下の長石・角閃石中量	小破片	・在地産 ・154と同一個体
177	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石・2.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
178	土壙410	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部ふくらみをもつ	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・1.0以下の角閃石 多量 1.0以下の雲母 少量	小破片	・在地産
179	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 断面7.5YR7/4 にぶい橙色	1.5以下の長石 多量 2.0以下のクサリ礫中量	小破片	・他地域産 ・赤色顔料塗布 ・180と同一個体
180	土壙410	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 断面7.5YR7/4 にぶい橙色	1.0以下の長石 多量 1.0以下のクサリ礫中量	小破片	・他地域産 ・赤色顔料塗布 ・179と同一個体

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物粒(mm)	残存	備考
					内面	外面				
181	土壙518	弥生土器	壺	口径 (15.8) 器高 (3.2)	・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描沈線1条	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の角閃石 中量 1.0以下の長石・ 0.5以下のクサリ 礫少量	1/8	・在地産 ・内面一部黒色化
182	土壙518	弥生土器	壺	口径 (28.4) 器高 (4.3)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	小破片	・在地産
183	土壙518	弥生土器	壺底部	器高 (11.0) 底径 (6.6)	・風化のため調整不明	・ヘラミガキ	内面10YR8/3 浅黄橙色 外面10YR8/3 浅黄橙色 断面10YR8/3 浅黄橙色	1.0以下の長石・ クサリ礫少量	底完形	・他地域産 ・体部下方焼成後外面からの穿孔あり
184	溝505	弥生土器	甕	口径 (24.2) 器高 (6.0)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下へラ描沈線1条 ・体部斜かいハケメ（風化している）	内面2.5YR5/4 にぶい赤褐色 外面2.5YR5/4 にぶい赤褐色 断面2.5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 ・クサリ礫多量 0.5以下の雲母 中量	1/8	・在地産
185	溝812	縄文土器	深鉢	口径 (25.6) 器高 (4.2)	・ヨコナデ	・口縁部直下1条の貼付凸帯に刻み目 ・ヨコナデ	内面10YR4/4 褐色 10YR6/7～3/1 にぶい黄橙色 ～黒褐色 外面10YR4/4 褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石	口縁部 1/8	・在地産
186	溝812	縄文土器	深鉢	口径 (27.1 ～31.5) 器高 (28.3)	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ	・口縁部直下と口縁部 ・体部の隆帯付凸帯に刻み目 ・口縁部ヨコナデ ・体部ケズリ	内面10YR5/6 黄褐色 外面10YR 5/4～2/2 にぶい黄褐色多量 ～黒褐色	1.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量	口縁部 1/4	・在地産
187	土壙518	弥生土器	甕	口径 (15.8) 器高 (2.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR4/2 灰褐色 外面7.5YR4/2 灰褐色 断面7.5YR4/2 灰褐色	1.0以下の長石・ 角閃石中量 0.5以下のクサリ 礫少量	1/6	・在地産
188	土壙518	弥生土器	底部	器高 (3.6) 底径 (6.6)	・風化のため調整不明（ハケメ）	・風化のため調整不明（ハケメ）	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	5.0以下の長石 多量 1.0以下の角閃石 中量 2.0以下のクサリ 礫少量	2/5	・在地産
189	土壙518	弥生土器	壺	口径 (21.2) 器高 (3.1)	・粗いハケメ	・ヨコナデ	内面10YR7/3 にぶい黄橙色 外面10YR7/3 にぶい黄橙色 断面10YR7/3 にぶい黄橙色	2.0以下の長石 多量 1.0以下のクサリ 礫少量	1/7	・他地域産 ・弥生中期
190	土壙518	弥生土器	高杯	口径 (内15.4) (外22.8) 器高 (4.2)	・風化のため調整不明	・杯部左上りのヘラミガキ ・口縁部横方向のヘラミガキ（風化している）	内面7.5YR8/2 灰白色 外面7.5YR8/2 灰白色 断面7.5YR8/2 灰白色	1.0以下の長石 中量	1/4	・他地域産 ・弥生中期

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
191	土壙518	弥生土器	壺	口径 (11.2) 器高 (2.4)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR8/2 灰白色 外面7.5YR8/2 灰白色 断面7.5YR8/2 灰白色	1.0以下の長石・クサリ礫少量	1/7	・他地域産 ・弥生中期
192	土壙518	弥生土器	壺	口径 (25.6) 器高 (10.0)	・口縁部扇形文2段（風化している）	・頸部7条1単位の直線文（風化している）	内面7.5YR8/2 灰白色 外面7.5YR8/2 灰白色 断面7.5YR8/2 灰白色	2.0以下の長石・1.0以下のクサリ礫中量	1/4	・他地域産 ・弥生中期
193	溝505上層	弥生土器	壺	口径 (28.8) 器高 (7.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR3/6 明赤褐色 外面5YR3/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石中量 4.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	口縁部 1/5	・在地産
194	溝505上層	弥生土器	壺	器高 (13.8) 底径 (30.8)	・風化のため調整不明	・肩部削出凸帯上にヘラ描沈線1条 ・体部削出凸帯上にヘラ描沈線1条	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石中量 4.0以下の角閃石多量	体部 1/4	・在地産
195	溝812	弥生土器	底部	器高 (4.7)	・風化のため調整不明	・ヘラミガキ	内面5YR3/4 にぶい赤褐色 外面5YR3/4 にぶい赤褐色 断面5YR3/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石中量 2.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	3/5	・在地産 ・底部穿孔あり ・外面一部黒斑あり
196	溝812	弥生土器	底部	器高 (5.7)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・角閃石中量 1.0以下のクサリ礫少量	1/5	・在地産
197	溝505	弥生土器	壺	口径 (13.2) 器高 (5.0)	・風化のため調整不明	・6条/cmのハケメ	内面5YR7/3 にぶい橙色 外面5YR7/3 にぶい橙色 断面5YR7/3 にぶい橙色	2.0以下の長石多量 2.0以下のクサリ礫少量	1/4	・他地域産 ・弥生中期
198	溝505 2層	弥生土器	甕	口径 (15.0) 器高 (9.3)	・体部風化している	・口縁端部刻み目 ・体部（頸）単截竹管文2段 ・体部ハケメ（風化している）	内面2.5YR5/6 明赤褐色 外面2.5YR5/6 明赤褐色 断面2.5YR5/6 明赤褐色	3.0以下の角閃石多量 6.0以下の長石・1.0以下の雲母中量 2.0以下のクサリ礫少量	口縁部 1/4	・在地産
199	土壙518	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁直下ヘラ描沈線2条	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	1.0以下の長石・2.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
200	溝505	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部ヘラ描沈線1条 ・口縁部円孔（残存1ヶ所）	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	種別	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物(mm)	残存	備考
201	溝505	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描沈線	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面2.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	5.0以下の長石・1.0以下の角閃石 中量 1.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産 ・171と203と同一個体
202	溝612 第5層上面	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明 ・体部赤色顔料塗布	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	3.0以下の角閃石中量 2.0以下の長石・1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
203	土壙518	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面10YR4/1 褐灰色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	6.0以下の長石中量 2.0以下の角閃石多量 1.0以下の雲母少量	小破片	・在地産
204	溝812	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下へラ描沈線2条	内面2.5YR4/4 にぶい赤褐色 外面2.5YR4/6 赤褐色 断面2.5YR4/6 赤褐色	2.0以下の長石・1.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
205	溝505	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描綾杉	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石中量 2.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産 ・171と201と同一個体
206	溝812 第5層上面	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明 ・体部に赤色顔料塗布	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面10YR6/3 にぶい黄橙色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	5.0以下の長石少量 1.0以下の角閃石中量 1.0以下のクサリ礫極少量	小破片	・在地産
207	土壙518	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	1.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
208	溝505	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下段をつけた上に「逆段」ヘラ描沈線1条	内面5YR3/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産
209	溝505	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部細いヘラ描沈線4条	内面7.5YR7/6 橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 断面7.5YR7/4 にぶい橙色	2.0以下の長石多量 0.5以下のクサリ礫少量	小破片	・他地域産
210	溝505	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部細いヘラ描沈線4条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・角閃石多量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物粒(mm)	残存	備考
211	土壙518	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁部直下所出凸帯	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR3/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石・2.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
212	溝565	弥生土器	鉢		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目	内面10YR7/4 にぶい黄橙色 外面10YR7/4 にぶい黄橙色 断面10YR7/4 にぶい黄色	1.0以下の長石中量 2.0以下の角閃石 0.5以下のクサリ礫少量 1.0以下の雲母少量	小破片	・在地産
213	溝812	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部へラ描沈線2条	内面10YR6/2 橙色 外面10YR6/2 橙色 断面10YR6/2 橙色	2.0以下の長石多量 0.5以下のクサリ礫少量	小破片	・他地域産
214	溝812	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁部直下へラ描沈線1条	内面10YR3/1 黒褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石 1.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
215	溝812	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石 3.0以下の角閃石多量 0.5以下の雲母 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
216	土壙518	弥生土器	無頸壺		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明 ・口縁部直下に円孔あり(穿孔1ヶ所)	内面5YR7/3 にぶい橙色 外面5YR7/3 にぶい橙色 断面5YR7/3 にぶい橙色	1.0以下の長石多量 1.0以下のクサリ礫中量	小破片	・他地域産 ・弥生中期 ・外面黒色化
217	溝812	弥生土器	壺		・4条/cmの粗いハケメ(風化している)	・肩部櫛描直線文(条単位不明)	内面10YR8/2 灰白色 外面10YR8/2 灰白色 断面10YR8/2 灰白色	2.0以下の長石中量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・他地域産 ・弥生中期 ・外面一部黒斑あり
218	溝812	縄文土器	鉢		・風化のため調整不明	・口縁端部に板状に貼付けた上調文を施している と思われる(風化著しい) ・体部屈下へラ描沈線	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	2.0以下の長石 1.0以下の角閃石多量 2.0以下の雲母少量	小破片	・在地産 ・縄文後期 ・綿密文土器
219	溝812	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下へラ描沈線1条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	小破片	・在地産
220	溝812	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁部直下へラ描沈線1条 ・体部細かいハケメ(風化している)	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の長石少量 1.0以下の角閃石中量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
221	溝451	弥生土器	甕	口径 (15.1) 器高 (4.0)	・風化のため調整不明	・口縁端部ヘラ描沈線1条 ・胴部ヘラ描沈線2条沈線文間に楕円形の刺突文	10YR6/3 にぶい黄橙色	4.0以下の長石 中景 2.0以下の角閃石 多量	口縁部 1/7	・在地産
222	溝459	弥生土器	壺蓋	口径 (12.0) 器高 (2.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	10YR5/4 にぶい黄色	2.0以下の長石 角閃石・クサリ礫	1/4	・在地産
223	溝500	弥生土器	壺蓋	口径 (11.2) 器高 (1.7)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	1.0以下の長石 中量 1.0以下の角閃石 多量 0.5以下の雲母 少量	3/10	・在地産
224	溝500上層	弥生土器	無頸壺	口径 (7.6) 器高 (9.2) 底径 (6.4)	・ナデ	・風化のため調整不明 ・口縁部に円孔2ヶ1対	内面5YR7/4 にぶい橙色 外面5YR7/4 にぶい橙色 断面5YR7/4 にぶい橙色	2.0以下の長石 中量 1.0以下のクサリ礫多量	底部 3/5 口縁部 3/10	・他地域産
225	溝500	弥生土器	壺	口径 (20.0) 器高 (2.2)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面5YR6/4 にぶい橙色 断面5YR6/4 にぶい橙色	2.0以下の長石 多量	3/10	・他地域産 ・弥生中期
226	溝500下層	弥生土器	壺	口径 (25.4) 器高 (20.6)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目8条1単位の波状文 ・胴部風化している	内面7.5YR5/6 明褐色 外面7.5YR5/6 明褐色 断面7.5YR5/6 明褐色	6.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 中量 1.0以下の雲母 少量	1/4	・在地産 ・弥生中期
227	4B層	弥生土器	壺	器高 (20.5) 底径 (8.8) 最大径 (29.0)	・風化のため調整不明	・ヘラミガキ	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面2.5YR4/4 にぶい赤褐色 断面7.5YR5/3 にぶい褐色	5.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量 2.0以下の雲母 少量	底部完形 体部 1/2	・在地産
228	4A層	弥生土器	ミニチュア壺	口径 (5.9) 器高 (7.9) 底径 (3.7)	・ナデ	・ナデ	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面7.5YR4/2 灰褐色 断面7.5YR3/1 黒褐色	3.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量クサリ礫少量	ほぼ完形	・在地産 ・一部黒斑あり
229	溝451	弥生土器	壺蓋	器高 (4.3) 天井部 (2.4)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面2YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石 中量 2.0以下の角閃石 多量 1.0以下のクサリ礫少量	1/5	・在地産 ・鉢底部の可能性あり
230	溝800	弥生土器	壺蓋	口径 (10.4) 器高 (1.8)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR2/2 黒色 外面10YR4/2 灰黄褐色 断面10YR4/2 灰黄褐色	2.0以下の長石・ 3.0以下の角閃石 多量 0.5以下の雲母 少量	1/8	・在地産 ・内面全体煤付着

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物粒(mm)	残存	備考
					内面	外面				
231	溝809	弥生土器	壺蓋	口径 (11.2) 器高 (1.9)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR4/3 褐色 外面7.5YR4/3 褐色 断面7.5YR4/3 褐色	4.0以下の長石・角閃石多量 0.5以下のクサリ礫少量 1.0以下の雲母少量	1/8	・在地産 ・内外面一部煤付着
232	溝450	弥生土器	甕	口径 (16.0) 器高 (4.8)	・風化のため調整不明	・口縁端部肥み目 ・肩部耐出凸帯および段をもつ	内面10YR4/2 灰黄褐色 外面10YR5/3 にぶい黄褐色	2.0以下の長石多量角閃石・クサリ礫	口縁部 1/10	・在地産
233	溝450上層	弥生土器	壺底部	器高 (6.4) 底径 (9.0)	・ハケメ後ナデ	・ハケメ後ナデ ・底面に木編痕	内面7.5YR8/2 灰白色 外面7.5YR7/6 橙色 底部7.5YR7/1 明褐灰色	3.0以下の長石多量 1.0以下のクサリ礫少量白色砂粒 ・黒色砂粒多量 微細な雲母微量	底部 3/4	・他地域産
234	溝500	弥生土器	壺	口径 (15.0) 器高 (4.3)	・風化のため調整不明	・頸部貼付凸帯	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	3.0以下の長石中量 3.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量	1/5	・在地産
235	4 B層	弥生土器	鉢	器高 (4.7)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・1.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量 1.0以下の雲母中量	2/5	・在地産 ・内外面の一部の黒斑あり
236	4 B層	弥生土器	壺底部	器高 (9.9) 底径 (8.0)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面7.5YR4/2 灰褐色	2.0以下の長石多量 角閃石・雲母・クサリ礫少量	底部 1/4	・在地産
237	東地区W 4 B層	弥生土器	底部	器高 (2.2) 底径 (9.1)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面10YR6/3 にぶい黄橙色 断面10YR6/3 にぶい黄橙色	3.0以下の長石中量 5.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母少量	底部 1/2	・在地産 ・外面黒斑あり ・底部外面モミ圧痕あり
238	溝500アゼ	弥生土器	底部	器高 (9.4) 底径 (7.2)	・ハケメ(風化著しい)	・ヘラミガキ(風化著しい)	内面10YR7/3 にぶい黄色 外面7.5YR5/3 にぶい褐色 断面10YR7/3 にぶい黄色	2.0以下の長石多量 黒色砂粒少量	1/5	・他地域産 ・弥生中期
239	溝450	弥生土器	壺	口径 (14.9) 器高 (5.8)	・風化のため調整不明	・口縁部ヨコナデ ・体部ヘラミガキ	10YR5/4 にぶい黄褐色	3.0以下の長石・2.0以下の角閃石多量	口縁部 1/4	・在地産
240	溝450	弥生土器	底部	器高 (4.0) 底径 (8.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色 断面7.5YR6/3 にぶい褐色	5.0以下の長石・2.0以下の角閃石多量 1.0以下のクサリ礫・雲母少量	3/5	・在地産 ・外面黒斑あり ・底部外面モミ圧痕あり

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
241	溝800	弥生土器	壺	口径 (32.6) 器高 (4.4)	・休部ナデ	・口縁端部刻み目 ・頸部ヘラ描沈線 2条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下の長石 2.0以下の角閃石 中量 1.0以下の雲母 少量	1/7	・在地産
242	溝450上層	土製品	土錘	長さ (5.0) 幅 (3.6) 厚さ (3.3) 内径1.2×1.5		・ナデ・ユビオサエ	内面10YR6/4 にぶい黄橙色 外面10YR6/4 にぶい黄橙色 断面10YR6/4 にぶい黄橙色	1.0以下の長石 2.0以下の角閃石 多量 0.5以下の雲母 少量	完 形	・在地産
243	溝450	土製品	円板	長径 (4.6) 短径 (4.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明 (ハケメ)	内面5YR6/4 にぶい橙色 外面2.5YR6/4 にぶい橙色 断面2.5YR6/4 にぶい橙色	1.0以下の長石 中量 3.0以下の角閃石 多量 2.0以下のクサリ礫少量		・在地産
244	4 B層	弥生土器	壺	口径 (20.6) 器高 (17.0)	・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・体部風化のため調整不明	内面5YR7/4 にぶい橙色 外面5YR7/4 にぶい橙色 断面5YR7/4 にぶい橙色	5.0以下の長石 多量 2.0以下の角閃石 少量 3.0以下のクサリ礫中量	1/5	・在地産
245	溝500上層	縄文又は弥生土器	底部	器高 (2.5) 底径 (8.0)	・風化のため調整不明	・ハケメ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面10YR5/2 灰黄褐色 断面10YR5/2 灰黄褐色	3.0以下の角閃石 多量 3.0以下の長石 1.0以下の雲母 中量 1.0以下のクサリ礫少量	1/4	・在地産
246	4 B層	弥生土器	底部	器高 (3.1) 底径 (7.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR3/1 黒褐色 外面7.5YR5/4 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面10YR5/2 灰黄褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 2.0以下のクサリ礫少量 1.0以下の雲母 中量	7/10	・在地産
247	溝450上層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・体部上方ヘラ描沈線 2条その間に刺突文	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の長石・ 2.0以下の角閃石 多量	小破片	・在地産
248	溝500	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描沈線 2条 その間に竹管文	内面5YR5/3 にぶい赤褐色 外面5YR5/3 にぶい赤褐色 断面5YR4/1 褐灰色	2.0以下の長石 少量 1.0以下の角閃石 中量	小破片	・在地産
249	溝500上層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部ヘラ描沈線 2条 重弧文（3条1対）	内面7.5YR5/3 にぶい褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面7.5YR5/3 にぶい褐色	1.0以下の長石 少量 2.0以下の角閃石 中量	小破片	・在地産
250	4 B層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・頸部段を施した上にヘラ描沈線 4条	内面10YR4/2 灰黄褐色 外面10YR4/2 灰黄褐色 断面10YR4/2 灰黄褐色	2.0以下の角閃石 多量 1.0以下の長石・ クサリ礫・雲母 少量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
251	4 B層	弥生土器	鉢類底		・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR6/3 にぶい黄色 外面7.5YR5/3 にぶい褐色 断面7.5YR5/3 にぶい褐色	3.0以下の長石・4.0以下の角閃石中量	小破片	・在地産 ・内面一部黒色化
252	溝450	弥生土器	甕		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・口縁部直下ヘラ描沈線1条	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	4.0以下の長石・2.0以下の角閃石多量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産
253	溝450	弥生土器	壺		・ヘラミガキ	・体部直弧文 ・ヘラミガキ	10YR4/4 褐色	2.0以下の長石・1.0以下の角閃石多量 雲母少量	小破片	・在地産
254	溝501	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・ヘラ描沈線4条それぞれの比器文と沈線文の間に刺突文計3帯	内面7.5YR3/4 にぶい褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の角閃石中量 2.0以下の長石少量 1.0以下のクサリ礫極少量 2.0以下の雲母極少量	小破片	・在地産
255	溝500 南北アゼ下	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部段を施した上にヘラ描沈線1条その間に刺突文	内面10YR6/3 にぶい黄色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面10YR6/3 にぶい黄色	1.0以下の長石少量 3.0以下の角閃石中量	小破片	・在地産 ・170と同一個体
256	東地区第3層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部羽状文	内面10YR6/4 にぶい黄色 外面10YR6/4 にぶい黄色 断面10YR6/4 にぶい黄色	0.5以下の長石少量 1.0以下の角閃石中量	小破片	・在地産
257	東地区Z	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部重弧文(4条1単位)	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	1.0以下の長石中量 4.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
258	溝450下層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・口縁端部刻み目 ・体部上方ヘラ描沈線3条上2条の間に横走の刺突文	内面5YR5/4 にぶい赤褐色 外面10YR6/2 灰黄褐色 断面5YR5/4 にぶい赤褐色	2.0以下の長石・角閃石多量	小破片	・在地産 ・外面一部黒斑あり
259	溝450	弥生土器	鉢		・風化のため調整不明	・口縁部直下ヘラ描沈線3条	内面5YR4/2 灰褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫・雲母少量	小破片	・在地産 ・直立口縁
260	溝450	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・直弧文(3条1単位)	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 断面7.5YR5/4 にぶい褐色	2.0以下の長石・5.0以下の角閃石多量 2.0以下のクサリ礫中量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
261	溝501	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部＋基調ヘラ線刻の間に×基調の木葉文（3条1対）	内面7.5YR7/3によい褐色 外面7.5YR7/3によい褐色 断面7.5YR7/3によい褐色	1.0以下の長石少量 3.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
262	4B層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部削出凸帯上にヘラ描沈線1条木葉文区画に細い沈線	内面5YR5/3によい赤褐色 外面5YR5/3によい赤褐色 断面5YR5/3によい赤褐色	2.0以下の長石多量 1.0以下の角閃石中量	小破片	・在地産
263	4B層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・細い沈線と木葉文	内面7.5YR5/6明褐色 外面7.5YR5/6明褐色 断面7.5YR5/6明褐色	2.0以下の長石・角閃石多量 1.0以下のクサリ礫少量 0.5以下の雲母少量	小破片	・在地産
264	溝450上層	弥生土器	壺		・ハケメ	・肩部段をもつ	内面5YR5/4によい赤褐色 外面5YR5/4によい赤褐色 断面5YR5/4によい赤褐色	2.0以下の長石・3.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
265	溝450上層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部下向重弧文	内面7.5YR5/4によい褐色 外面7.5YR5/4によい褐色 断面7.5YR5/4によい褐色	1.0以下の長石少量 2.0以下の角閃石中量	小破片	・在地産 ・外面黒斑あり
266	溝501	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部ヘラ描沈線3条その間に刻突文	内面10YR6/2灰黄褐色 外面5YR5/4によい赤褐色 断面5YR5/4によい赤褐色	3.0以下の長石少量 2.0以下の角閃石中量 1.0以下のクサリ礫・雲母極少量	小破片	・在地産
267	溝451	弥生土器	壺		・ユビオサエ	・ヘラ描沈線による重弧文	10YR4/4褐色	2.0以下の角閃石多量 1.0以下の長石中量	体部小破片	・在地産
268	4A層	弥生土器	壺		・ヘラミガキ	・肩部段を施した上に重弧文（2条1単位）と＋基調の木葉文	内面5YR2/1黒褐色 外面5YR5/4によい赤褐色 断面5YR5/4によい赤褐色	2.0以下の長石・4.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
269	溝450上層	縄文土器	深鉢		・風化のため調整不明	・肩部貼付凸帯上に刻み目	内面7.5YR5/3によい褐色 外面7.5YR5/3によい褐色 断面10YR5/2灰黄褐色	1.0以下の長石少量 2.0以下の角閃石中量	小破片	・在地産
270	溝450	縄文土器	鉢		・ヨコナデ・ナデ	・口縁部直下貼付凸帯上に刻み目	内面7.5YR5/4によい褐色 外面7.5YR4/1褐灰色 断面7.5YR4/1褐灰色	1.0以下の長石中量 1.0以下の角閃石多量 0.5以下のクサリ礫・雲母少量	小破片	・在地産

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
271	4 B層	縄文土器	鉢		・風化のため調整不明	・口縁部貼付凸帯上に刻み目	内面5YR4/4 によい赤褐色 外面5YR4/4 によい赤褐色 断面10YR3/1 黒褐色	1.0以下の長石・2.0以下の角閃石中量	小破片	・在地産
272	4 B層	弥生土器	壺		・風化のため調整不明	・肩部わらび手文状に貼付	内面7.5YR5/4 によい褐色 外面7.5YR5/4 によい褐色 断面7.5YR5/4 によい褐色	1.0以下の長石中量 2.0以下の角閃石多量	小破片	・在地産
273	落込下層断面	弥生土器	壺		・ナデ	・頸部ヘラ描沈線2条その間に刺突文	内面5YR5/6 明赤褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 断面5YR5/6 明赤褐色	1.0以下の長石・3.0以下の角閃石中量 1.0以下のクサリ礫・雲母少量	小破片	・在地産 ・内面の一部に黒斑あり
274	1号壙 (溝450)	韓式土器	甕	口径 (16.8) 器高 (31.85)	・口縁部横方向のハケメ5条／cm ・体部ナデ ・底部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ後縦方向のハケメ5条／cm ・肩部ヨコナデ後縦方向のハケメ5条／cm ・体部縦方向のハケメ5条／cm ・底部ヨコナデ	内面5YR4/2 灰褐色 5YR5/6 明赤褐色 10YR7/2 によい黄橙色 外面5YR4/2 灰褐色 5YR5/6 明赤褐色	2.0以下の長石・角閃石	1/5	・在地産
275	1号壙 (溝450上層)	土師器	甕	口径 (19.3) 器高 (17.3)	・口縁部横方向のハケメ7条／cm ・頸部横方向のハケメ7条／cm ・肩部ナデ ・体部ナデ	・口縁部斜め方向のハケメ7条／cm ・頸部斜め方向のハケメ7条／cm ・肩部縦方向のハケメ条／cm ・体部縦方向のハケメ7条／cm	内面7.5YR 6/4～6/6 によい橙色～橙色 外面5YR 5/6～4/4 明赤褐色～によい赤褐色	2.0以下の長石・クサリ礫・黒色砂粒	口縁部 1/7	
276	1号壙 (溝450上層)	韓式土器	甕	口径 (14.8) 器高 (8.1)	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部タタキ後ヘラケズリ	内面2.5YR8/2 灰白色 外面2.5YR8/2 灰白色	2.0以下の長石	口縁部 4/5	・外面肩部に黒斑あり
277	1号壙 (溝450上層)	土師器	甕	口径 (22.1) 器高 (5.7)	・口縁部ヨコナデ後横方向のハケメ6条／cm ・頸部横方向のハケメ6条／cm ・肩部ヨコナデ	・口縁部ヨコナデデ ・頸部ヨコナデ ・肩部斜め方向のハケメ6条／cm	内面7.5YR6/4 ～5YR6/4 によい橙色 外面7.5YR6/4 ～5YR6/4 によい橙色	4.0以下の長石・角閃石	小破片	・在地産
278	1号壙 (溝450上層)	土師器	甕	口径 (18.5) 器高 (17.4)	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部ユビオサエ ・体部ユビオサエ・ユビナデ	・口縁部ヨコナデ ・頸部縦方向のハケメ5条／cm ・肩部斜め方向のハケメ5条／cm ・体部斜め方向のハケメ5条／cm	内面10YR5/4 によい黄褐色 外面5YR5/6 明赤褐色 10YR2/2 黒褐色	3.0以下の長石・黒色砂粒・雲母	口縁部 1/4	
279	1号壙 (溝450上層)	土師器	製塩土器	口径 (4.3) 器高 (3.5)	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ	内面7.5YR8/3 浅黄橙色 外面7.5YR8/3 浅黄橙色	微粒のクサリ礫・長石	小破片	
280	1号壙 (溝450上層)	土師器	製塩土器	口径 (5.6) 器高 (2.8)	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ	内面7.5YR8/6 浅黄橙色 外面7.5YR 8/4～1/8 浅黄橙色～灰白色	微粒のクサリ礫・白色砂粒	小破片	

番号	遺構・層	種別	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物粒(mm)	残存	備考
281	1号竪 (溝450上層)	土師器	高杯	口径 (15.5) 器高 (6.2)	・口縁部ヨコナデ ・体部ヨコナデ ・底部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部ヨコナデ ・底部ナデ・ヨコナデ	内面10YR8/2 灰白色 外面10YR8/2 灰白色	2.0以下の長石・雲母 微粒の黒色砂粒	杯部 3/5	・外面一部煤ける
282	1号竪 (溝450上層)	土師器	高杯	口径 (14.8) 器高 (11.0)	・杯部ナデ ・脚部ヨコナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ ・底部ナデ ・脚部ヨコナデ	内面2.5YR6/6 橙色 外面2.5YR6/6 橙色	1.0以下の長石・クサリ礫・黒色砂粒・雲母	杯部 2/5 脚部 ほぼ完形	
283	1号竪 (溝451)	土師器	高杯	口径 (10.8) 器高 (6.4)	・ケズリ	・柱状部ナデ ・脚部ヨコナデ	内面10YR 7/3～7/4 にぶい黄橙色 外面10YR 7/3～7/4 にぶい黄橙色	微粒のクサリ礫 白色砂粒・黒色砂粒	脚部 小破片	・内面に工具痕残る
284	1号竪 (溝451)	土師器	高杯	口径 (19.3) 器高 (7.7)	・口縁部ヨコナデ ・体部横方向のヘラミガキ ・底部横方向のヘラミガキ	・口縁部ヨコナデ ・体部斜め方向のヘラミガキ ・底部ヨコナデ・ヘラミガキ	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR6/4 にぶい橙色	2.0以下の長石 1.0以下の角閃石 ・クサリ礫・雲母	杯部 1/2	・在地産
285	1号竪 (溝450上層)	土師器	甕	口径 12.3 器高 (13.95)	・口縁部横方向のハケメ後ヨコナデ ・頸部横方向のハケメ後ヨコナデ ・肩部ナデ ・体部ナデ ・底部ナデ	・口縁部ハケメ(方向不明)後ヨコナデ ・頸部ハケメ(方向不明)後ヨコナデ ・肩部縦方向のハケメ8条/cm ・体部縦方向のハケメ8条/cm ・底部縦方向のハケメ8条/cm	内面7.5YR5/3 にぶい橙色 外面5YR7/4 にぶい褐色	1.0以下の長石・黒色砂粒・雲母	口縁部 ほぼ完形	
286	1号竪 (溝450上層)	土師器	甕	口径 (13.8) 器高 (17.1)	・口縁部ヨコナデ後横方向のハケメ ・頸部ヨコナデ後横方向のハケメ ・肩部ナデ ・体部ケズリ ・底部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・頸部縦方向のハケメ7条/2.3cm ・肩部縦方向のハケメ7条/2.3cm ・体部上半縦方向のハケメ7条/2.3cm ・体部下ナデ ・底部ナデ	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	2.0以下の長石 1.0以下の角閃石 ・雲母	1/4	・在地産
287	1号竪 (溝450上層)	土師器	甕	口径 (16.2) 器高 (11.3)	・口縁部斜め方向のハケメ9条/cm ・頸部斜め方向のハケメ9条/cm ・肩部ナデ ・体部ケズリ	・口縁部縦方向のハケメ後ヨコナデ ・頸部縦方向のハケメ後ヨコナデ ・肩部縦方向のハケメ9条/cm ・体部縦方向のハケメ9条/cm	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色	3.0以下の長石・雲母	口縁部 2/5	・外面一部煤ける
288	1号竪 (溝451)	土師器	高杯	口径 (23.6) 器高 (12.8)	・口縁部斜め方向のハケメ(条数不明) ・体部横方向のハケメ(条数不明) ・底部横方向のハケメ(条数不明) ・柱状部ナデ ・脚部ヨコナデ	・口縁部ヨコナデ ・口縁部体の方向のハケメ(条数不明) ・体部斜め方向のハケメ(条数不明) ・底部ヨコナデ ・柱状部縦方向のヘラミガキ ・脚部ヨコナデ	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面10YR6/4 にぶい橙色	1.0以下の長石・クサリ礫・雲母	1/2	脚部に黒斑あり
289	1号竪 (溝451)	土師器	高杯	口径 (14.4) 器高 (11.8)	・杯部風化のため調整不明 ・柱状部シボリメ ・脚部ヨコナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部風化のため調整不明 ・底部風化のため調整不明 ・柱状部風化のため調整不明 ・脚部ヨコナデ	内面5YR 7/6～8/1 橙色～灰白色 10YR 5/1～2/1 灰褐色～黒色 外面5YR 7/6～8/1 橙色～灰白色 10YR 5/1～2/1 灰褐色～黒色	4.0以下の長石・クサリ礫・黒色砂粒	2/5	
290	1号竪 (溝451)	土師器	高杯	口径 (18.6) 器高 (6.0)	・ヨコナデ	・ヨコナデ	内面7.5YR 7/4～6/4 にぶい橙色 外面7.5YR 7/4～6/4 にぶい橙色	2.0以下のクサリ礫 白色砂粒・黒色砂粒	杯部 1/2	・内外面とも風化著しい

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
291	1号墳 (溝451)	土師器	高杯	口径 (15.6) 器高 (5.1)	・ヨコナデ	・ヨコナデ	内面10YR 5/1~6/1 灰白色 外面10YR 8/1~6/1 灰白色 10YR3/1 黒褐色	2.0以下の長石	杯部 3/4	・内外面ともに風化著しい
292	1号墳 (溝450上層)	土師器	甕	口径 (13.4) 器高 (16.6)	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部ケズリ ・体部ケズリ ・底部ケズリ	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部縦方向のハケメ5条/cm ・体部縦方向のハケメ5条/cm ・底部縦方向のハケメ5条/cm	内面2.5YR 7/2~4/1 灰黄色 ~黄灰色 外面2.5YR 7/3~3/1 浅橙色 ~暗赤灰色 2.5YR7/6 橙色	5.0以下の長石・黒色砂粒・雲母	1/4	・外面体部一部煤ける
293	1号墳 (溝450上層)	土師器	甕	口径 (11.9) 器高 (16.4)	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部ケズリ後ユビオサエ ・体部ヘラケズリ ・底部ヘラケズリ	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部横方向のハケメ6条/cm後ヨコナデ ・体部斜め方向のハケメ6条/cm ・底部斜め方向のハケメ6条/cm	内面10YR8/2 灰白色 外面10YR8/2 灰白色	3.0以下の長石	1/3	
294	1号墳 (溝451)	土師器	甕	口径 (22.7) 器高 (19.1)	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ・ユビナデ ・底部ユビオサエ	・口縁部ヨコナデ ・体部縦方向のハケメ (条数不明) ・底部縦方向のハケメ (条数不明) ・風化著しい	内面10YR6/4 にぶい黄橙色 外面7.5YR6/6 橙色 10YR8/2 灰黄褐色	5.0以下の長石・クサリ礫・雲母 黒色砂粒	口縁部 1/2	
295	1号墳 (溝451)	韓式土器	鍋	口径 (23.6) 器高 (18.4)	・口縁部上半ヨコナデ ・口縁部下半板ナデ後ナデ ・体部板ナデ後ナデ	・口縁部上半ヨコナデ ・口縁部下半ナデ ・把手ユビナデ ・体部ナデ	内面10YR8/2 灰白色 外面10YR8/2 灰白色	2.0以下の長石 ・クサリ礫	2/5	・外面に黒斑あり
296	1号墳 (溝451)	韓式土器	甑	口径 (26.5) 器高 (27.8)	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ ・底部ナデ	・口縁部上半ヨコナデ ・口縁部下半縄目タタキ4条/cm ・把手ナデ・ヘラケズリ・竹管文 ・体部縄目タタキ4条/cm ・底部縄目タタキ4条/cm	内面2.5YR7/2 灰黄色 外面2.5YR7/3 浅黄色	1.0以下の長石 微粒の雲母	1/4	・韓式系土器 ・外面底部に黒斑あり
297	1号墳 (溝509)	鉄製品	用途不明	長さ (18.1) 幅 (2.5) 厚さ (0.3)						
298	1号墳 (溝450上層)	金属製品	鉄鏃	長さ (11.0) 幅 0.25~2.0 厚さ 0.3~0.45 重さ 11.9g					基部欠失	・全面錆付着
299	1号墳 (溝450上層)	金属製品	馬具	長さ (4.65) 幅 (1.9) 厚さ (0.5) 重さ (3.5g)					小破片	・全面錆付着 ・木目残る
300	1号墳 (溝451)	須恵器	甕	口径 (7.9) 器高 (3.3)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色 断面 N6/ 灰色	微粒の長石	口縁部 小破片	

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
301	1号竪(調451)	土師器	甕	口径(13.8) 器高(13.2)	・口縁部横方向のハケメ 5~6条/cm後ヨコナデ ・頸部横方向のハケメ 3~6条/cm後ヨコナデ ・訂部ナデ ・体部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・胴部縦方向のハケメ 5~6条/cm ・体部縦方向のハケメ 5~6条/cm	内面7.5YR6/4 にぶい橙色 外面7.5YR6/4 にぶい橙色	5.0以下の長石 2.0以下の角閃石 クサリ礫・雲母	2/5	・在地産 ・外面赤彩痕跡ける
302	1号竪(調451)	土師器	甕	口径(15.7) 器高(3.6)	・ヨコナデ	・ヨコナデ	内面10YR 8/2~3/1 灰白色 ~黒褐色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 断面10YR3/1 黒褐色	1.0以下の長石 ・クサリ礫・雲母・黒色砂粒	口縁部 小破片	
303	1号竪(調451)	韓式土器	甕	口径 20.2 器高(30.7)	・口頸部ヨコナデ ・胴部ナデ ・体部ナデ ・底部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・訂部格子目タタキ 2.5×2.5条/cm ・体部格子目タタキ 2.5×2.5条/cm ・底部格子目タタキ 2.5×2.5条/cm後ナデ	内面10YR6/2 灰白色 外面10YR6/4 にぶい黄色	1.0以下の長石 酸化の雲母	口縁部 ほぼ完形	・体部に1孔あり ・外面体部に黒斑あり
304	1号竪(調451)	土師器	甕	口径(22.8) 器高(4.8)	・ヨコナデ	・ヨコナデ	内面10YR 5/3~3/1 にぶい黄褐色 ~黒褐色 外面10YR 5/3~3/1 にぶい黄褐色 ~黒褐色	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	口縁部 2/3	・内外面ともに風化著しい
305	1号竪(調451)	土師器	甕	口径(14.8) 器高(16.8)	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・訂部ユビオエ・ユビナデ後ナデ ・体部ユビオエ・ユビナデ後ナデ	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・胴部斜め方向のハケメ8条/cm ・体部縦方向のハケメ8条/cm	内面2.5YR5/6 明赤褐色 10YR7/3 にぶい黄色 外面10YR 6/2~2/1 灰黄色~黒色	2.0以下の長石 ・雲母	小破片	
306	1号竪(調500)	韓式土器	甕	口径(25.8) 器高(32.9)	・口縁端部ヨコナデ ・口縁部ナデ ・頸部ナデ ・胴部ナデ ・体部ナデ ・底部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・胴部タタキ3.5×4条/cm ・体部タタキ3.5×4条/cm ・底部タタキ3.5×4条/cm	内面7.5YR7/3 にぶい橙色 外面2.5YR7/1 灰白色	2.0以下の長石 酸化の雲母	1/2	・外面に黒斑あり
307	1号竪(調450上層)	土師器	甕	口径(19.0) 器高(28.0)	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・胴部ユビナデ後ナデ ・体部ユビナデ後ナデ ・底部ケズリ	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・胴部縦方向のハケメ8条/cm ・体部縦方向のハケメ8条/cm ・底部縦方向のハケメ8条/cm	内面5YR6/6 橙色 外面5YR 5/2~1.7/1 灰褐色~黒色	2.0以下の長石・クサリ礫・雲母 角閃石	1/3	・在地産
308	1号竪(調450上層)	土師器	甕	口径(25.3) 器高(36.3)	・口縁部ヨコナデ ・体部板ナデ後ナデ ・底部板ナデ後ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部ヨコナデ後縦方向のハケメ9条/cm ・底部ヨコナデ後縦方向のハケメ9条/cm	内面10YR 7/3~6/1 にぶい黄色 外面10YR 7/3~6/1 にぶい黄色	3.0以下の長石 ・雲母	口縁部 1/4	・外面体部に黒斑あり
309	1号竪(調450上層)	須恵器	杯蓋	口径(12.75) 器高(4.0)	・口縁部ヨコナデ・回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ後ナデ	・口縁部ヨコナデ・回転ナデ ・体部回転ヘラケズリ ・天井部灰かぶりのため調整不明	内面 N7/ 灰白色 外面7.5Y 6/1~8/1 灰色~灰白色 断面5/5YR6/2 灰赤色	1.0以下の長石	4/5	・ロクロ回転 反時計まわり
310	1号竪(調450上層)	須恵器	杯蓋	口径12.65 器高 4.1	・口縁部ヨコナデ・回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ後ナデ	・口縁部ヨコナデ・回転ナデ ・体部回転ヘラケズリ ・天井部灰かぶりのため調整不明	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色 断面7.5R5/2 灰赤色	2.0以下の長石	ほぼ完形	

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物粒(mm)	残存	備考
					内面	外面				
311	1号墳 (溝450上層)	須恵器	杯	口径(10.8) 器高(4.4)	・口縁部ヨコナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ナデ・ヘラ状工具によるナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ヘラケズリ後ナデ	内面 N8/ 灰白色 外面 N8/ 灰白色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	4/5	・ロクロ回転 反時計まわり
312	1号墳 (溝450上層)	須恵器	杯	口径(11.4) 器高(3.1)	・口縁部ヨコナデ ・体部回転ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部回転ナデ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色 断面7.5R5/2 灰赤色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	口縁部 小破片	
313	1号墳 (溝450上層)	須恵器	高杯	口径(10.4) 器高(5.0)	・口縁部ヨコナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ナデ・ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部上半回転ナデ ・体部下半カキメ ・底部カキメ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	杯部 1/3	・ロクロ回転 反時計まわり
314	1号墳 (溝450上層)	須恵器	椀	器高(4.15)	・回転ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部回転ナデ ・底部糸切痕・ヘラケズリ	内面 N8/～6/ 灰白色～灰色 外面 N6/ 灰白色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	小破片	
315	1号墳 (溝450上層)	須恵器	高杯蓋	口径13.1 器高 5.2	・口縁部ヨコナデ・回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ後タタキ後ナデ	・口縁部ヨコナデ・回転ナデ ・体部カキメ ・天井部回転ヘラケズリ ・つまみ回転ナデ	内面 N8/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色 断面10R5/1 赤灰色	3.0以下の長石	ほぼ完形	・つまみ上面と外面体部灰かぶり
316	1号墳 (溝450上層)	土師器	甕	口径(24.6) 器高(12.9)	・口縁部ヨコナデ ・口縁部下半横方向のハケ10条／cm ・体部上半横方向のハケ10条／cm ・体部下半横方向のハケ10条／cm後斜め方向のヘラケズリ・ユビオサエ	・口縁部上半ヨコナデ ・口縁部下半ユビオサエ後ナデ ・体部縦方向のハケメ10条／cm(不明瞭)	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR 7/4～7/1 にぶい橙色 ～明褐灰色	3.0以下の長石 ・クサリ礫・雲母・角閃石	小破片	・在地産
317	1号墳 (溝450上層)	土師器	甕	口径(25.6) 器高(23.5) 底径(11.6)	・口縁部ヨコナデ ・体部ユビナデ ・底部ユビナデ	・口縁部上半ヨコナデ ・口縁部下半ヨコナデ後縦方向のハケメ3条／cm ・体部縦方向のハケメ3条／cm ・把手ユビオサエ ・底部縦方向のハケメ3条／cm	内面7.5YR5/6 明褐色 外面7.5YR5/6 明褐色	2.0以下の長石 ・クサリ礫・雲母・角閃石	1/2	・把手に竹管痕残る ・在地産
318	1号墳 (溝450下層)	須恵器	壺	器高(9.4) 頸径(12.8)	・頸部回転ナデ ・胴部タタキ後スリケシ	・頸部回転ナデ ・胴部ナデ	内面 N8/～9/ 灰色～白色 外面10R6/1 赤灰色 N8/ 白色 5Y4/3 暗オリーブ色	1.0以下の長石	小破片	・内面頸部灰かぶり ・外面に灰釉付着
319	1号墳 (溝450上層)	須恵器	高杯	器高(5.6) 裾径(9.1)	・底部ナデ ・柱状部ナデ・面転ナデ ・裾部回転ナデ	・底部回転ナデ ・脚部回転ナデ	内面 N8/ 灰白色 外面2.5GY5/1 オリーブ灰色	1.0以下の長石	底部 小破片 脚部 3/4	
320	1号墳 (溝450上層)	須恵器	高杯	器高(6.3) 裾径(9.35)	・底部ナデ ・脚部ナデ	・底部回転ナデ ・脚部回転ナデ	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色	1.0以下の長石	底部 小破片 脚部 4/5	

番号	遺構・層	器種	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物粒(mm)	残存	備考
					内面	外面				
321	1号坑 (溝450)	須恵器	高杯	器高(9.1) 裾径(6.2)	・回転ナデ	・底部回転ナデ後ヘラケズリ ・脚部回転ナデ	内面 N7/～6/ 灰白色～灰色 外面 N7/～5/ 灰白色～灰色	1.0以下の長石	底部 小破片 脚部完形	・外面脚部灰かぶり
322	5号坑 (溝800)	須恵器	杯蓋	口径13.4 器高 4.2	・口縁部ヨコナデ・回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ・ナデ	・口縁部ヨコナデ・回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ヘラケズリ	内面 N5/ 灰色 外面 N6/ 灰色	5.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転反時計まわり
323	5号坑 (溝800)	須恵器	杯蓋	口径(11.6) 器高(2.7)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面7.5Y7/1 灰白色 外面7.5Y7/1 灰白色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	口縁部 小破片	
324	5号坑 (溝800)	須恵器	高杯	口径(11.8) 器高(3.75)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	1.0以下の長石	口縁部 小破片	
325	5号坑 (溝800)	須恵器	高杯	器高(5.0)	・底部回転ナデ後ナデ ・脚部回転ナデ	・底部回転ナデ ・脚部回転ナデ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	3.0以下の長石	脚部 2/5	・柚状部に円孔 ・線刻あり
326	5号坑 (溝800)	須恵器	高杯	器高(4.5) 裾径(9.2)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	2.0以下の長石	脚部 1/5	・三方向透孔あり ・外面被膜灰かぶり
327	5号坑 (溝800)	須恵器	高杯	器高(10.6) 裾径(3.0)	・回転ナデ	・カキメ・回転ナデ	内面N7/～N6/ 灰白色～灰色 外面N7/～N6/ 灰白色～灰色 断面7.5R4/2 灰赤色	1.0以下の長石	脚部 小破片	・外面被膜灰かぶり
328	5号坑 (溝800)	須恵器	高杯	器高(4.3) 裾径 9.9	・回転ナデ	・カキメ・回転ナデ	内面 N7/ 灰白色 外面N5/～N5/ 白色～灰色	1.5以下の長石	脚部 ほぼ完形	・外面被膜灰かぶり
329	5号坑 (溝800)	土師器	甕	器高(15.4) 胴径 17.35	・体部斜め方向のハケメ ・底部ユビオサエ	・体部縦方向のハケメ7条/cm(不明瞭) ・底部乱方向のハケメ7条/cm(不明瞭)	内面10YR5/4 にぶい黄褐色 外面10YR5/4 にぶい黄褐色	3.0以下の角閃石 2.0以下の長石・雲母	底部 ほぼ完形	・外面底部に煤付着 ・在地産
330	5号坑 (溝800)	土師器	甕	口径(24.3) 器高(16.4)	・口縁部風化のため調整不明 ・体部ケズリ	・口縁部風化のため調整不明 ・体部風化のため調整不明 ・胎土ユビオサエ後ナデ	内面5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色	3.0以下の長石 ・クサリ礫・角閃石	小破片	・在地産

番号	遺構・層	種	器	形	法量(cm)	調整・手法		色 調	含有鉱物種(mm)	残 存	備 考
						内 面	外 面				
331	5号墳(溝800)	須恵器	杯蓋		口径14.6 器高 4.6	・口縁部ヨコナデ・回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ・ナデ	・口縁部ヨコナデ・回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ヘラケズリ	内面 N8/ 灰白色 外面 N3/ 暗灰色	3.0以下の長石・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転時計まわり
332	5号墳(溝800)	須恵器	杯		口径11.9 器高 5.1	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部ナデ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ヘラケズリ	内面 N8/ 灰白色 外面 N9/～N6/～N4/ 白色～灰色	2.0以下の長石・黒色砂粒	完形	・ロクロ回転時計まわり ・外面体部から底部灰かぶり
333	5号墳(溝800)	須恵器	杯		口径11.8 器高 5.5	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ナデ・ナデ	・口縁部回転ナデ ・底部回転ヘラケズリ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	2.0以下の長石・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転時計まわり
334	5号墳(溝800)	須恵器	壺		口径(14.6) 器高(3.8)	・灰かぶりのため調整不明	・波状文9条／cm	内面7.5YS/1 灰色 外面 N6/ 灰色 断面2.5YR6/2 灰赤色	1.0以下の長石	口縁部小破片	
335	5号墳(溝800)	須恵器	壺		口径(17.6) 器高(5.7)	・灰釉付着のため調整不明	・波状文5条／0.5cm (不明瞭)	内面7.5Y7/1～3/3 灰白色～ 灰オリーブ色 外面 N7/ 灰白色	3.0以下の長石・黒色砂粒	口縁部1/6	
336	5号墳(溝800)	須恵器	壺		口径(24.4) 器高(4.6)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面10Y8/1～N7/ 灰白色 外面10Y8/1～N7/ 灰白色	0.5以下の長石	口縁部小破片	
337	5号墳(溝800)	土師器	小型壺		口径(14.0) 器高(8.75)	・口縁部横方向のハケメ5～7条／cm ・肩部ユビオサエ ・体部ユビオサエ	・口縁部ヨコナデ ・肩部縦方向のハケメ5～7条／cm ・体部縦方向のハケメ5～7条／cm ・風化著しい	内面7.5YR7/4 にぶい橙色 外面7.5YR7/4 にぶい橙色 2.5YR7/4～N4/ 淡赤橙色	1.0以下の長石・クサリ礫	1/3	
338	5号墳(溝800)	須恵器	杯蓋		口径13.3 器高 4.5	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ後ナデ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ヘラケズリ・ヘラ切り	内面 N7/ 灰白色 外面 N5/ 灰色	5.0以下の長石・黒色砂粒	完形	・ロクロ回転時計まわり
339	5号墳(溝800)	須恵器	杯		口径11.7 器高 4.6	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ナデ後ナデ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ヘラケズリ ・ヘラ切り	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色	2.0以下の長石・黒色砂粒	完形	・ロクロ回転時計まわり
340	5号墳(溝800)	須恵器	杯蓋		口径13.75 器高 4.55	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ後ユビオサエ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ヘラケズリ・ヘラ切り	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色	4.0以下の長石・黒色砂粒	完形	・ロクロ回転時計まわり

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
341	5号墳(網800)	須恵器	杯	口径12.2 器高 5.15	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ナデ後ユビオサエ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ヘラケズリ・ヘラ切り	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	完形	・ロクロ回転時計まわり
342	5号墳(網800)	須恵器	壺	口径(10.3) 器高(1.9)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N7/~N6/ 灰白色~灰色 外面 N7/~N6/ 灰白色~灰色	0.5以下の白色砂粒・黒色砂粒	口縁部小破片	
343	5号墳(網800)	須恵器	鉢	口径(12.6) 器高(2.05)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N6/~N7/4 灰色 外面 N6/~N/4 灰色 断面2.5YR5/2 灰赤色	0.5以下の長石	口縁部小破片	
344	5号墳(網800)	須恵器	壺	口径17.9 器高20.8	・口頸部回転ナデ ・肩部ユビオサエ ・体部ユビオサエ ・底部ユビオサエ	・口頸部回転ナデ ・肩部格子目タタキ後カキメ ・体部上半格子目タタキ後カキメ ・体部下半格子目タタキ ・底部格子目タタキ	内面10Y7/1 灰白色 外面10Y7/1 灰白色	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	
345	5号墳(網800)	土師器	羽釜	口径(23.1) 器高(16.5)	・口縁部ヨコナデ後横方向のハケメ9条/cm ・体部ユビオサエ	・口縁部ヨコナデ ・鍔ヨコナデ ・体部縦方向のハケメ9条/cm	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面5YR5/4 にぶい赤褐色	3.0以下の長石 2.0以下の角閃石 ・雲母	口縁部2/5	・外面口縁部と鍔に煤付着 ・在地産
346	5号墳(網800)	須恵器	杯蓋	口径13.6 器高 4.7	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ後ナデ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ヘラケズリ・ヘラ切り後ナデ	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色	5.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転時計まわり
347	5号墳(網800)	須恵器	杯	口径11.8 器高 4.6	・回転ナデ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ヘラケズリ ・未調整	内面 N7/ 灰白色 外面 N9/ 白色 N6/ 灰色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転時計まわり・外面体部から底部灰かぶり
348	5号墳(網800)	須恵器	杯蓋	口径(13.3) 器高(4.5)	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ・同心円当て具痕	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ヘラケズリ・ヘラ切り	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	3/7	・ロクロ回転時計まわり
349	5号墳(網800)	須恵器	杯	口径(12.1) 器高(4.5)	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ナデ・ナデ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ヘラケズリ ・ヘラ切り後ナデ	内面 N5/ 灰色 外面 N6/~N7/ 灰色~灰白色	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	3/5	・ロクロ回転時計まわり
350	5号墳(網800)	須恵器	器台		・回転ナデ	・波状文7条/1.3cm	内面7.5Y8/1 灰色 外面 N6/ 灰色 断面7.5R5/1 赤灰色	2.0以下の長石	口縁部小破片	・内面灰かぶり

番号	遺構・層	種別	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
351	4号竪穴(調501)	土師器	円筒埴輪	器高(6.45) 底径(12.7)	・ナデ	・縦方向のハケメ 6条/cm	内面5YR5/4 淡橙色 外面5YR5/4 淡橙色	3.0以下の長石 ・クサリ礫	底部 小破片	
352	4号竪穴(調501)	土師器	杯	口径(11.2) 器高(4.0)	・口縁部ヨコナデ ・体部放射状暗文	・口縁部ヨコナデ ・体部ユビオサエ後ナデ	内面5YR7/6 残黄橙色 外面7.5YR5/4 褐色	0.5以下の長石 ・黒色砂粒	小破片	・内外面共に やや風化
353	6号溝(調814)	土師器	羽釜	器高(4.5) 脚径(25.6)	・ナデ	・ナデ	内面7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5GY6/1 オリーブ灰色 外面7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5GY6/1 オリーブ灰色	3.0以下の長石・ 黒色砂粒・雲母	脚 小破片	
354	6号溝(調814)	須恵器	高杯	器高(4.9) 脚径(8.2)	・底部回転ナデ・タタキ ・脚部回転ナデ	・底部回転ヘラケズリ ・脚部回転ナデ	内面7.5Y8/1 灰白色 外面7.5Y8/1 灰白色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	脚部 2/3	・三方透かし あり
355	6号溝(調814)	須恵器	高杯	口径(11.1) 器高(4.55)	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ナデ・タタキ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部カキメ	内面N8/ 灰白色 外面10Y3/1 オリーブ黒色 断面7.5R5/2 灰赤色	2.0以下の長石	小破片	・四方透かし あり
356	6号溝(調814)	須恵器	長頸瓶	口径 5.1 器高(13.2)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面N5/~N7/ 灰色~灰白色 外面N5/~2.5 Y8/1 灰色~灰白色	1.0以下の長石	口頸部 完形	・外面一部灰 かぶり
357	6号竪穴(調814)	須恵器	平瓶	口径(5.1) 器高(11.5)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面N8/ 灰白色 外面N8/ 灰白色 7.5Y2/2~6/3 オリーブ黒色 ~オリーブ 黄色	3.0以下の長石 ・黒色砂粒	6/7	・外面に自然 釉付着 ・外面底部釉 だれあり
358	4号竪穴(調501)	須恵器	壺	口径(17.4) 器高(6.1)	・回転ナデ	・波状文6条/1.1cm	内面N8/~N5/ 灰色 外面N8/~N5/ 灰色	1.0以下の長石	1/4	
359	4号竪穴(調501)	須恵器	杯蓋	口径(12.7) 器高(3.4)	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ナデ後ナデ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・天井部回転ヘラケズリ	内面N7/ 灰白色 外面N7/ 灰白色	1.0以下の長石	1/4	・ロクロ回転 時計まわり
360	4号竪穴(調501)	須恵器	杯蓋	口径(12/9) 器高(2.9)	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ・ヘラケズリ	内面N7/ 灰白色 外面7.5Y4/1~3/2 灰色~ オリーブ黒色 断面7.5R5/2 灰赤色	3.0以下の長石	小破片	・外面に自然 釉付着

番号	遺構・層	器種	器形	法量(cm)	調整・手法		色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
					内面	外面				
361	6号焼 (溝814)	須恵器	鉢	器高(9.8) 底径(7.0)	・回転ナデ	・胴部回転ナデ ・体部上半回転ヘラケズリ ・体部下半回転ヘラケズリ後ナデ ・底部回転ヘラケズリ後ナデ	内面 N8/ 灰白色 7.5Y5/3 灰オリーブ色 外面 N8/ 灰白色 7.5Y5/3 灰オリーブ色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	体部以下 完形	・外面一部に自然釉付着 ・外面底部に線刻あり
362	4号焼 (溝501)	須恵器	壺		・回転ナデ	・波状文9条/1.5cm	内面7.5Y6/1 灰色 外面 N6/ 灰色 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 断面10R5/1 赤灰色	1.0以下の長石	小破片	
363	6号焼 (溝814)	須恵器	皿		・回転ナデ	・回転ナデ	内面2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 外面 N7/ 灰白色	2.0以下の長石	底部 小破片	
364	4号焼 (溝501)	須恵器	高杯		・回転ナデ	・回転ナデ	内面2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 外面 N7/ 灰白色 5Y4/3 暗オリーブ色 断面7.5R6/2 灰赤色	2.0以下の長石	杯部 1/4	・長方形三方透かしあり
365	4号焼 (溝501)	須恵器	台付壺	器高(8.0)	・体部回転ナデ ・底部回転ナデ・ナデ	・体部回転ナデ・回転ヘラケズリ ・底部回転ナデ	内面 N8/ 灰白色 外面 N8/ 灰白色 2.5YR7/8~5/2 淡赤色 ~灰赤色	2.0以下の長石	1/4	
366	6号焼 (溝814)	須恵器	大甕	口径(42.7) 器高(21.9)	・口縁部灰かぶりのため調整不明 ・胴部タタキ	・口縁部灰かぶりのため調整不明 ・胴部タタキ	内面7.5Y7/1~6/3 灰白色~ オリーブ黄色 5Y4/2 灰オリーブ色 外面7.5Y7/1~6/3 灰白色~ オリーブ灰色 5Y4/2 灰オリーブ色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	口縁部 1/7	
367	傾斜地	須恵器	甕	口径19.35 器高29.2	・口縁部回転ナデ ・頸部回転ナデ ・胴部同心円当て具痕 ・体部同心円当て具痕 ・最部同心円当て具痕	・口縁部回転ナデ ・頸部回転ナデ ・胴部格子目タタキ後回転ナデ ・体部格子目タタキ後側転ナデ ・底部平行タタキ	内面 N8/~7/ 灰白色 外面 N8/~7/ 灰白色	5.0以下の長石 ・黒色砂粒	ほぼ完形	・ロクロ回転時計まわり
368	傾斜地 下層	須恵器	壺	口径(18.7) 器高(30.2)	・口縁部回転ナデ ・頸部回転ナデ ・肩部タタキ(平行) ・体部タタキ(平行) ・底部タタキ	・口縁部回転ナデ ・頸部回転ナデ ・肩部平行タタキ ・体部平行タタキ ・底部平行タタキ ・真仁深しい	内面 N8/~6/ 灰白色~灰色 外面 N8/~6/ 灰白色~灰色 ・黒色砂粒	3.0以下の長石	1/2	
369	傾斜地 下層	須恵器	壺	口径10.5 器高28.3	・口縁部回転ナデ ・胃部同心円当て具痕後ナデ ・体部同心円当て具痕後ナデ ・底部同心円当て具痕後ナデ	・口縁部回転ナデ ・頸 部 波 状 文16条/1.8cm・カキメ後櫛描波線文 ・肩部平行タタキ後カキメ ・体部上半平行タタキ後カキメ ・体部下半乱方向のタタキ ・底部乱方向のタタキ	内面 N8/ 灰白色 外面 N8/~2.5 GY2/1 灰白色~黒色	0.5以下の長石	ほぼ完形	・ロクロ回転反時計まわり ・外面胴部~底部自然釉付着
370	傾斜地 下層	須恵器	甕	口径(19.2) 器高(30.0)	・口縁部回転ナデ ・頸部回転ナデ ・胃部同心円当て具痕	・口縁部回転ナデ ・頸部回転ナデ ・胴部平行タタキ	内面 N8/~6/ 灰白色~灰色 外面 N8/~6/ 灰白色~灰色	2.0以下の長石	口縁部 ほぼ完形	

番号	遺構・層	種別	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
371	傾斜地下層	須恵器	高杯	口径10.2 器高 6.6 脚径 8.7	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部ナデ ・脚部回転ナデ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ヘラケズリ ・脚部回転ナデ	内面 N9/～7/ 白色～灰色 外面 N7/～4/ 灰白色～灰色	2.0以下の長石 ・黒色砂粒	3/4残存完形	・ロクロ回転半時計まわり
372		縄文土器	深鉢	器高(4.2)	・風化のため調整不明	・綾杉状文様	内面7.5YR6/3 にぶい褐色 外面7.5YR6/3 にぶい褐色	2.0以下の長石 ・角閃石		・在地産 ・縄帯文土器
373		土師器	小壺	口径(4.0) 器高(3.6)	・風化のため調整不明	・風化のため調整不明	内面10YR6/3 にぶい黄橙色 外面10YR6/3 にぶい黄橙色	2.0以下の角閃石 1.0以下の長石 0.5以下の雲母	口縁部 2/5 全体 4/5	・在地産
374	東地区Z	土製品	土錘	長さ(2.9) 幅 (0.8) 厚さ(0.8)		・ナデ	内面2.5YR7/4 淡赤橙色 外面2.5YR7/4 淡赤橙色	2.0以下の長石 0.5以下のクサリ礫	1/2	
375	東地区東 床土	土師器	三足釜	器高(4.5) 幅 (1.4) 厚さ(1.4)	・ナデ	・ナデ	内面5YR8/3 淡橙色 外面5YR8/3 淡橙色	1.0以下のクサリ礫 0.5以下の長石	脚部小破片	
376	東地区耕土	銅銭	寛永通宝							・初鋳年1636年
377	東地区東第3層	石製品	双孔円板	長さ(2.0) 幅 (2.0) 厚さ(0.4)			内面2.5GY4/ 暗オリーブ灰色 外面2.5GY4/1 暗オリーブ灰色			・滑石製 ・二孔あり
378	西地区傾斜地	石製品	砥石	長さ(8.3) 幅 (3.7) 厚さ(0.9)			内面7.5YR8/1 灰白色 外面7.5YR8/1 灰白色		1/2	
379	東地区第4層調321	瓦器	鉢	口径(27.4) 器高(3.7)	・ナデ	・ナデ	内面5Y6/1 灰色 外面 N4/ 灰色 断面5Y8/1 灰白色	2.0以下の長石	口縁部小破片	
380	東地区東床土	須恵器	壺	口径(18.6) 器高(1.3)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N7/ 灰白色 外面 N7/ 灰白色	1.0以下の長石	小破片	

番号	遺構・層	種類	器形	法量(cm)	調整・手法 内面	調整・手法 外面	色調	含有鉱物種(mm)	残存	備考
381	東地区東床土	須恵器	杯	器高(1.3) 底径(14.6)	・回転ナデ	・回転ナデ	内面 N6/ 灰色 外面 N6/ 灰色	1.0以下の長石	底部 小破片	
382	4号壙 南側西壁断面 G層	須恵器	杯	口径(12.7) 器高(3.95)	・回転ナデ	・口縁部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部回転ヘラケズリ	内面 N9/ 白色 外面 N3/ 暗灰色 7.5YR8/4 浅黄橙色	1.0以下の長石 ・石英	2/5	
383	東地区東床土	国産陶器	碗	器高(3.7) 底径(4.2)	・回転ナデ後施釉	・体部回転ナデ後施釉 ・底部回転ナデ	内面7.5Y5/2 灰オリーブ色 外面10R6/4 にぶい赤橙色 10Y8/1 灰白色 断面10R6/4 にぶい赤橙色	1.0以下の長石	底部 1/2	・唐津焼
384	中地区 ピット312	磁器	青磁碗	器高(2.6) 底径(5.6)	・体部回転ナデ・ケズリ後施釉 ・底部回転ナデ・ケズリ	・体部回転ナデ・ケズリ後施釉 ・底部回転ナデ・ケズリ	内面2.5GY4/1 暗オリーブ 灰色 外面2.5GY4/1 暗オリーブ 灰色	微粒の黒色砂粒	底部 1/7	・青磁 ・削出高台
385	東地区西水路 北側包含層	韓式土器	甕	口径(29.1) 器高(5.7)	・ヨコナデ	・口縁部ヨコナデ ・頸部ヨコナデ ・肩部縦方向のハケメ8条/cm・格子目タタキ2×3/cm²	内面10YR8/2~8/3 灰白色 ～浅黄橙色 外面10YR8/2~8/3 灰白色 ～浅黄橙色	3.0以下の長石 ・クサリ礫・黒色砂粒	口縁部	
386	溝512	須恵器	瓶	器高(4.8) 頸径 9.8 腹径12.5	・頸部回転ナデ ・体部回転ナデ ・底部ヘラ状工具によるナデ	・頸部回転ナデ ・体部ヘラ状工具によるナデ ・底部ヘラケズリ・ユビオサエ後ヘラケズリ	内面7.5Y4/1 灰色 N7/ 灰白色 外面7.5Y4/1 灰色 N7/ 灰白色 断面7.5R4/2 灰赤色	1.0以下の長石 ・黒色砂粒	頸部以下ほぼ完形 (口縁部欠失)	・内面底部・外面体部に自然釉付着
387	溝334	土師器	皿	口径(10.3) 器高(1.75)	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ・ユビオサエ	内面10YR8/3 浅黄橙色 外面10YR8/3 浅黄橙色	0.5以下の長石	2/5	・灯明皿 ・口縁部一部に煤付着
388	溝334	土師器	皿	口径(10.3) 器高(1.5)	・口縁部ナデ ・体部ナデ	・口縁部ヨコナデ ・体部ナデ	内面10YR8/3 浅黄橙色 外面10YR8/3 浅黄橙色	0.5以下の長石	1/3	・灯明皿 ・口縁部一部に煤付着
389	4A層	須恵器	甕		・回転ナデ	・回転ナデ・波状文10条/0.65cm	内面5Y6/1~5/1 灰色 外面5Y6/1~5/1 灰色	3.0以下の長石	口縁部 小破片	

Ⅴ ま と め

今回の調査で明らかになった点と今後に明かにすべき問題点を個条書きにして以下記す。

（1）縄文時代の海進に伴う河内湾の海食崖の頂部を検出した。鬼虎川遺跡に続いて2例目である。調査区外であるため同遺跡のように汀線部分が確認できなかったが、縄文時代前期の遺物が包含されている可能性がある。今後注意すべきと考える。

（2）弥生時代前期の遺構は、上部が削平されて柱穴の最下部のみが残存したと判断される前期初頭の竪穴住居2棟（径約7ｍと6ｍの円形）・土壙（貯蔵穴の可能性のあるもの1基含む）・溝を検出した。この時期の住居址は、山賀遺跡などで掘立柱建物、神戸市大開遺跡で竪穴住居が検出されているが例は少ない。炉跡が明確でないが、2号住居内の炭が多量に出土した土壙428が炉跡とすれば東西に近接して柱穴が見られることから武末氏が分類する松菊里型住居C型との関連を想定できるかもしれない。

集落の構成は、周辺部の調査を待たなければならないが、北と南に生駒山地から西下する小河川で区画された河内潟を間近にひかえ、大阪湾や六甲山地などが一望できる低位段丘上に立地したことは間違いない。

（3）弥生時代前期の遺物のなかで最も量の多い弥生時代前期古・中段階の土器は山麓部では従前、鬼塚遺跡C地点・水走遺跡出土品以外あまり知られていない。前者は包含層、後者は貝塚出土品である。今回の調査では貝塚などに比べて短期間に営まれたと考えられる土壙などの遺構内出土品が多い。縄文時代晩期末の土器と弥生土器が共伴した土壙が3基（土壙1・503・234）存在する。土壙1出土品についてはすでに検討したことがある。出土状況などから見て縄文土器と弥生土器が同時に使用されていたと判断される。出土した縄文時代晩期末の土器（貼付け凸帯をもつ体部片も含む）は、包含層出土品を加えても10点である。同時期の弥生土器は、図示しただけでも約250点あり図示していないものが他に100点以上存在することから3％以下と非常に少ない。

土器底部に籾圧痕の認められるのもある。これらの弥生土器は従前、河内で知られている中では最も古い時期に属するものの一つである。

石器は、石包丁など直接農耕にかかわるものはないが、石鏃39点・石錐15点・太型蛤刃石斧2点・石匙2点・ピエス・エスキエ10点・凸刃削器1点・複刃削器1点・削器1点・石核1点・砥石1点の計73点が遺構・包含層から出土した。他に多数の剥片が存在することから石器の製作を行っていたことが判明した。少数の中期に属するものが含まれるが大半は前期前半のものと見てよい。石鏃・石錐の形態は、縄文時代晩期に存在するものと変わらない。しかし、石鏃は縄文時代晩期では複数の形態が認められるが、この時期の主流は凹基無茎式に変化している。石材の産地は、約8割が香川県金山産と考える。金山産の石器は前代にもわずかに存在が認められるが、この時期により以上に瀬戸内地域との交流が盛んであったことを示している。

他に土錘が1点出土し、この地の人々は半農半漁の生活を営んでいたと思われる。今回検出した遺構や遺物は、河内における弥生時代開始期を考えるうえに非常に重要な資料ある。今後、さらに他遺跡との比較・分析・検討を進めていきたい。

（4）弥生時代中期の遺構は、溝2条・土壙1基を検出したにとどまる。遺物の出土量も少なく集落の縁辺部にあたる場所であろう。立地から見て調査地の北側に当時の集落の存在が想定される。また、他地域産の土器が目に付くが絶対量が少なく判断できない。また、方形周溝墓の供献土器などに見られる底部近くを穿孔された壺が出土している。

（5）古墳時代中期末から後期に営まれた小型低方墳からなる群集墳は、従前は山麓部において検出されていないものである。これについては以前に検討したことがある。最近、南約3kmにある段上遺跡[2]から中期後半の小型低方墳が2基検出され円筒・朝顔型・家形埴輪や韓式土器、ウマの歯などが出土しているが、本遺跡のような長期間に渡り営まれたものではなさそうである。埴輪をもつことから、本古墳群の被葬者よりも上位に位置する人々の墓である可能性が高い。

5世紀後半から7世紀後半までの約200年間の継続期間と、古墳の数から見て一氏族が世代毎に古墳を築いた可能性が高い。主体部は、削平されているため不明である。しかし、石室をもつ古墳であれば石材が包含層中などから出土する可能性が高いが確認できていない。他遺跡の例から見て木棺直葬であったと考えられる。

韓式土器を供献する小規模な方墳からなる群集墳は、平野部の城山遺跡でも検出されているが、今回検出したものと周溝を共有あるいは切合いしない点や中期後半に限られるなどの点で異なる。

河内では現在ほとんど類例のない古墳群の形態である。今後、古墳の築造時期・順序を明らかにしたうえで、被葬者の出自や南約200mに所在する古墳時代中期（5世紀前半）の塚山古墳との関係などを検討していく必要がある。

（6）1号墳の周溝から出土した韓式土器をはじめとする遺物は、5世紀後半に属す量のまとまった良好な一括資料である。特に須恵器は、東大阪市内から出土している中では最も古い時期に属すものの一つである。また、同時に使用された土師器の実態も明らかにすることができた。ウマの上顎骨も出土している。ウマの骨・歯は、今回検出した古墳の各周溝より出土した。鍛冶の出土は小鍛冶を想定させ、被葬者の職掌の一つが馬具の製作などであったことを考えさせる。製塩土器の存在も、以前から指摘されているように馬に関係するものかもしれない。

今回出した資料は小型低方墳の被葬者に対する祭祀に用いられた物の実態を明かにするだけでなく、まだ不明な点の多いこの時期の土器を知るうえに重要である。

この古墳群の被葬者は、以前に指摘したように大和政権に馬に関する職掌（馬の飼育・訓練と馬具の製作など）で仕えた渡来人を始祖にもつ一族であったと考える。

（7）奈良時代から平安時代前期の遺構は確認していないが、包含層が存在することから同時代の集落の存在が周辺に予想される。

（8）鎌倉時代後期の島畠は、かなり長期にわたって使われたようである。従前は、水はけの悪い平野部で近世に始まるとされているが最近、池島遺跡において中世まで遡ることが明らかにされている。水はけの比較的良いと考えられる段丘先端の当調査地において、何故この耕作形態が行われたか現在のところ明らかでない。この時代の耕作実態がまだ不明な点が多いだけに、今後検討していきたい。

（9）棚田の造成が中世末期（16世紀後半）に行われ、その後近世（17世紀から18世紀代）に床土を2面積み増していることを確認した。各床土の上面で見られる鍬跡が方向を異にしていることから耕地の形態が時代により変遷したことを示していると考える。

以上のように、今回の調査では予想以上の成果が得られた。今後、問題点を踏まえて周辺地域を含めた研究を進めていけば、河内における弥生時代開始期（狩猟・採集社会から農耕社会の転換期）の実態を明かにするだけでなく、古墳時代や他の時代についても多くの事柄を明かにすることができる。

注

1）武末純一「日本の環濠（溝）集落－北部九州の弥生早・前期を中心に－」『環濠集落と農耕社会の形成』九州考古学会・嶺南考古学会　1998年

2）東大阪市教育委員会「－わが街再発見－東大阪市の古墳」1996年

図　　版

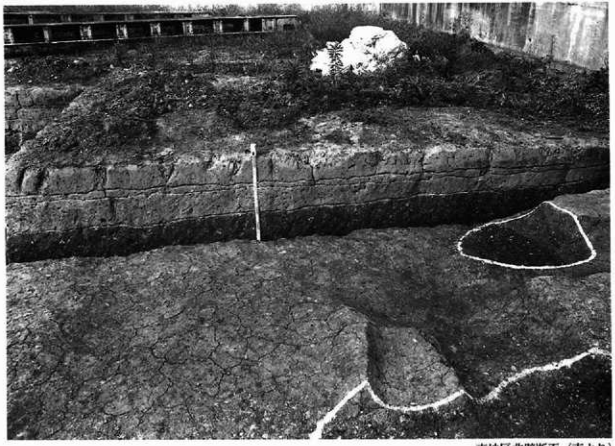
塚山古墳を望む（北より）

東地区調査開始風景（東より）

図版2　土層断面

東地区南壁断面（北より）

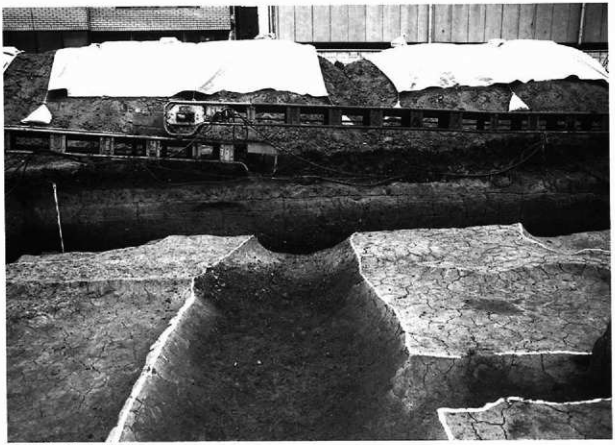
東地区南壁断面（北より）



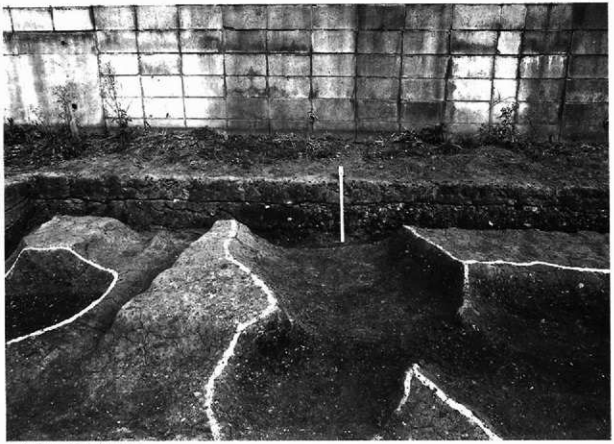
東地区北壁断面（南より）

東地区北壁断面（南より）

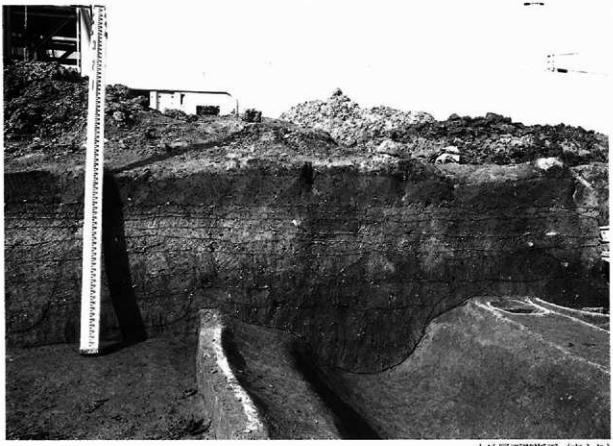
図版4 土層断面



東地区北壁断面（南より）



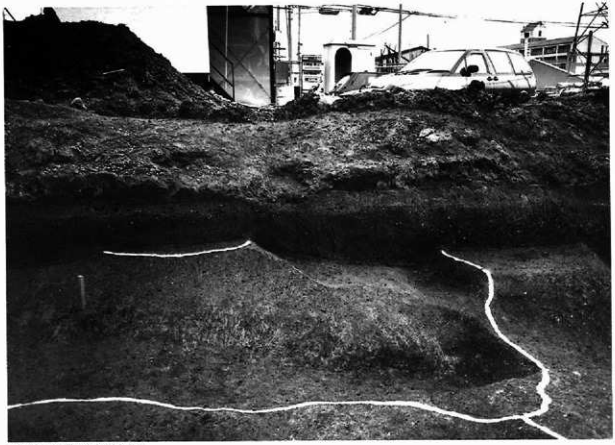
東地区東壁断面（西より）



中地区西壁断面（東より）

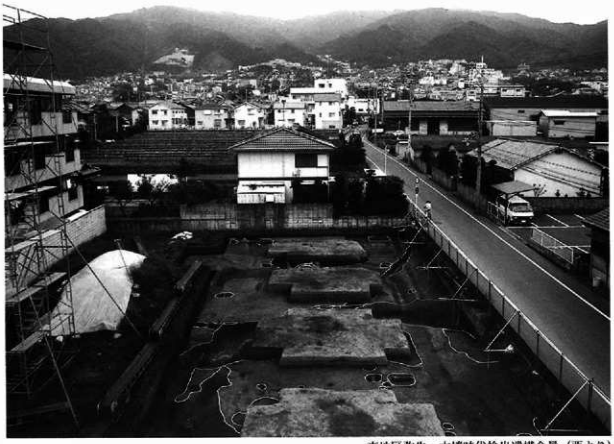
西地区西壁断面（東より）

図版6　土層断面

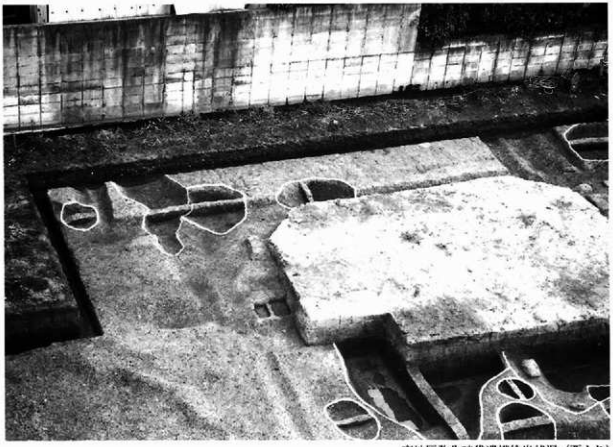


西地区南壁断面（北より）

西地区南壁断面（北より）



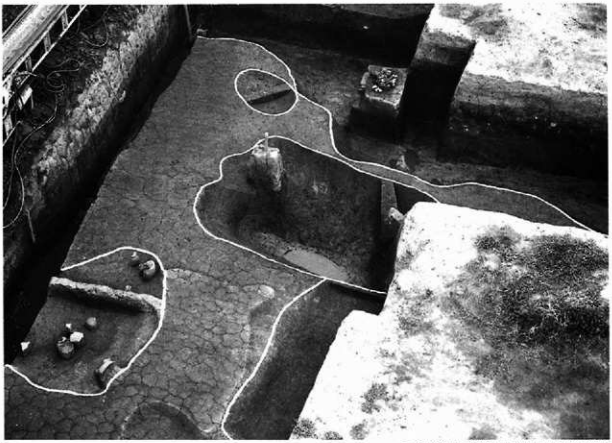
東地区弥生・古墳時代検出遺構全景（西より）



東地区弥生時代遺構検出状況（西より）

東地区弥生時代遺構検出状況（西より）

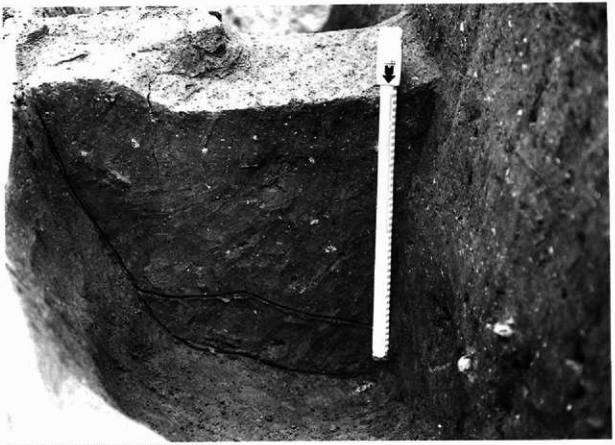
東地区弥生時代遺構検出状況（西より）



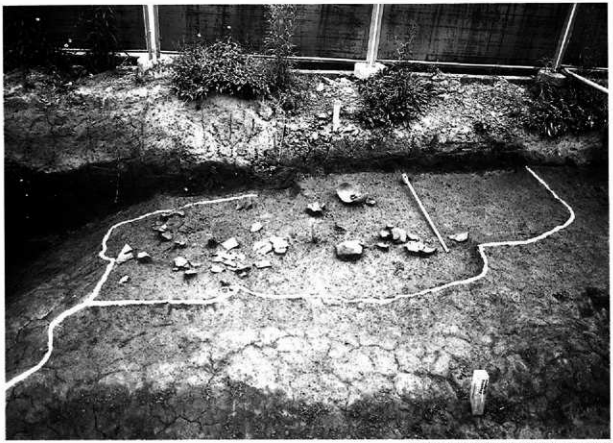
東地区弥生時代遺構検出状況（西より）

中地区弥生時代遺構（竪穴住居１）検出状況（北より）

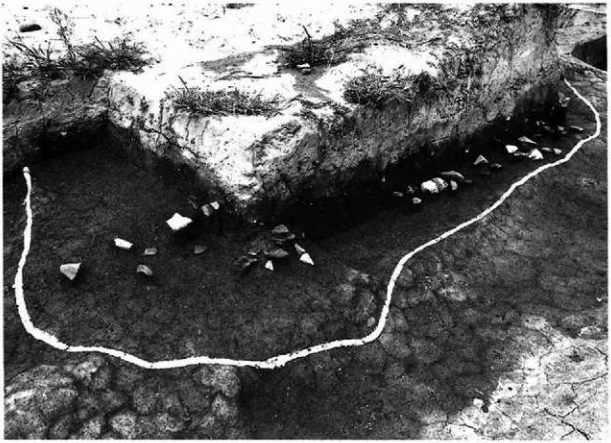
中地区土壙410検出状況（南より）



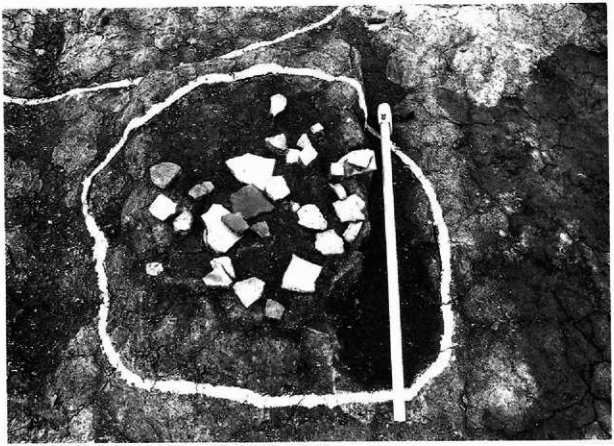
中地区土壙410堆積土検出状況（西より）



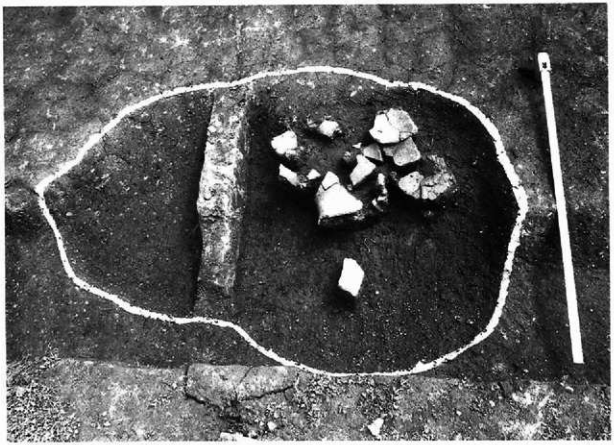
東地区土壙502遺物出土状況（北より）



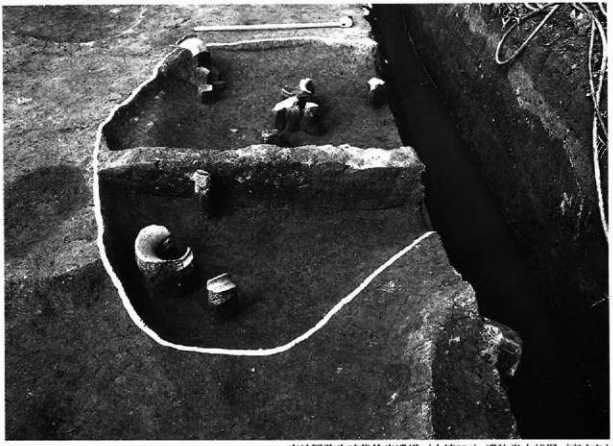
東地区土壙503遺物出土状況（南より）



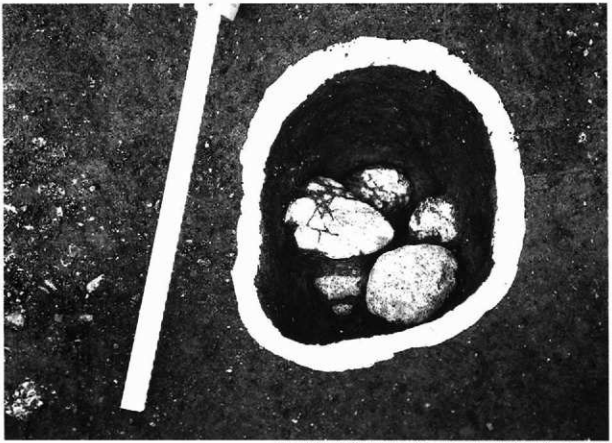
東地区弥生時代検出遺構（土壙3）　遺物出土状況（南より）



東地区弥生時代検出遺構（土壙2）　遺物出土状況（西より）



東地区弥生時代検出遺構（土壙234）遺物出土状況（東より）



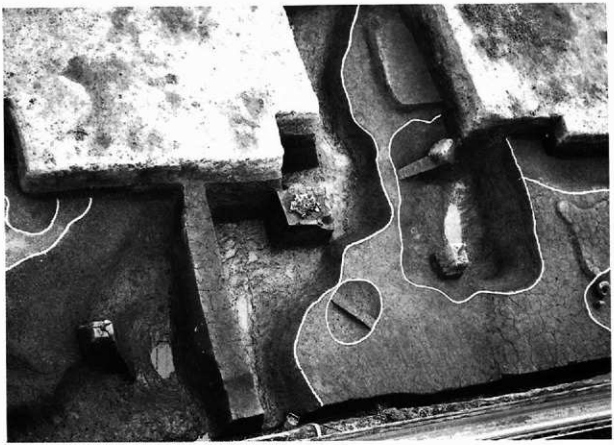
中地区弥生時代検出遺構（ピット440）根石検出状況（南より）

東地区１号墳周溝他検出状況（西より）

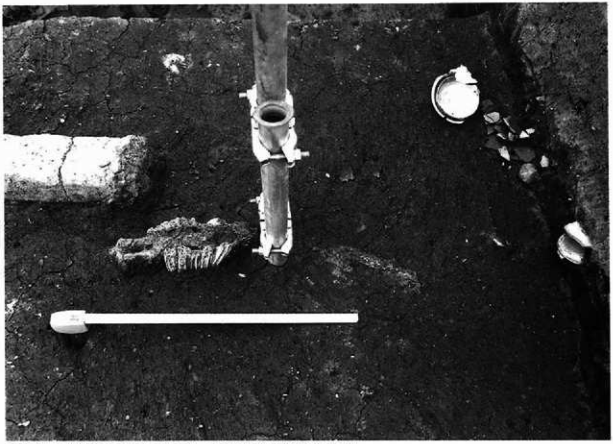
東地区溝・１号墳周溝他検出状況（北西より）

東地区竪穴住居２・１号墳周溝他検出状況（北東より）

東地区１号墳周溝北東隅帥式土器出土状況（北西より）



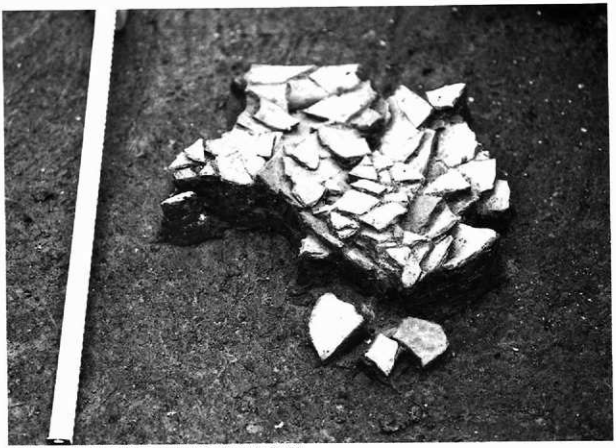
東地区1号墳周溝北西隅韓式土器出土状況（北より）



東地区1号墳周溝南東隅ウマ上顎骨・須恵器他出土状況（西より）

東地区1号墳周溝南東隅須恵器・土師器出土状況（東より）

東地区1号墳周溝北東隅韓式土器甕出土状況（南より）



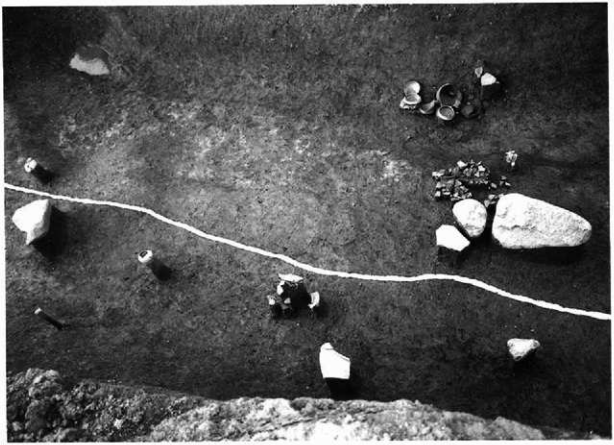
東地区１号墳周溝北西隅韓式土器甕出土状況（西より）

東地区１号墳周溝弥生時代前期土器出土状況（東より）

東地区南壁１号墳東側周溝堆積土検出状況（西より）

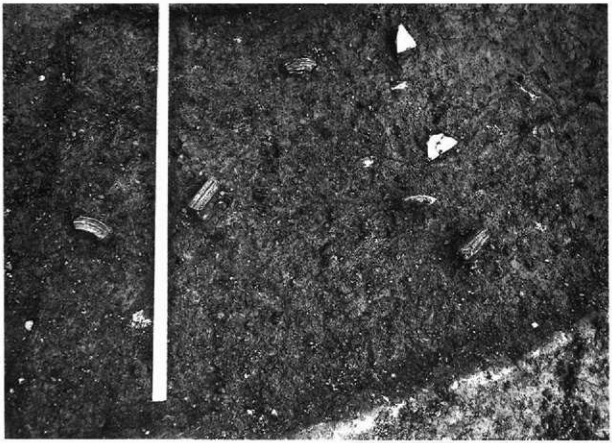
東地区１号墳東側周溝堆積土検出状況（南より）

中・西地区３・５・６号墳周溝検出状況（東より）



中・西地区５・６号墳周溝内供献土器出土状況（南東より）

西地区5号墳周溝内供献土器出土状況（西より）



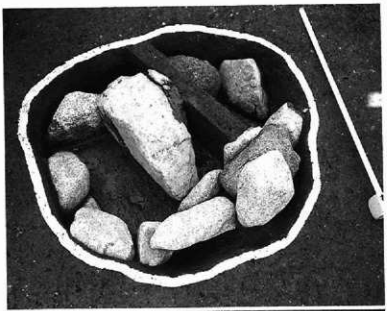
西地区5号墳周溝内ウマの歯出土状況（南より）

東地区西壁３・４号墳周溝堆積土検出状況（東より）

東地区４号墳北側周溝堆積土検出状況（西より）

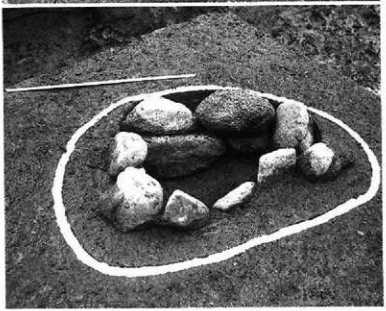
西地区落ち込み内供献須恵器壺出土状況（南より））

西地区落ち込み内供献須恵器甕出土状況（西より）



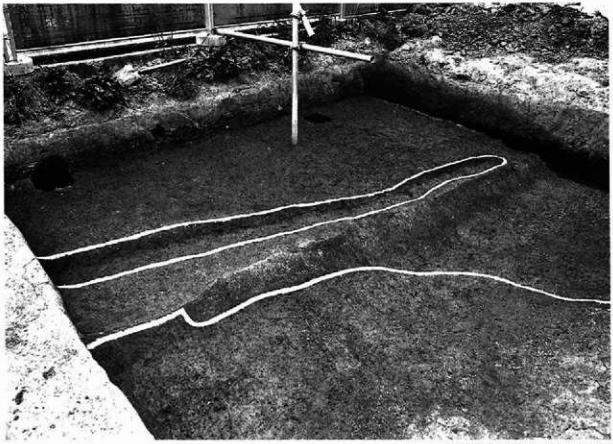
西地区小石室天井石落下状況（東より）

西地区小石室検出状況（西より）



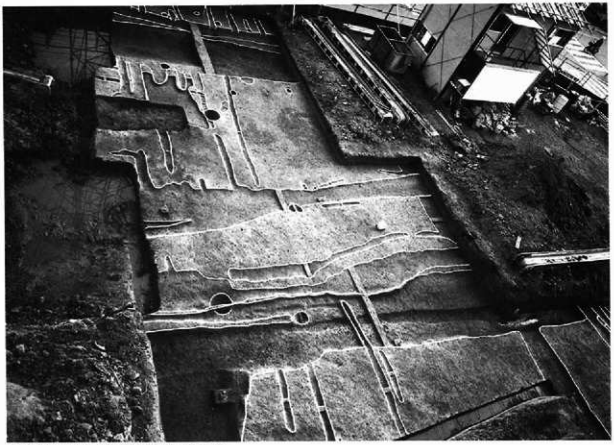
西地区小石室検出状況（西より）

東地区耕作用遺構検出状況（西より）

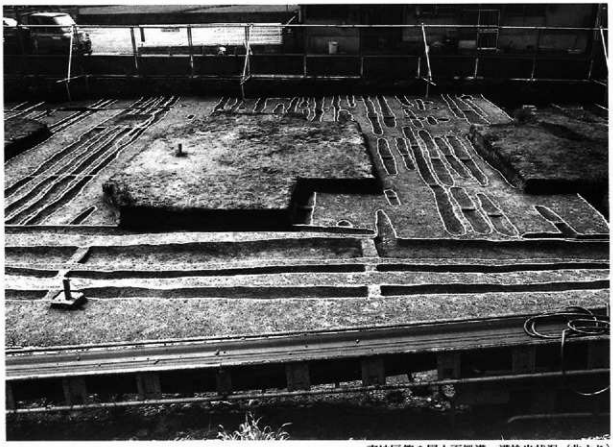


東地区溝459検出状況（北より）

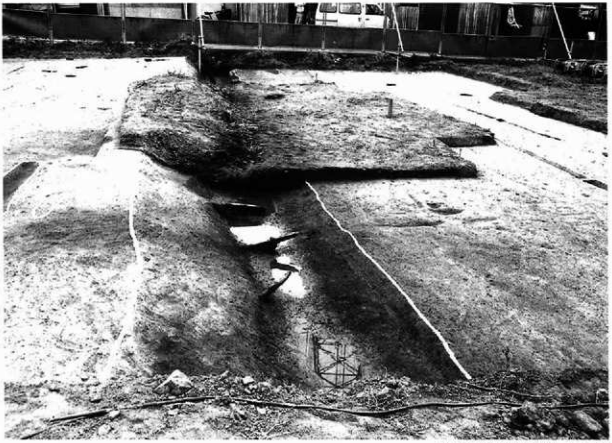
東地区溝334検出状況（西より）



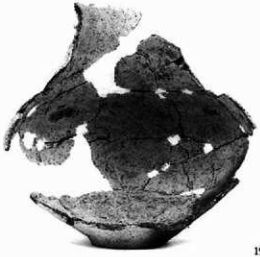
東地区第4層上面遺構検出状況（北より）



東地区第３層上面溝溝・溝検出状況（北より）



東地区水路２検出状況（北より）

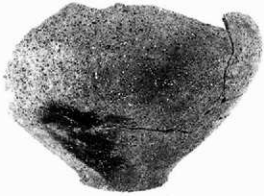


19'

19

20

11'



21

11

土壙1出土土器　壺・鉢

186

66

83

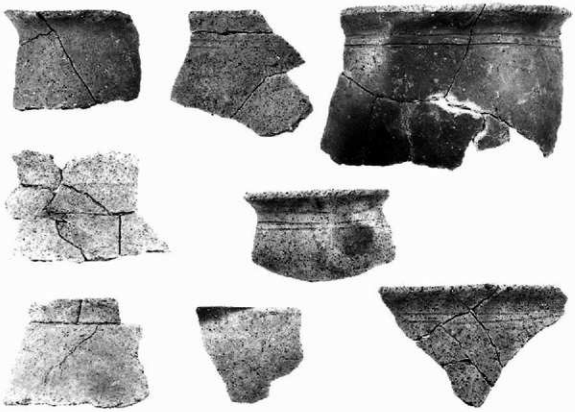
61

22

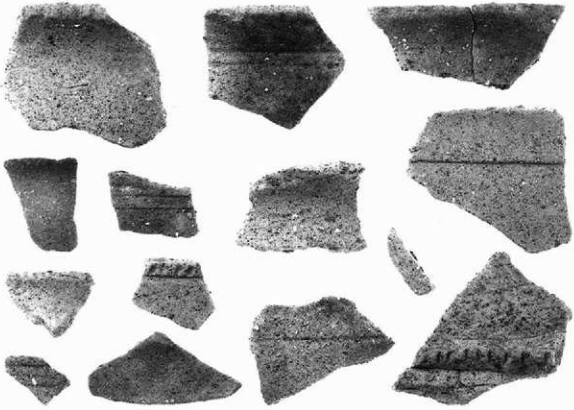
2

227

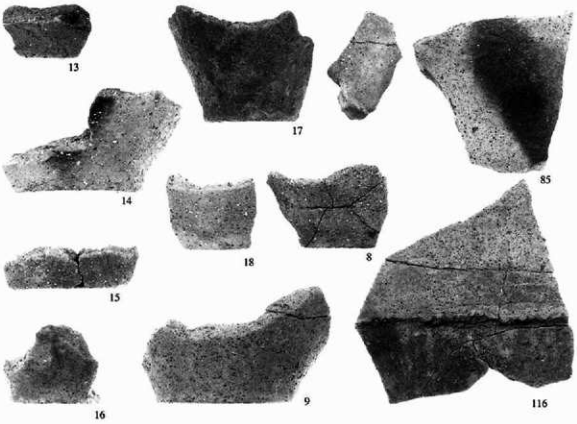
土壙1・504，溝812，ピット218，包含層出土土器　壺・甕・鉢・縄文土器深鉢



土壙1出土土器　壺・甕・鉢

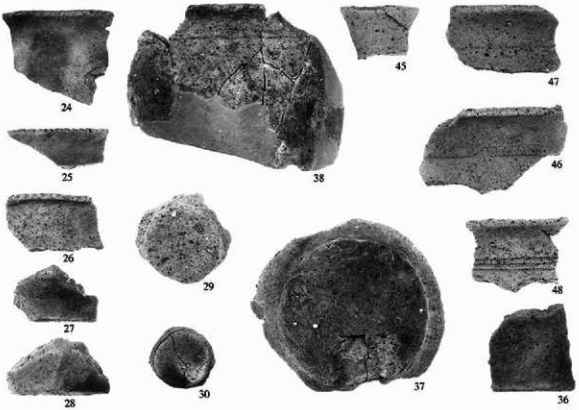


土壙1出土土器　壺・甕・鉢・甕蓋・縄文土器深鉢

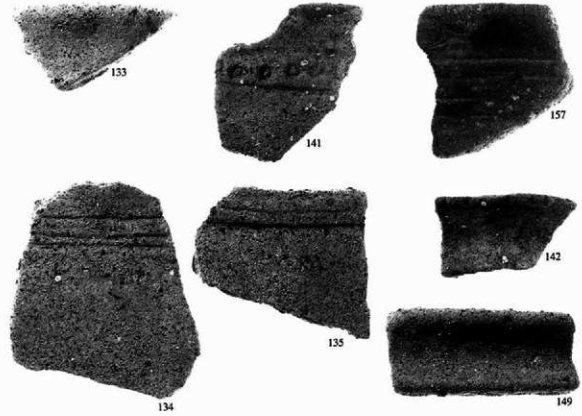


土壙1　出土土器　底部・壺・縄文土器深鉢

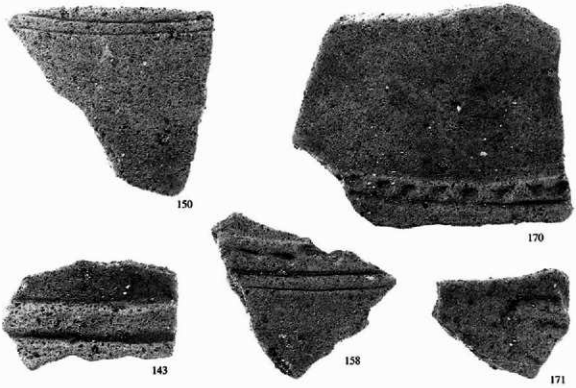
土壙234・包含層出土土器　小型壺・壺（ヘラ描き沈線）



土壙234出土土器　壺・甕・底部

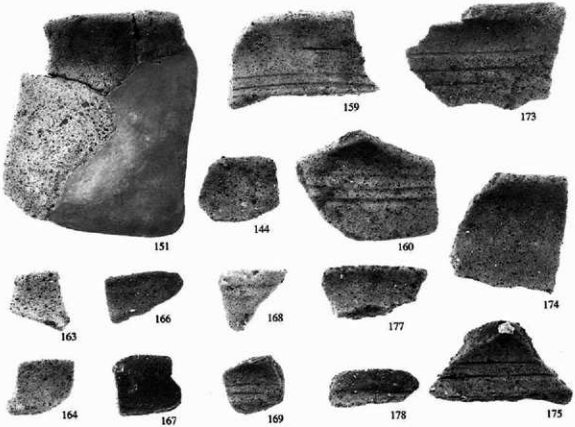


土壙234出土土器　甕

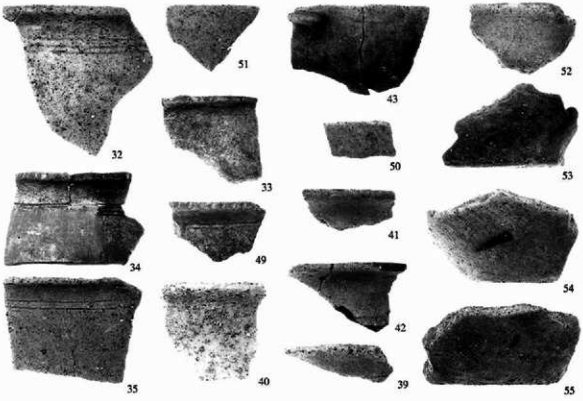


土壙234出土土器　壺

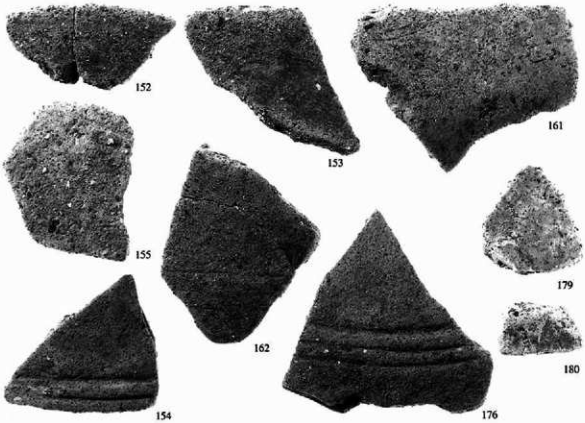
土壙234出土土器　鉢



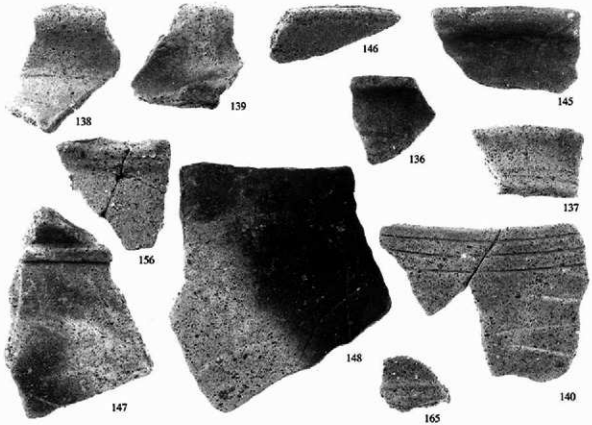
土壙410出土土器　甕



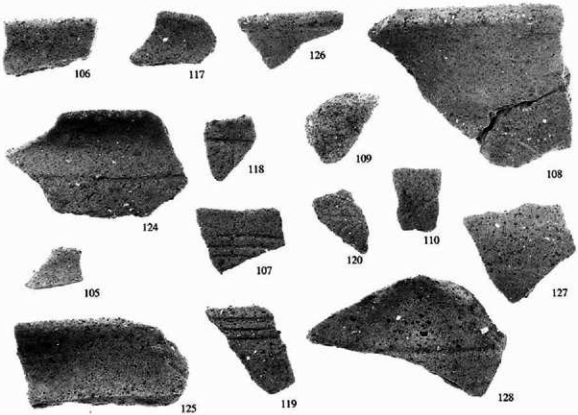
土壙410・517出土土器　壺・甕・鉢・底部



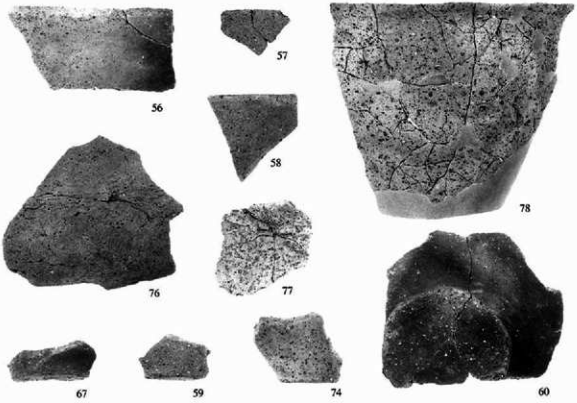
土壙410出土土器　壺



土壙517出土土器　壺・甕

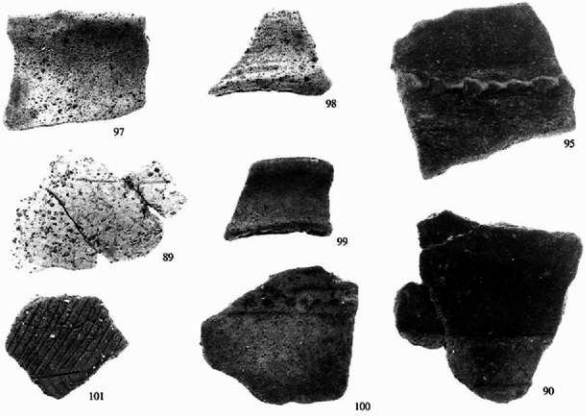


土壙2出土土器　壺・甕

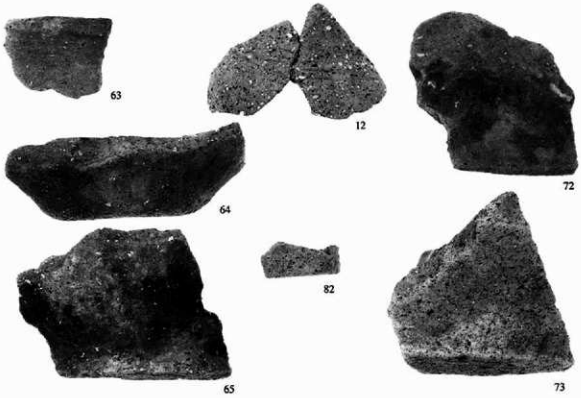


土壙2・3出土土器　壺・甕・底部

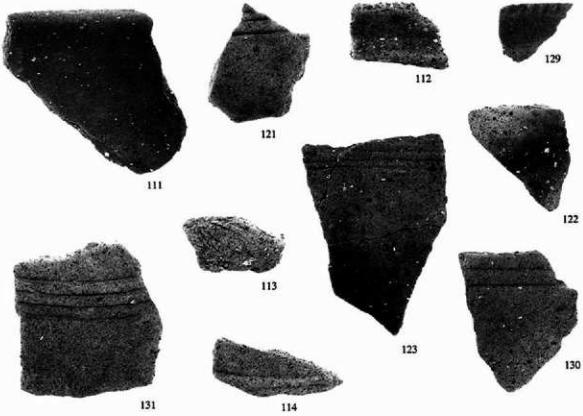
土壙503出土土器　甕



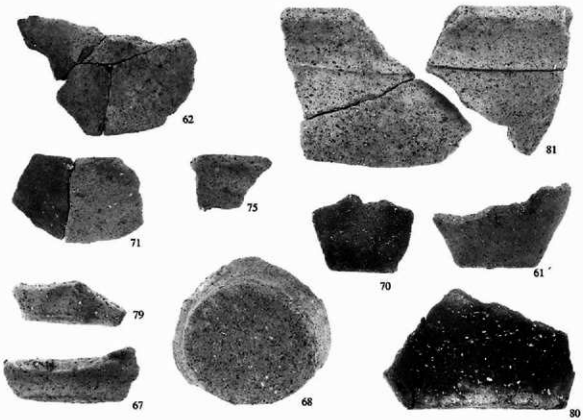
土壙503出土土器　甕・壺・縄文土器



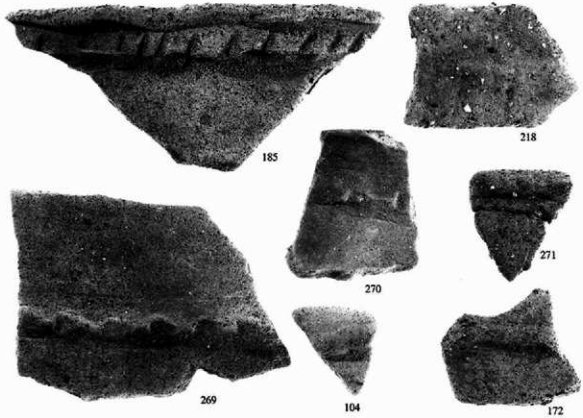
土壙503出土土器　壺・甕蓋・底部



土壙503出土土器　甕・壺

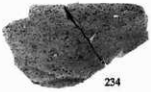


土壙504・包含層出土土器　壺・甕蓋・鉢・底部



土壙504・507・368，溝812，包含層出土土器　縄文土器深鉢

235

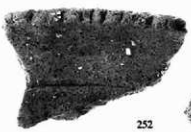

234

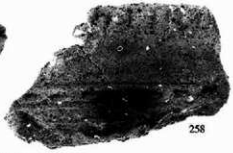
241

236

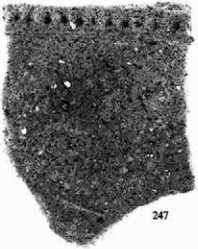
244

包含層出土土器　壺・甕・鉢・底部


252

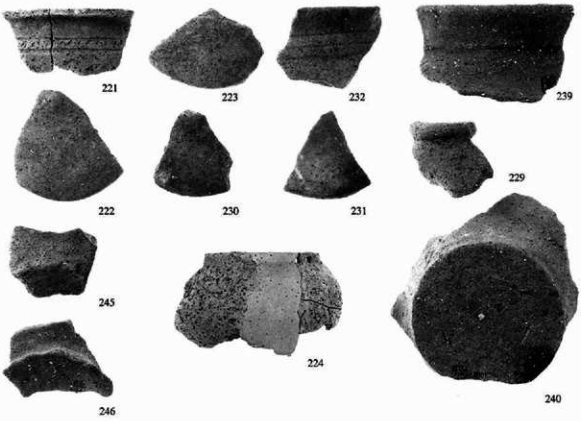

258

259

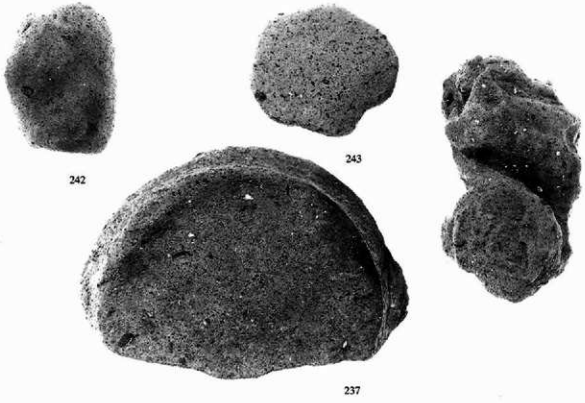

247

251

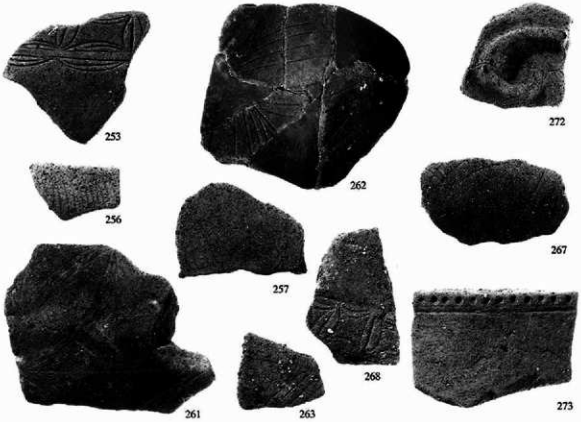
包含層出土土器　甕・鉢・縄文土器深鉢



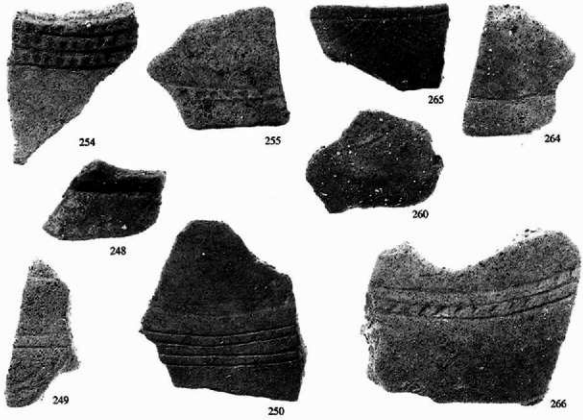
包含層出土土器　壺・甕・壺蓋・甕蓋・モミ痕跡が残る底部



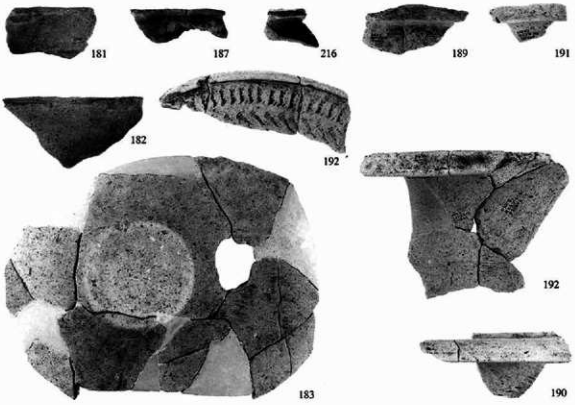
包含層出土土器　土錘・土製円板・モミ痕跡が残る底部・粘土板状土製品



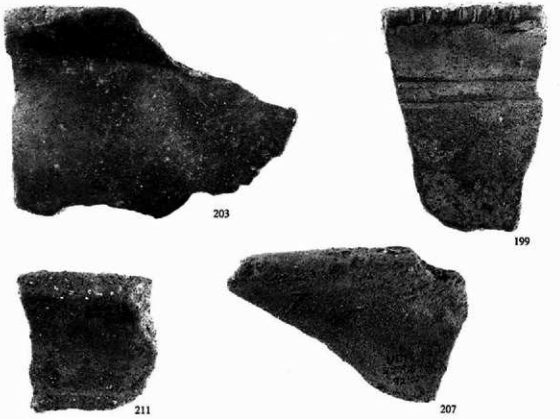
包含層出土土器　壺体部文様



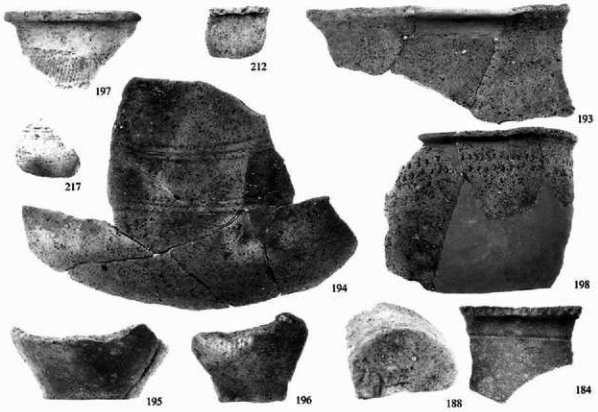
包含層出土土器　壺体部文様



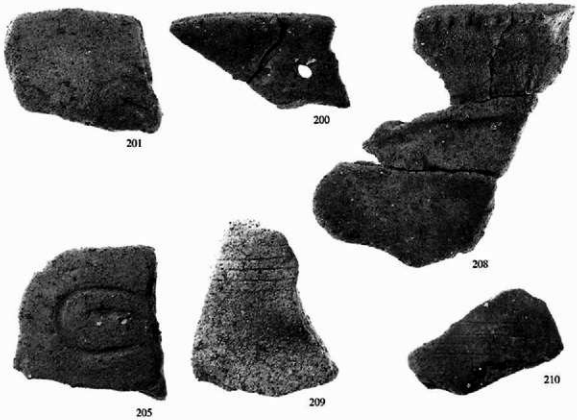
土壙518出土土器　壺・甕・高杯・底部



土壙518出土土器　混入弥生時代前期土器



出土土器　壺・甕・底部



溝505出土土器　混入弥生時代前期土器

215

219

204

202

206

213

214

220

溝812出土土器　壺・甕

226

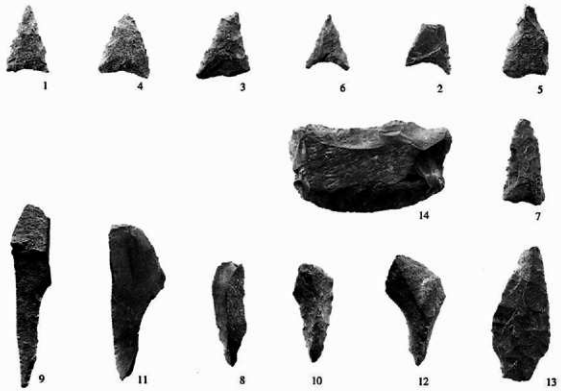
225

233

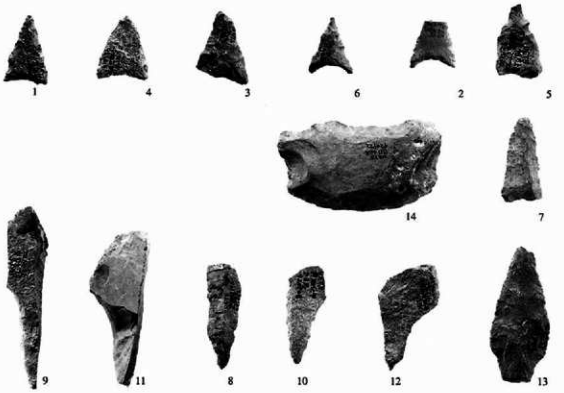
224

238

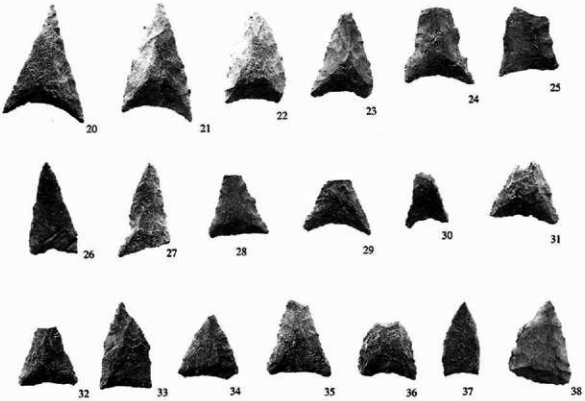
包含層出土土器　弥生土器



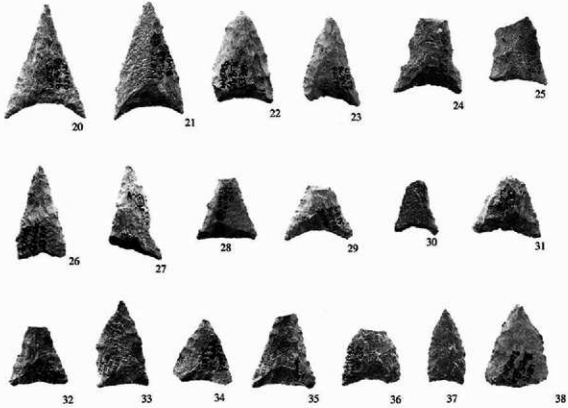
遺構・包含層出土石器　石鏃・石錐・石匙（A面）



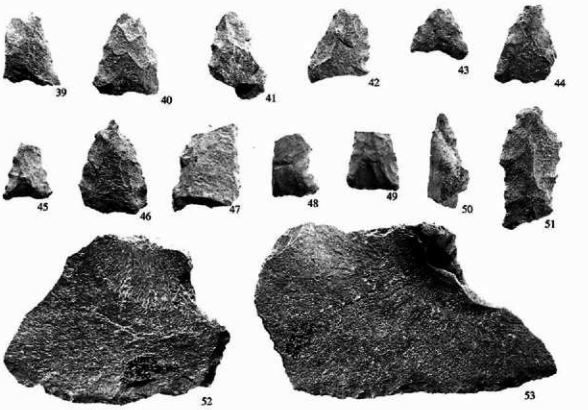
遺構・包含層出土石器　石鏃・石錐・石匙（B面）



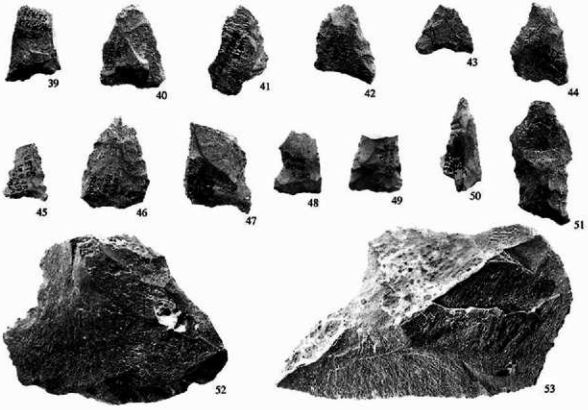
遺構・包含層出土石器　石鏃（A面）



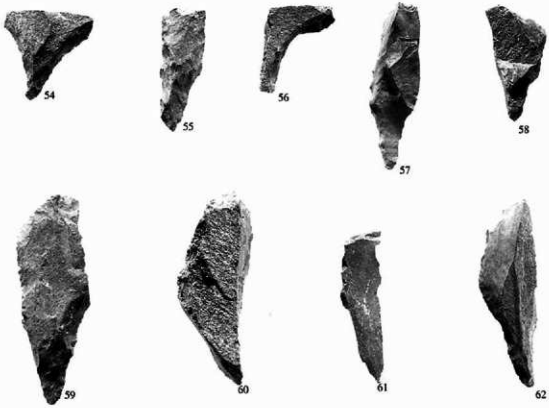
遺構・包含層出土石器　石鏃（B面）



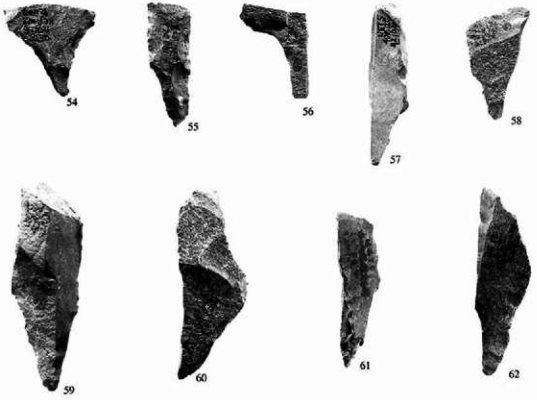
遺構・包含層出土石器　石鏃・削器（A面）



遺構・包含層出土石器　石鏃・削器（B面）

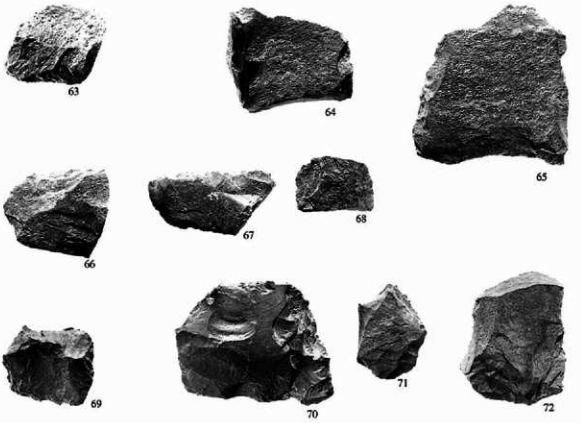


遺構・包含層出土石器　石錐（A面）

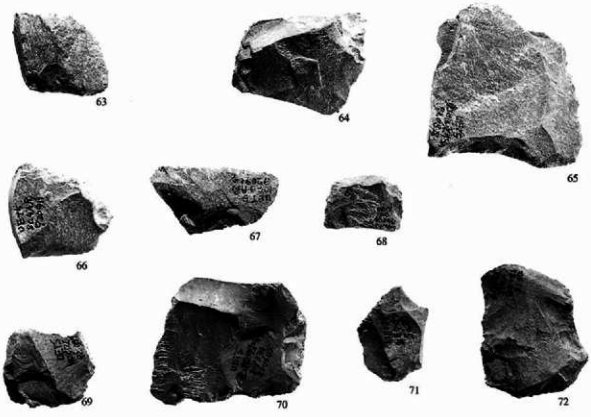


遺構・包含層出土石器　石錐（B面）

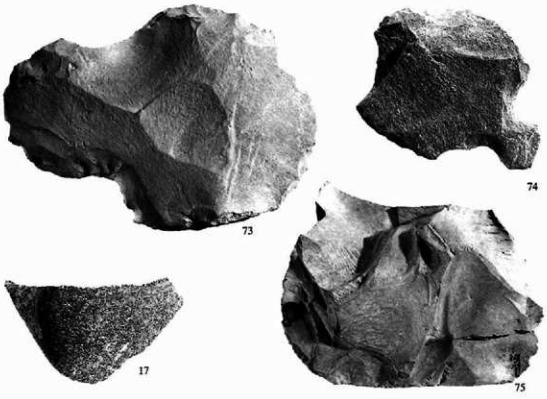
図版50　遺物（弥生時代前・中期）



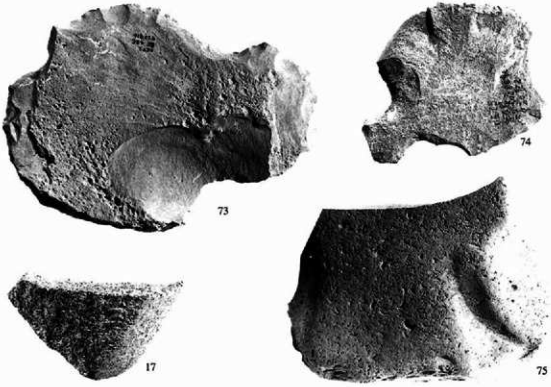
遺構・包含層出土石器　ピエス・エスキエ（A面）



遺構・包含層出土石器　ピエス・エスキエ（B面）



遺構・包含層出土石器　太型蛤刃石斧・削器・石匙・石核（A面）



遺構・包含層出土石器　太型蛤刃石斧・削器・石匙・石核（B面）

15

16

遺構・包含層出土石器　太型蛤刃石斧・砥石（A面）

15

16

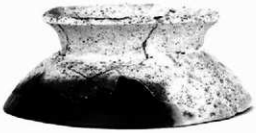
遺構・包含層出土石器　太型蛤刃石斧・砥石（B面）

293

285

307

292



276

310

1号墳出土土器　土師器壺・須恵器杯蓋・韓式土器甕

図版54　遺物（古墳時代中期）

281

284

290

291

283

288

289

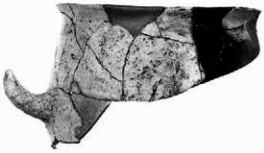
301

1号墳出土土器　土師器高杯・甕

317

296

317'



295

303

306

1号墳出土土器　韓式土器甕・甑・鍋，土師器甑

274

309

311

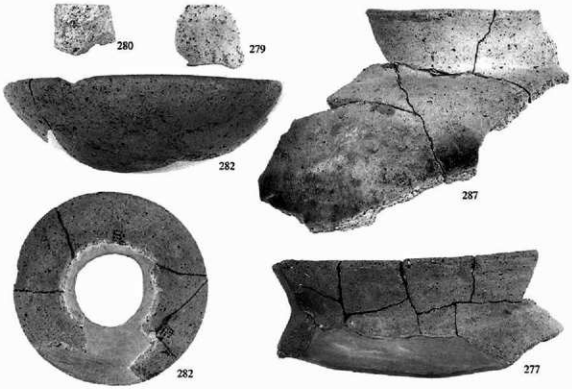
315

286

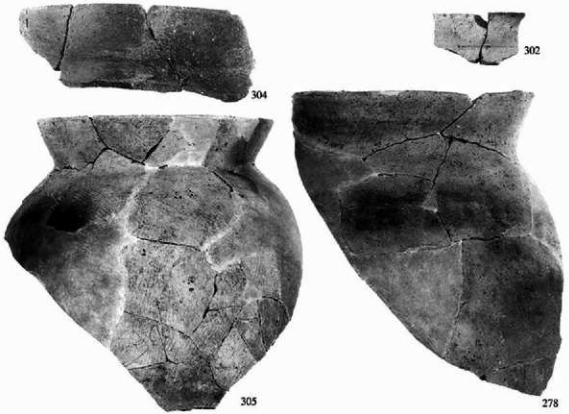
320

321

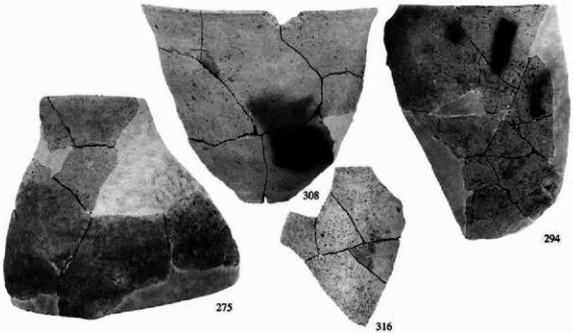
1号墳出土土器　土師器甕・韓式土器長胴甕・須恵器杯蓋・杯身・高杯蓋・高杯



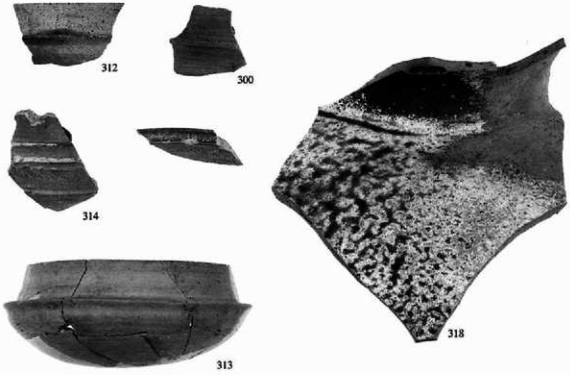
1号墳出土土器　土師器甕・高杯・製塩土器



1号墳出土土器　土師器甕・壺

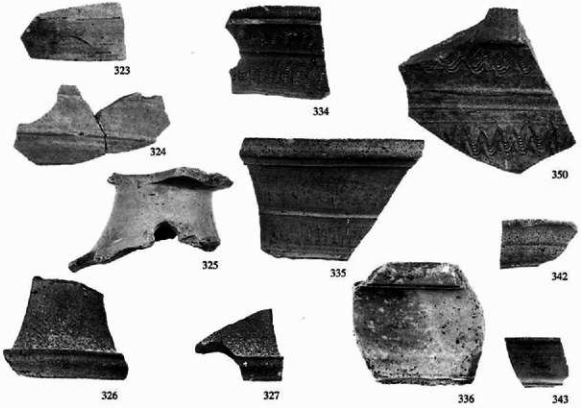


1号墳出土土器　土師器甕・甑



1号墳出土土器　須恵器椀・甕・杯身・高杯・甑

1号墳出土遺物　鉄製品・鉄鏃



5号墳出土遺物　須恵器甕・高杯・杯身・杯蓋・甑

331

332

331・332

338

339

338・339

340

341

340・341

5号墳出土器　須恵器杯身・杯蓋

346

347

346・347

348

349

348・349

333

322

5号墳出土土器　須恵器杯身・杯蓋

345

344

330

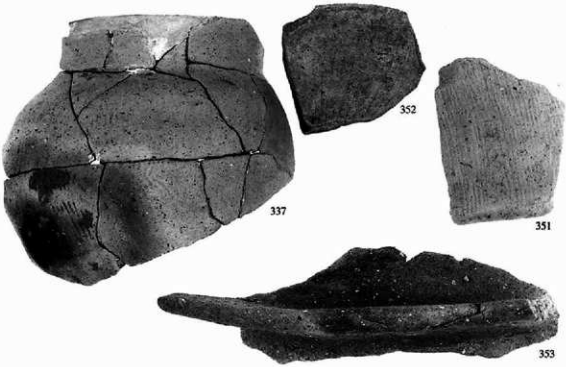
328

354

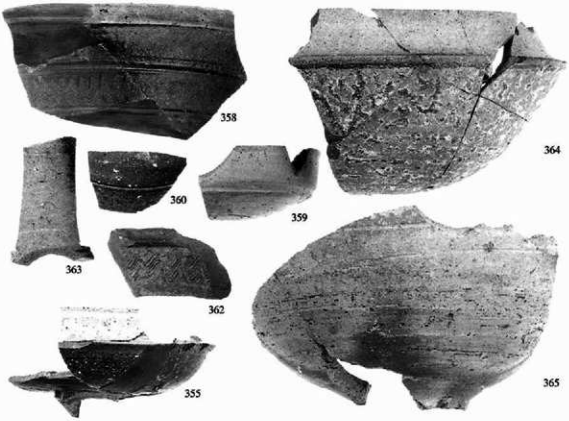
329

320

5号墳出土土器　土師器甕・羽釜・甑・須恵器壺・高杯



4・5・6号墳出土土器　土師器甕・羽釜・杯・円筒埴輪



4・6号墳出土土器　須恵器脚付壺・甕・高杯・杯蓋

369

367

386

368

356

370

6号墳・傾斜地・溝512出土土器　須恵器壺・長頸壺・甕・鉢

357

371

382

361

6号墳・傾斜地・包含層など出土土器　須恵器杯身・高杯・平瓶・甕

372

375

377

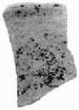
379

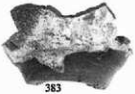
388

387

373

380




383

389

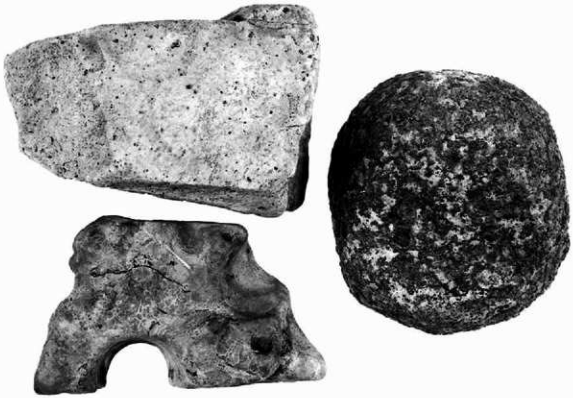
381

374

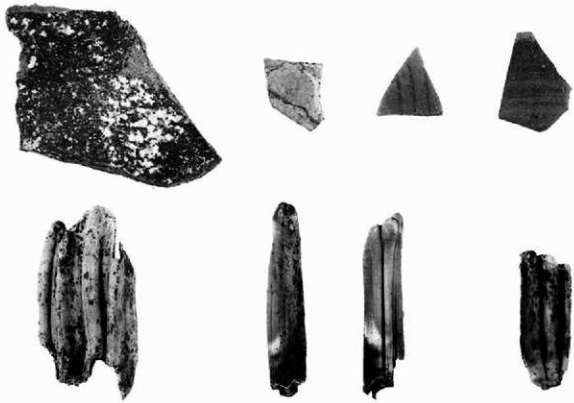
385

376

384



4号墳周溝・包含層出土遺物　砥石・加工痕のある石材



4・5号墳周溝・包含層出土遺物　国産陶器（緑釉・備前）・中国製磁器（青磁）・ウマの歯

報告書抄録

ふりがな	うえつけいせきだい　じはっくつちょうさほうこく
書名	植附遺跡第5次発掘調査報告
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	福永信雄
編集機関	財団法人東大阪市文化財協会
所在地	〒577-0843　東大阪市荒川3丁目28−21
発行年月日	1999年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	市町村コード	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
植附遺跡（うえつけ）	東大阪市中石切町3丁目（ひがしおおさかしなかいしきりちょう ちょうめ）	27227	1992年8月5日 〜11月16日	571㎡	共同住宅 建設工事

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落・古墳	弥生時代前期 古墳時代中〜後期 飛鳥時代 鎌倉時代	竪穴住居・土壙 小型低方墳 小石室	弥生土器・石器・須恵器・土師器・韓式土器・製塩土器	弥生時代前期初頭の竪穴住居などの遺構・遺物　古墳時代中期後半から飛鳥時代にかけての小型低方墳と供献遺物

植附遺跡第5次発掘調査報告書

1999年3月31日

発行所　財団法人　東大阪文化財協会

印刷所　大日印刷株式会社